

令和4年度
北九州市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
報告書

令和5年3月
北九州市保健福祉局

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象者	1
3. 調査件数	1
4. 調査方法	1
5. 調査項目	1
6. 調査実施期間	1
7. 回収状況	1
8. 調査の企画・実施等	1
9. 集計・分析上の注意事項	2
第2章 回答者の属性	3
1. 性別	3
2. 年齢	3
3. 家族構成	4
4. 暮らし向き	4
第3章 評価項目別の結果	5
1. 生活機能	5
(1) 運動機能の状況	5
(2) 身長・体重の状況	7
(3) 口腔機能の状況	9
(4) 閉じこもり傾向	13
(5) 認知機能（物忘れ）の状況	19
2. うつの傾向	21
3. 転倒リスクの状況	23
4. 手段的日常生活動作（IADL）	25
第4章 日常生活	27
1. 交流の場への参加状況	27
(1) ボランティアのグループへの参加	27
(2) スポーツ関係のグループやクラブへの参加	29
(3) 趣味関係のグループへの参加	31
(4) 学習・教養サークルへの参加	33

(5) 通いの場への参加.....	35
(6) 老人クラブへの参加.....	37
(7) 町内会・自治会への参加.....	39
(8) 収入のある仕事への参加.....	41
(9) 地域活動への参加意向.....	43
(10) 地域活動の企画・運営への参加意向.....	45
2. たすけあいについて.....	47
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人.....	47
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人.....	49
(3) 看病や世話をしてくれる人.....	51
(4) 看病や世話をしてあげる人.....	53
3. 認知症に係る相談.....	55
(1) 自身や家族の認知症の症状.....	55
(2) 認知症に関する相談窓口の把握.....	57
第5章 健康・疾病.....	59
1. 疾病.....	59
(1) 高血圧.....	60
(2) 脳卒中.....	62
(3) 心臓病.....	64
(4) 糖尿病.....	66
(5) 筋骨格の病気.....	68
(6) がん.....	70
2. 主観的健康感.....	72
(1) 健康状態.....	72
(2) 幸福感.....	74
第6章 介護.....	76
1. 介護・介助の状況.....	76
【参考】 前回比較（一般高齢者・要支援高齢者別、性別、年齢別）.....	78
【参考】 調査票.....	98

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

要介護状態になる前の高齢者について、

- ・要介護状態になる各種リスクの発生状況(心身の状態など)
- ・各種リスクに影響を与える日常生活の状況(生活習慣など)

などを把握し、地域の抱える課題を特定することを目的とする。

2. 調査対象者

令和4年10月1日時点で市内在住の65歳以上の一般高齢者及び要支援者。

3. 調査件数

10,000件

（	一般高齢者:5,000件	）
	要支援者:5,000件	

4. 調査方法

郵送により調査票を配布し、回答後に郵送により返送する郵送法。

5. 調査項目

厚生労働省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」調査票の項目を使用。

※生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い体制づくり、介護予防の推進等のために必要な社会資源の把握に資する項目35問。

6. 調査実施期間

令和4年12月12日(月)～令和5年1月10日(火)

7. 回収状況

回答数:6,121件(回答率:61.2%)

（	一般高齢者:3,050件(回答率:61.0%)	）
	要支援者:3,071件(回答率:61.4%)	

8. 調査の企画・実施等

調査企画及び分析:北九州市保健福祉局介護保険課

調査実施及び集計:株式会社サーベイリサーチセンター

9. 集計・分析上の注意事項

- ・比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問については、合計が100%を超える場合がある。
- ・クロス集計表の表側の項目については無回答があるため、回答者数の内訳の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。
- ・基本的に日常生活圏域ごとに集計・分析している。

※日常生活圏域とは、住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件や人口、交通事情、その他既存施設やサービスの整備状況を踏まえ設定されている区域であり、北九州市においては以下の24圏域が設定されている。

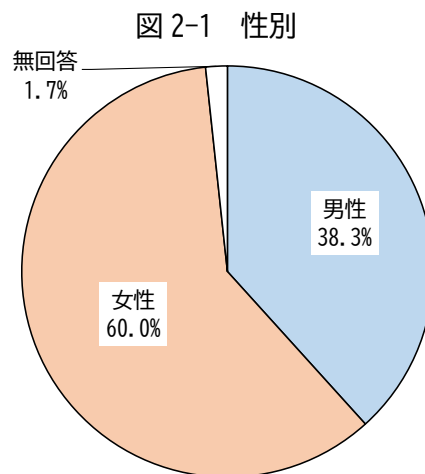
表 1-1 北九州市の日常生活圏域

日常生活圏域	小 学 校 区 (目安)
門司 1	大積、白野江、柄杓田、松ヶ江北、松ヶ江南
門司 2	小森江東、田野浦、港が丘、門司海青、門司中央
門司 3	小森江西、大里東、大里南、大里柳、西門司、萩ヶ丘、藤松
小倉北 1	足原、霧丘（小倉南区を除く）、桜丘、寿山、富野
小倉北 2	藍島、足立、貴船、小倉中央、三郎丸、中島、城野（小倉南区を除く）
小倉北 3	到津、井堀、中井、西小倉、日明、高見（八幡東区を除く）
小倉北 4	泉台、今町、清水、南丘（小倉南区を除く）、南小倉
小倉南 1	朽網、曾根、曾根東、田原、貫、東朽網
小倉南 2	葛原、高蔵、沼、湯川、吉田
小倉南 3	北方、城野（小倉北区を除く）、横代、若園、霧丘（小倉北区を除く）
小倉南 4	企救丘、広徳、志井、徳力、長尾、守恒、南丘（小倉北区を除く）
小倉南 5	市丸、合馬、長行、新道寺、すがお
若松 1	赤崎、小石、深町、藤木、若松中央、くきのうみ
若松 2	青葉、江川、鴨生田、高須、花房、二島、ひびきの（八幡西区を除く）
八幡東 1	祝町、枝光、高槻、高見（小倉北区を除く）、槻田、ひびきが丘
八幡東 2	大蔵、河内、皿倉、花尾（八幡西区を除く）、八幡
八幡西 1	赤坂、浅川、医生丘、折尾東、本城、光貞、ひびきの（若松区を除く）
八幡西 2	永犬丸、永犬丸西、折尾西、則松、八枝
八幡西 3	青山、穴生、熊西、竹末、萩原、引野
八幡西 4	黒畑、黒崎中央、筒井、鳴水、花尾（八幡東区を除く）
八幡西 5	大原、上津役、塔野、中尾、八児
八幡西 6	池田、香月、楠橋、木屋瀬、千代、星ヶ丘
戸畑 1	あやめが丘、戸畑中央、中原
戸畑 2	一枝、大谷、鞆ヶ谷、天籟寺、牧山

第2章 回答者の属性

1. 性別

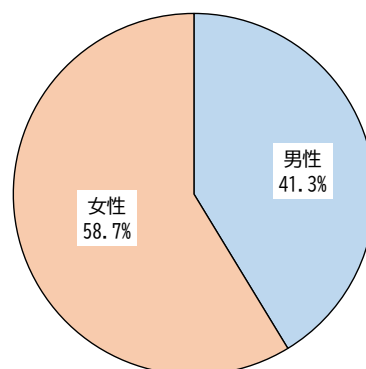
	回答者数	構成比率
男性	2,345	38.3%
女性	3,671	60.0%
無回答	105	1.7%
全体	6,121	100%



【参考】65歳以上の北九州市民における男女の割合
(出典：令和4年9月30日時点の北九州市住民基本台帳)

	人数	構成比率
男性	119,954	41.3%
女性	170,592	58.7%
全体	290,546	100%

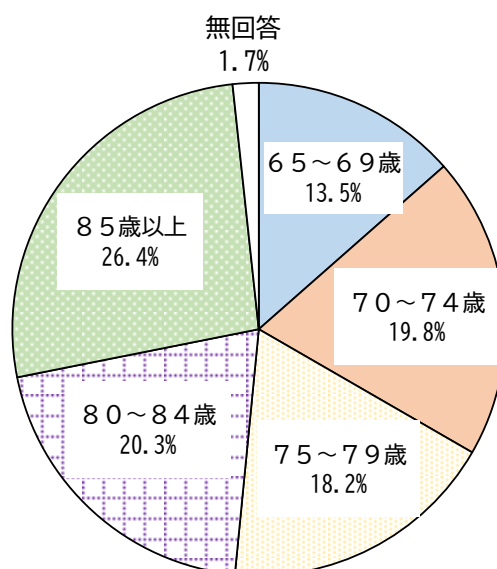
図 2-1-1 性別 (北九州市全体)



2. 年齢

	回答者数	構成比率	配布数
65～69歳	828	13.5%	1,423
70～74歳	1,210	19.8%	2,028
75～79歳	1,117	18.2%	1,814
80～84歳	1,243	20.3%	2,049
85歳以上	1,618	26.4%	2,686
無回答	105	1.7%	
全体	6,121	100%	10,000

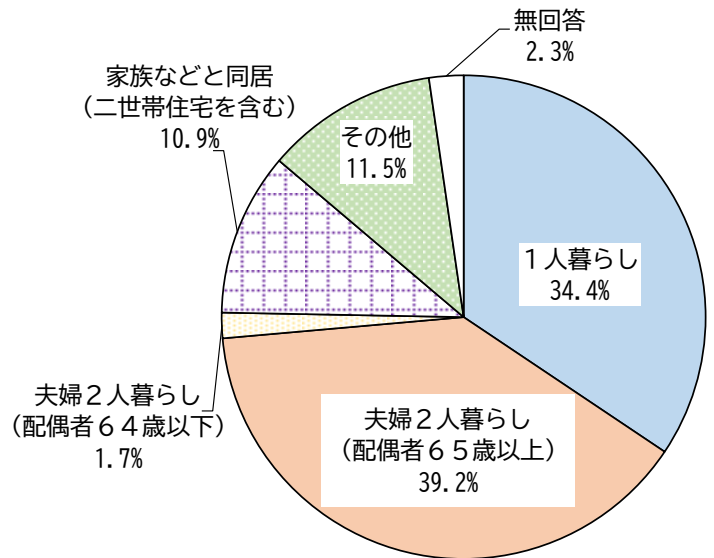
図 2-2 年齢



3. 家族構成

	回答者数	構成比率
1人暮らし	2,103	34.4%
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	2,399	39.2%
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	104	1.7%
家族など同居 (二世帯住宅を含む)	666	10.9%
その他	706	11.5%
無回答	143	2.3%
全体	6,121	100%

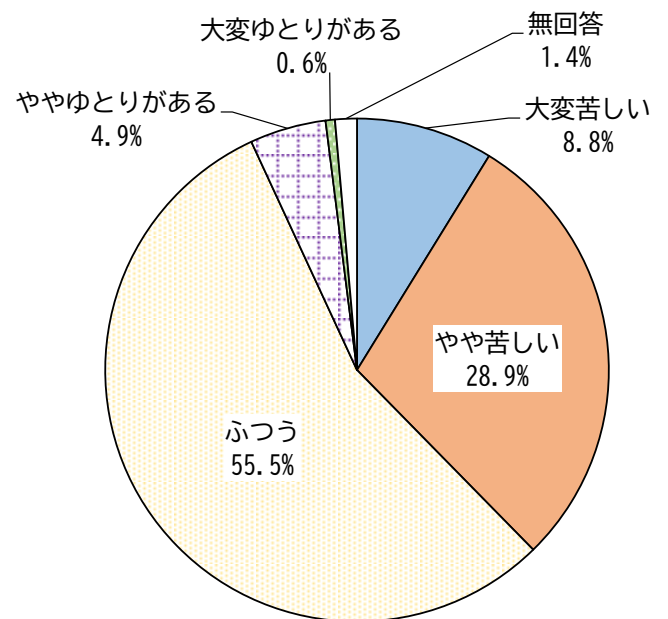
図 2-3 家族構成



4. 暮らし向き

	回答者数	構成比率
大変苦しい	538	8.8%
やや苦しい	1,769	28.9%
ふつう	3,397	55.5%
ややゆとりがある	299	4.9%
大変ゆとりがある	34	0.6%
無回答	84	1.4%
全体	6,121	100%

図 2-4 暮らし向き



第3章 評価項目別の結果

1. 生活機能

(1) 運動機能の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表3-1に示した5つの設問に対する回答結果により、運動機能の低下のリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当（3点以上）」の割合は、市全体でみると、40.2%となっている。

一般・要支援別をみると、一般高齢者が15.2%、要支援高齢者が65.0%となっており、要支援高齢者が49.8ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が30.2%、女性が46.4%となっており、女性が16.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当（3点以上）」の割合が高くなっており、85歳以上では62.8%となっている。また、前期高齢者が18.7%、後期高齢者が51.0%と、後期高齢者が32.3ポイント高くなっている。

図3-1-① 運動機能の状況 【全域】

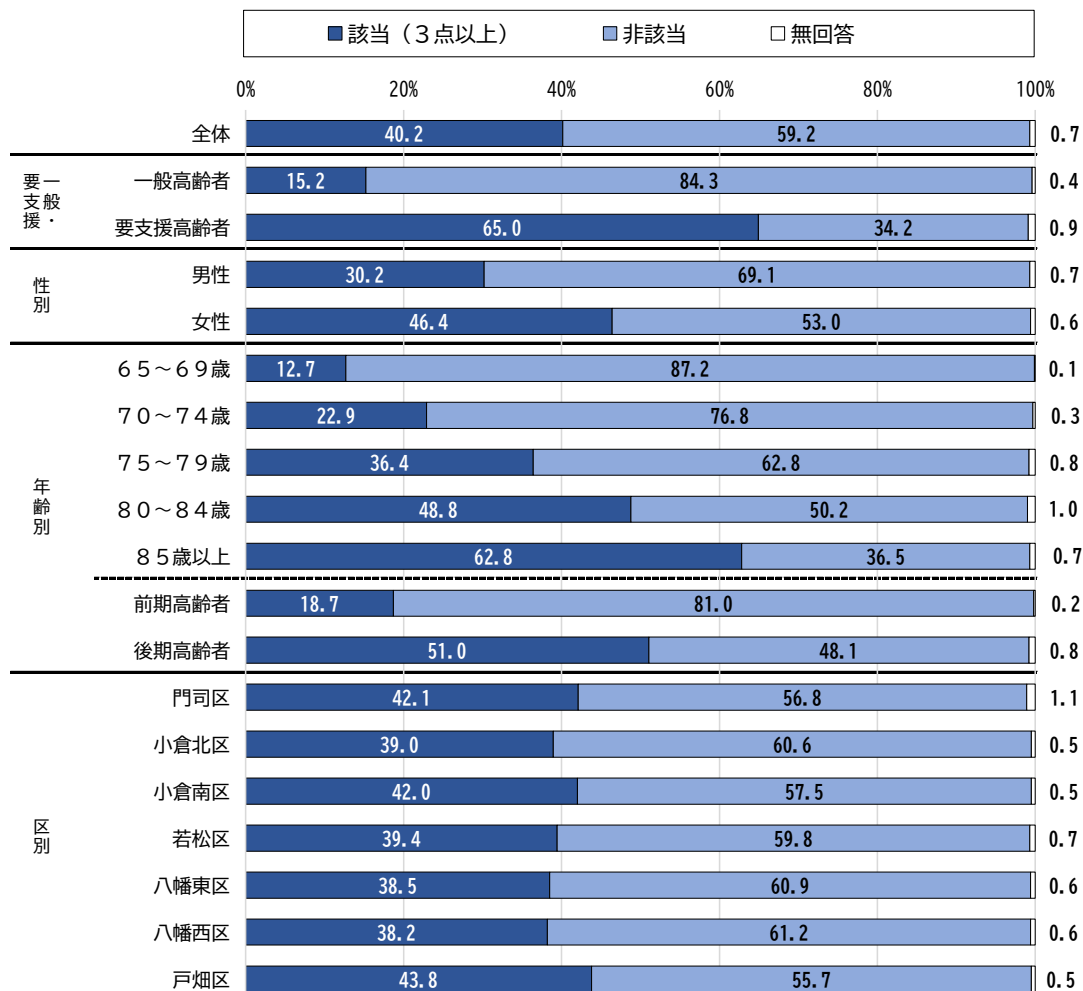


図 3-1-② 運動機能の状況 【日常生活圏域別】

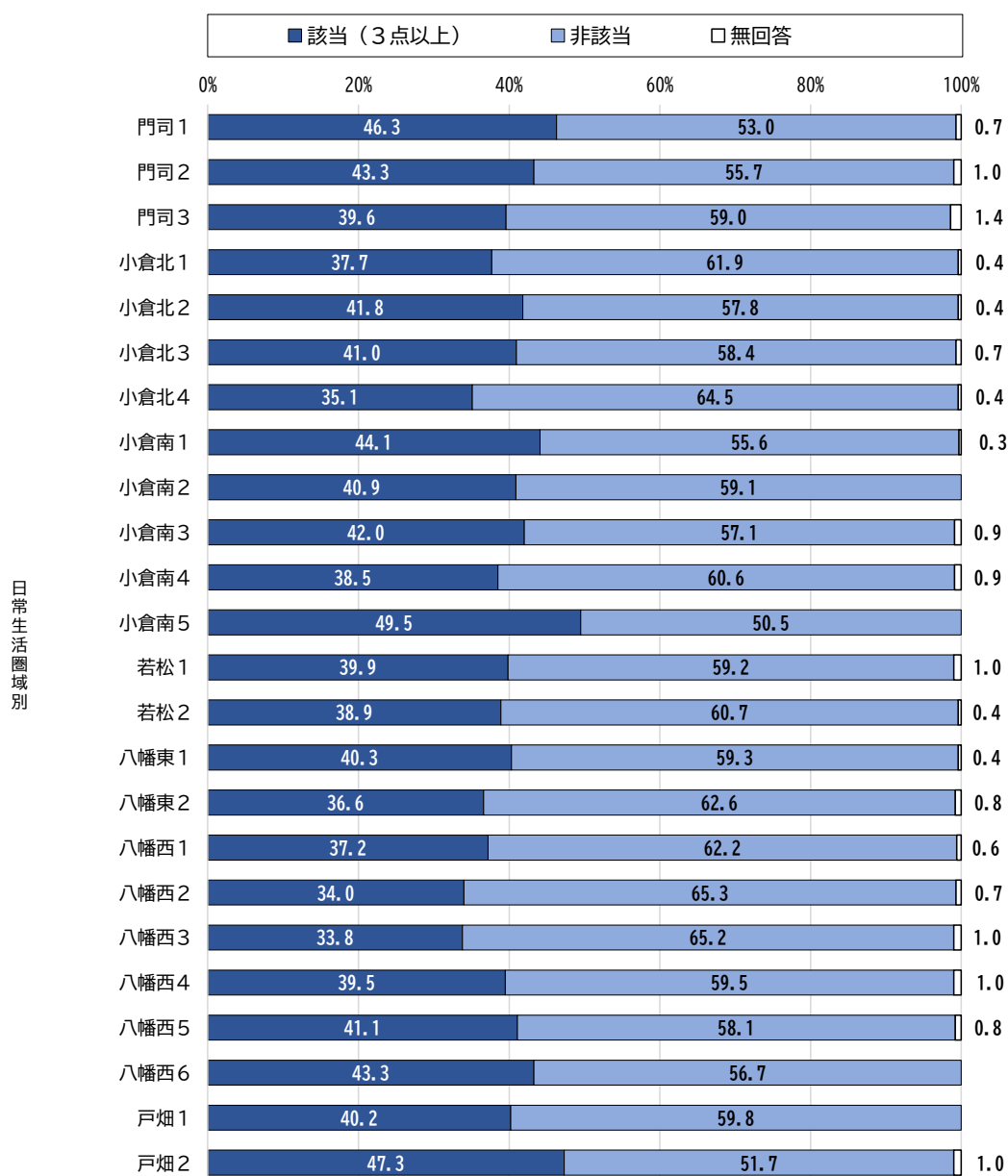


表 3-1 評価に用いた設問と評価基準 (運動機能の状況)

設問		配点	評価基準
問 2-Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない (1点)	3点以上が リスク該当者
問 2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない (1点)	
問 2-Q3	15分位続けて歩いていますか	できない (1点)	
問 2-Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある 1度ある (1点)	
問 2-Q5	転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である やや不安である (1点)	

(2) 身長・体重の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表3-2に示した設問に対する回答結果をもとに算出したBMIにより、低栄養のリスクについて評価を行った。

BMIが18.5以下である「リスク該当が疑われる」の割合は、市全体で見ると、9.4%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が8.3%、要支援高齢者が10.5%となっており、要支援高齢者がやや高くなっている。

性別にみると、男性が7.2%、女性が10.8%となっており、女性が3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、85歳以上が10.6%とやや高くなっている。また、前期高齢者が8.9%、後期高齢者が9.6%となっている。

図3-2-① 身長・体重の状況 【全域】

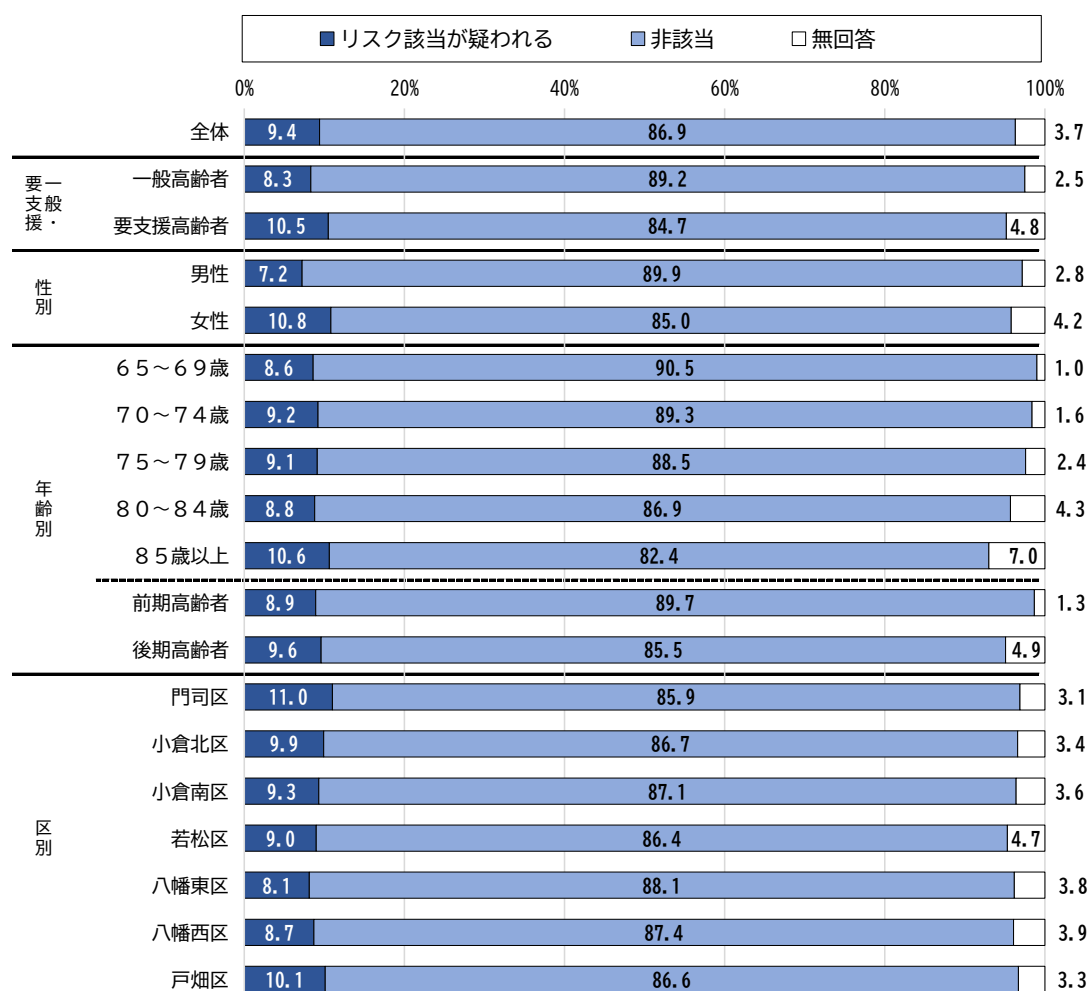


図 3-2-② 身長・体重の状況 【日常生活圏域別】



表 3-2 評価に用いた設問と評価基準（身長・体重の状況）

設問		評価基準
問3-Q1	身長・体重 (計算式) BMI = 体重 [kg] / (身長 [m] × 身長 [m])	BMI ≤ 18.5 が リスク該当が疑われる者

(3) 口腔機能の状況

ア 咀嚼機能の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-3 に示した設問に対する回答結果により、咀嚼機能の低下リスクについて評価を行った。

リスクの疑いがあることを示す「該当」の割合は、市全体でみると、45.2%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 35.7%、要支援高齢者が 54.7%となっており、要支援高齢者が 19.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 41.9%、女性が 47.6%であり、女性が 5.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当」の割合が高くなっており、80 歳以上が 5割以上と高くなっている。また、前期高齢者が 33.6%、後期高齢者が 51.4%となっており、後期高齢者が 17.8 ポイント高くなっている。

図 3-3-① 咀嚼機能の低下 【全域】

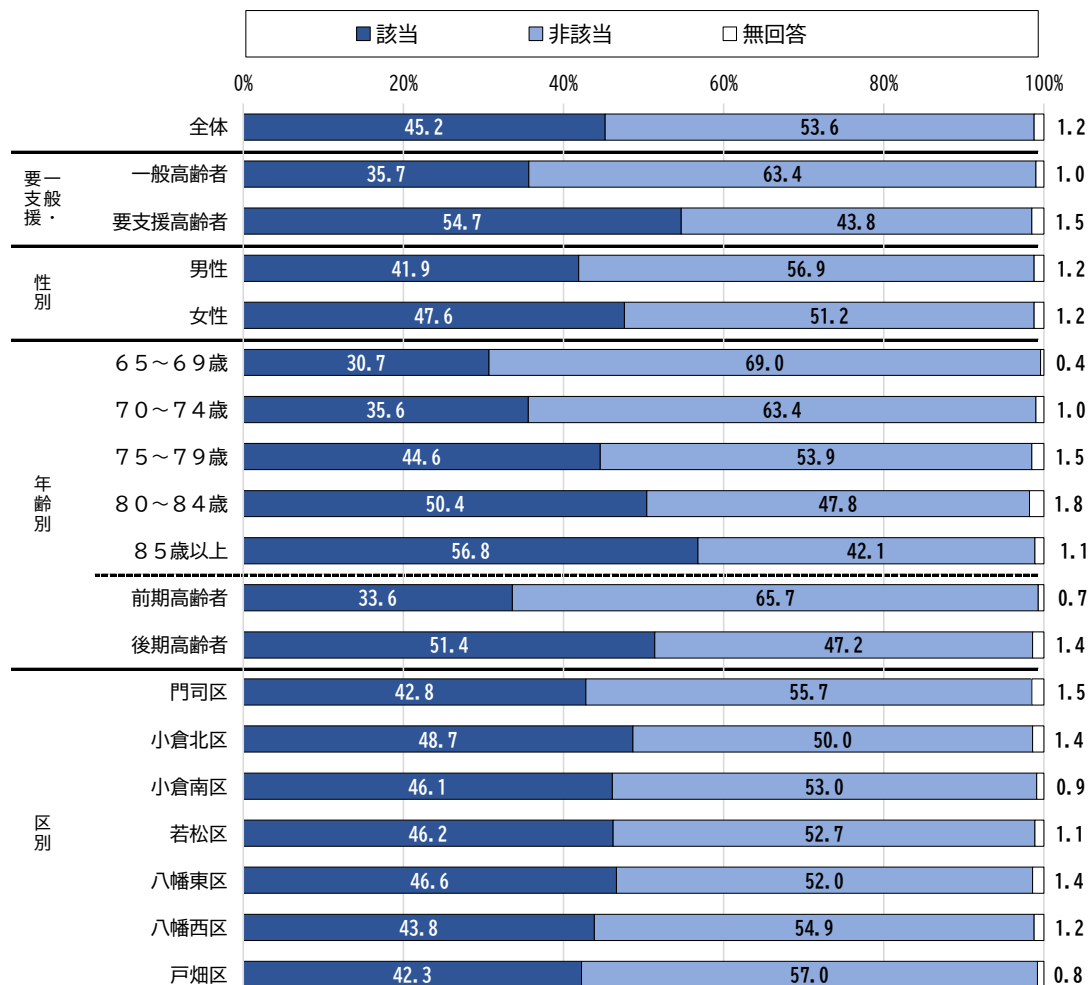


図 3-3-② 咀嚼機能の低下 【日常生活圏域別】

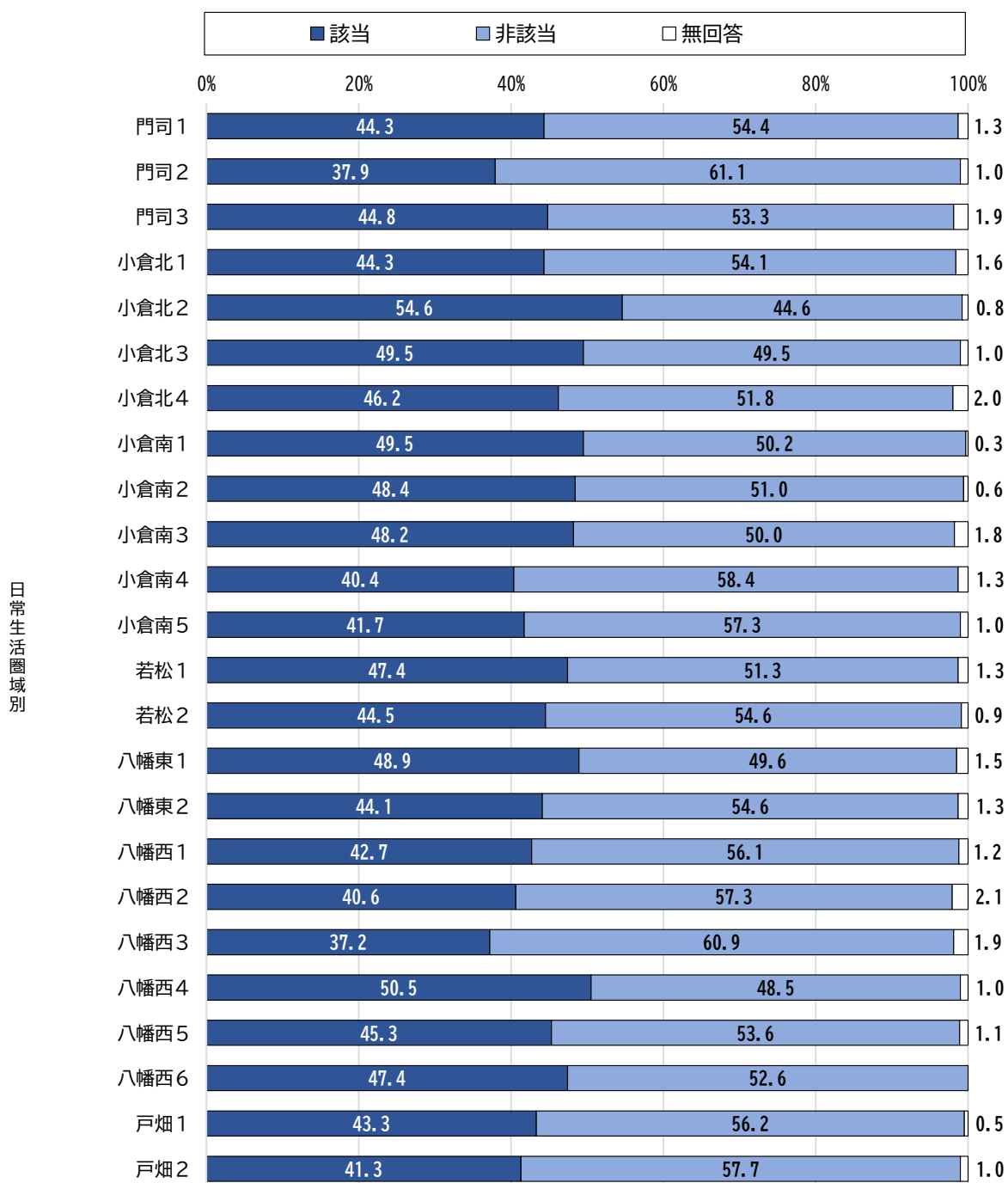


表 3-3 評価に用いた設問と評価基準（咀嚼機能の低下）

設問		配点	評価基準
問3-Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい (1点)	1点以上がリスク該当者

イ 義歯の有無と歯数

問3-Q3 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

自分の歯の数と入れ歯の利用状況を尋ねたところ、市全体で見ると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が43.8%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」27.0%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」14.5%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」11.0%の順となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が38.3%と最も高く、要支援高齢者でも「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が49.4%と最も高くなっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて、『自分の歯が19本以下』の割合が高くなり、『自分の歯が20本以上』の割合が低くなっている。また、前期高齢者の『自分の歯が19本以下』が45.6%、後期高齢者の『自分の歯が19本以下』が59.8%となっており、後期高齢者が14.2ポイント高くなっている。

図3-4-① 歯の数と入れ歯の利用状況 【全域】

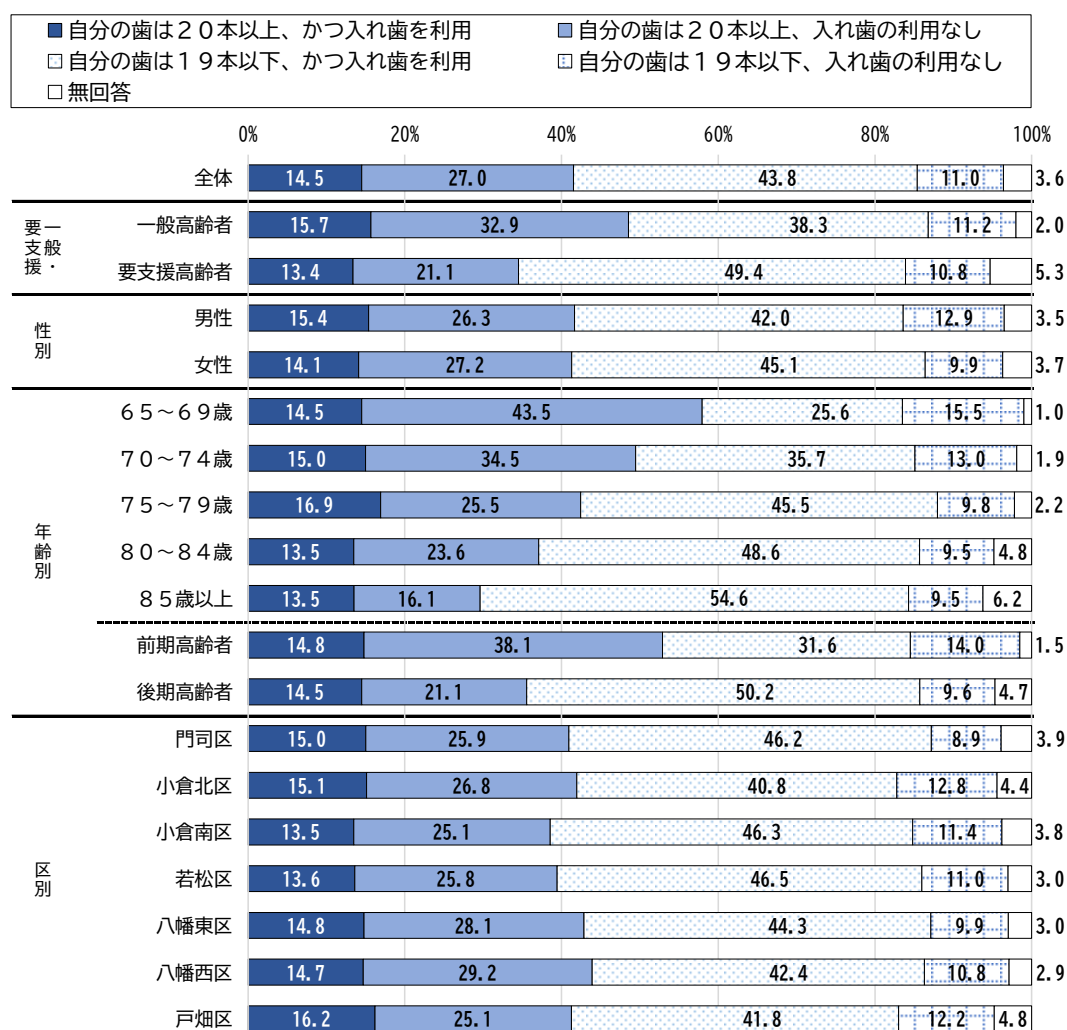
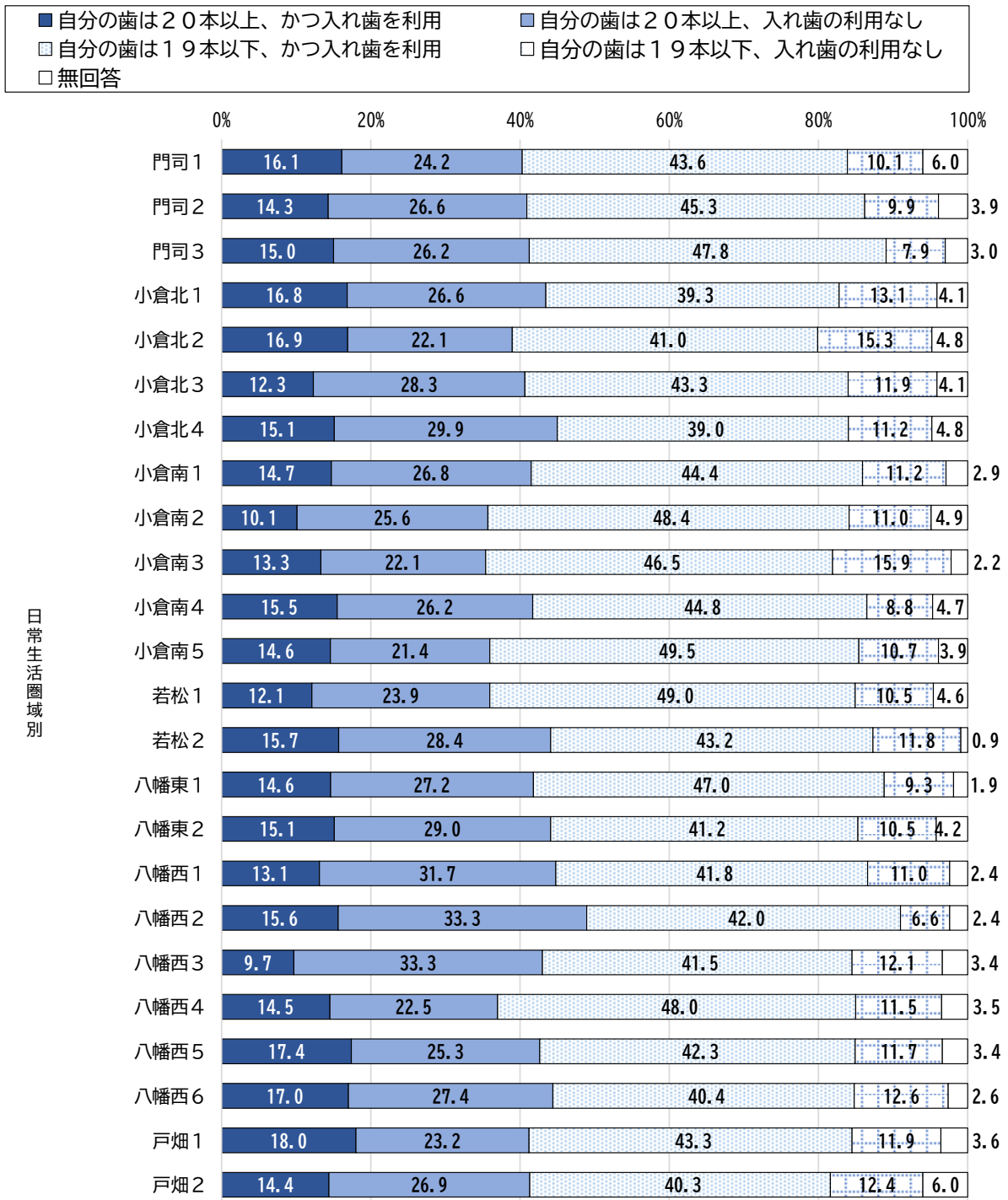


図 3-4-② 歯の数と入れ歯の利用状況 【日常生活圏域別】



(4) 閉じこもり傾向

ア 外出の機会

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-5 に示した設問に対する回答結果により、閉じこもりになるリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当（1点以上）」の割合は、市全体でみると、29.1%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 17.1%、要支援高齢者が 40.9%となっており、要支援高齢者が 23.8 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 24.6%、女性が 31.7%であり、女性が 7.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当（1点以上）」の割合が高くなっており、85歳以上が 44.7%で最も高くなっている。また、前期高齢者が 16.3%、後期高齢者が 35.4%となっており、後期高齢者が 19.1 ポイント高くなっている。

図 3-5-① 閉じこもり傾向 【全域】

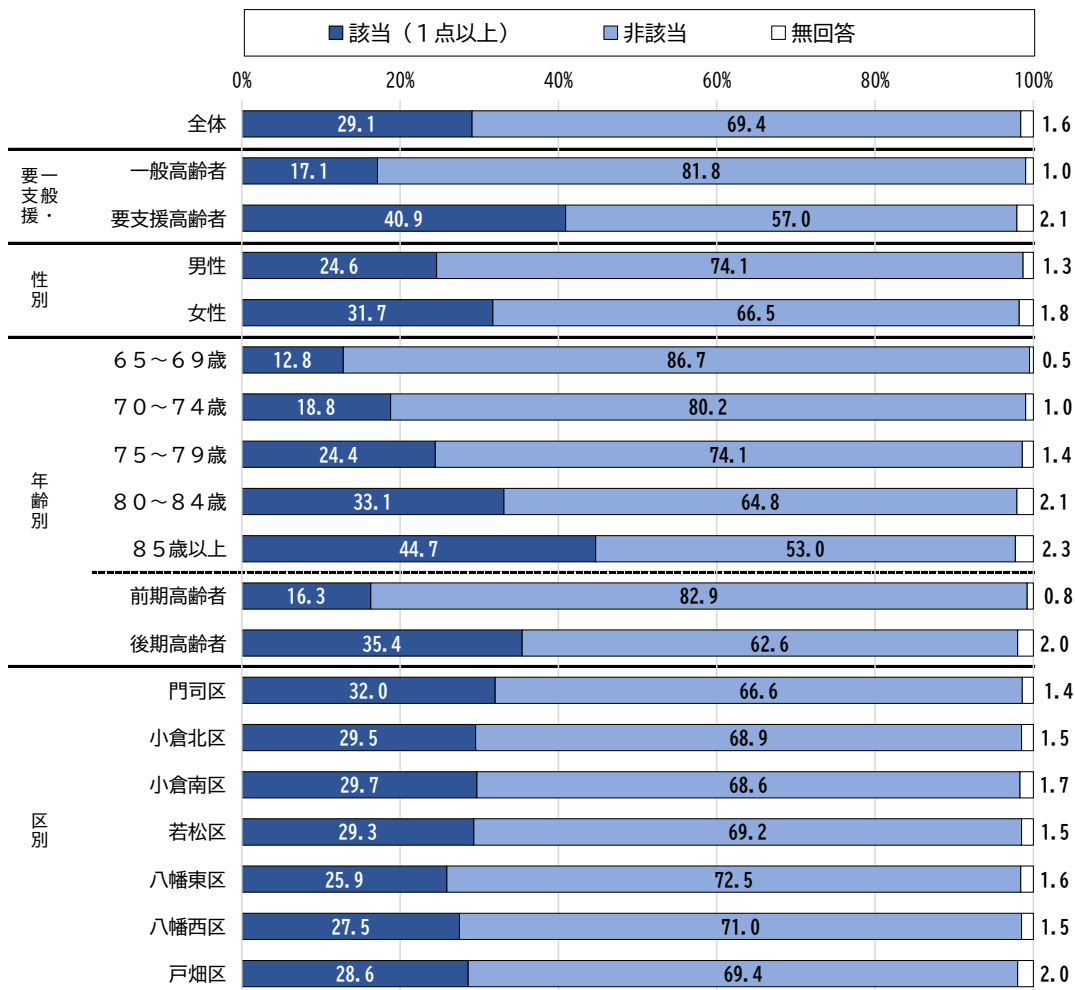


図 3-5-② 閉じこもり傾向 【日常生活圏域別】

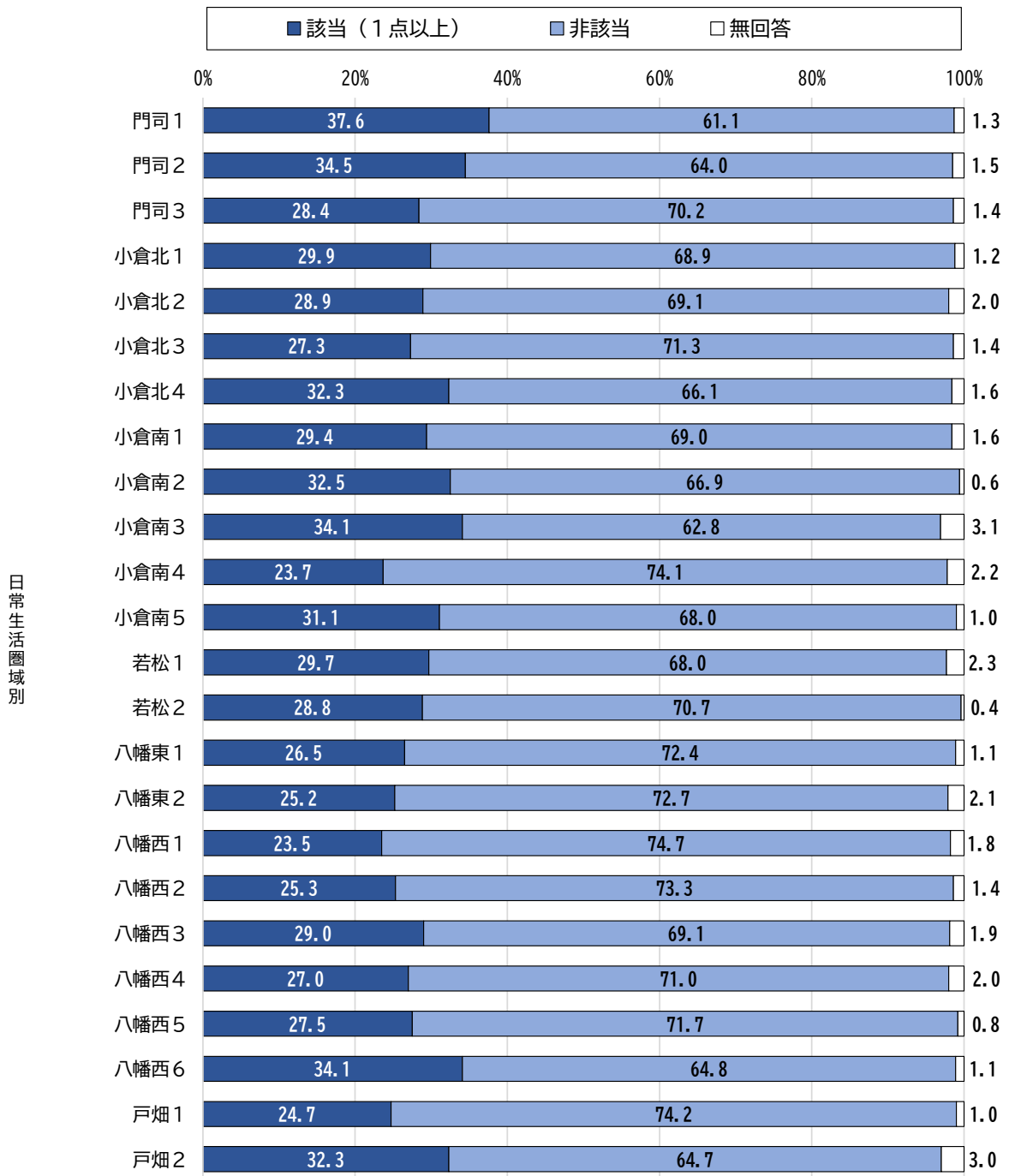


表 3-5 評価に用いた設問と評価基準 (閉じこもり傾向)

設問		配点	評価基準
問 2-Q6	週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない 週1回 (1点)	1点以上が リスク該当者

イ 外出回数の減少

問2-Q7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかを尋ねたところ、市全体でみると、「減っている」と回答した割合が75.7%となっている。

「減っている」割合を一般・要支援別に見ると、一般高齢者が63.4%、要支援高齢者が87.8%となっており、要支援高齢者が24.4ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が69.8%、女性が79.1%となっており、女性が9.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて、「減っている」の割合が高くなり、85歳以上が88.0%で最も高くなっている。また、前期高齢者が62.7%、後期高齢者が82.0%となっており、後期高齢者が19.3ポイント高くなっている。

図3-6-① 外出回数の減少 【全域】

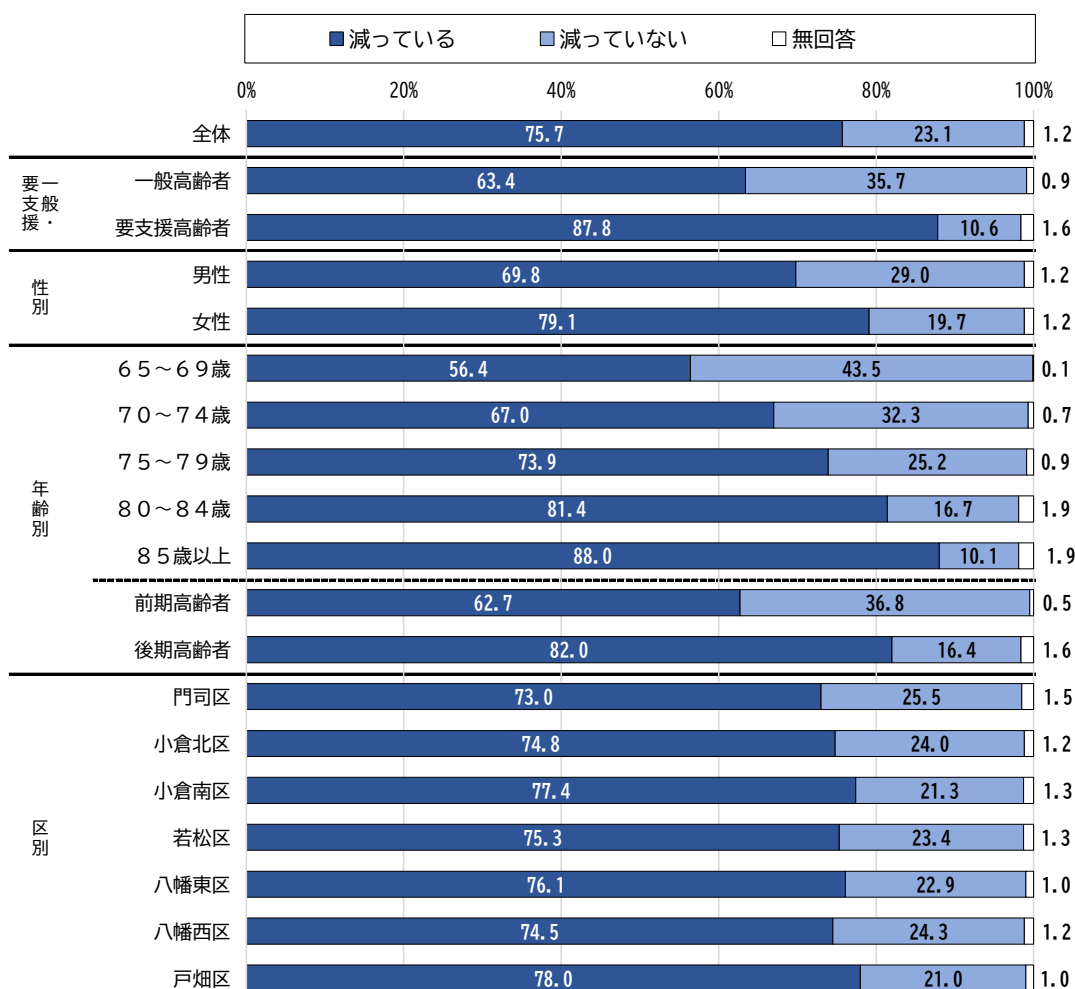
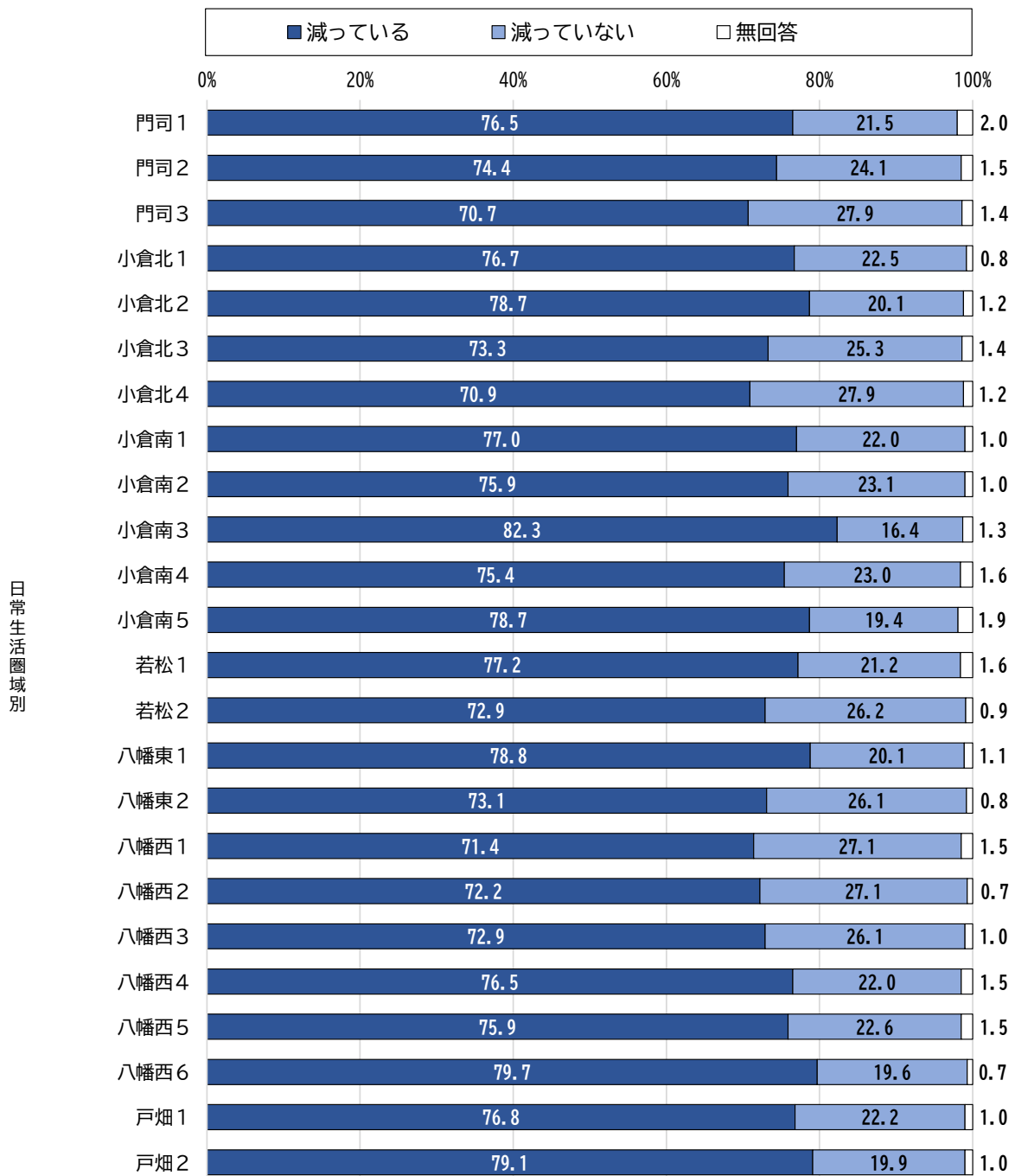


図 3-6-② 外出回数の減少 【全域】



ウ 食事をとにもする機会

問3-Q4 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

誰かと食事をとにもする機会があるかどうか尋ねたところ、「ある」と回答した割合を市全体で見ると、83.6%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が88.4%、要支援高齢者が78.7%となっており、一般高齢者が9.7ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が81.7%、女性が84.6%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、65～69歳（87.5%）、70～74歳（88.4%）が9割弱と他の年齢層に比べて高くなっている。また、前期高齢者が88.0%、後期高齢者が81.2%となっており、前期高齢者が6.8ポイント高くなっている。

図3-7-① 食事をとにもする機会 【全域】

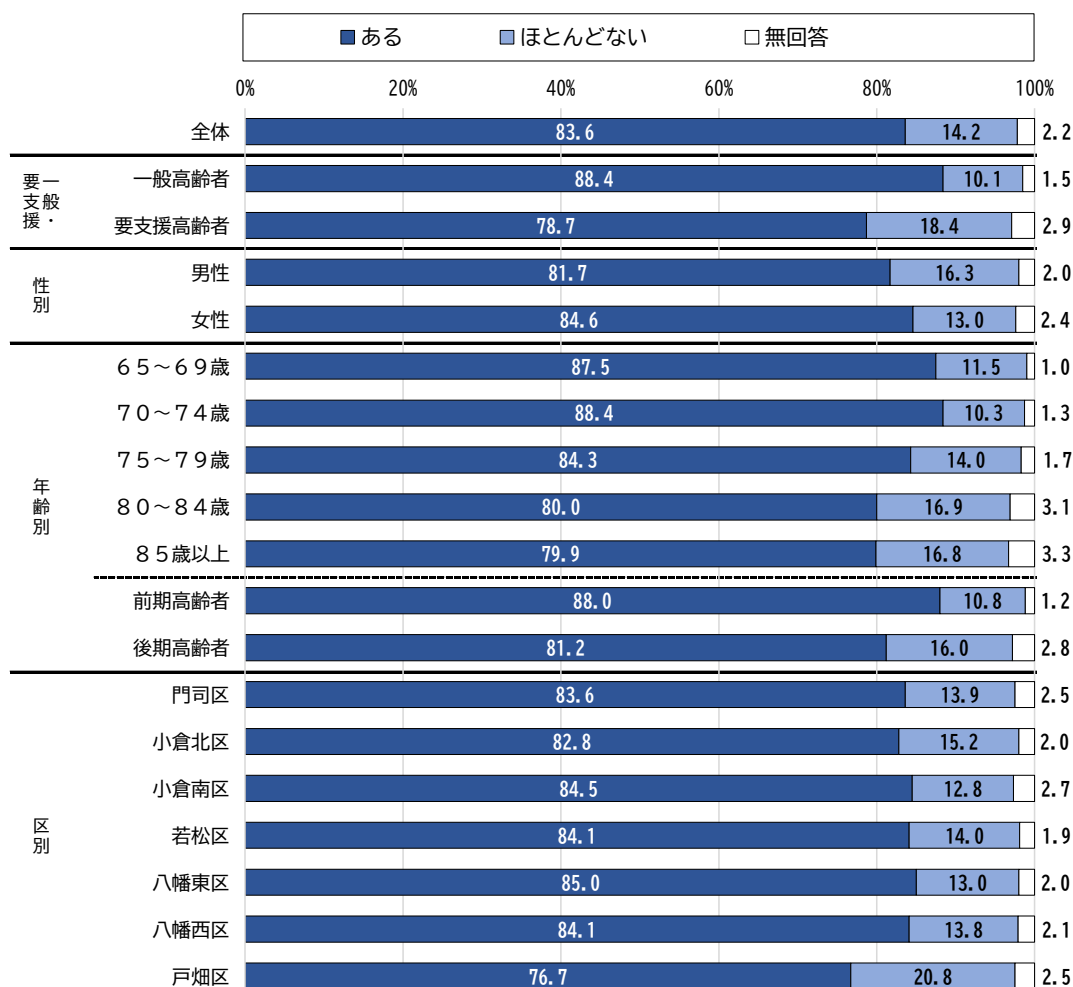
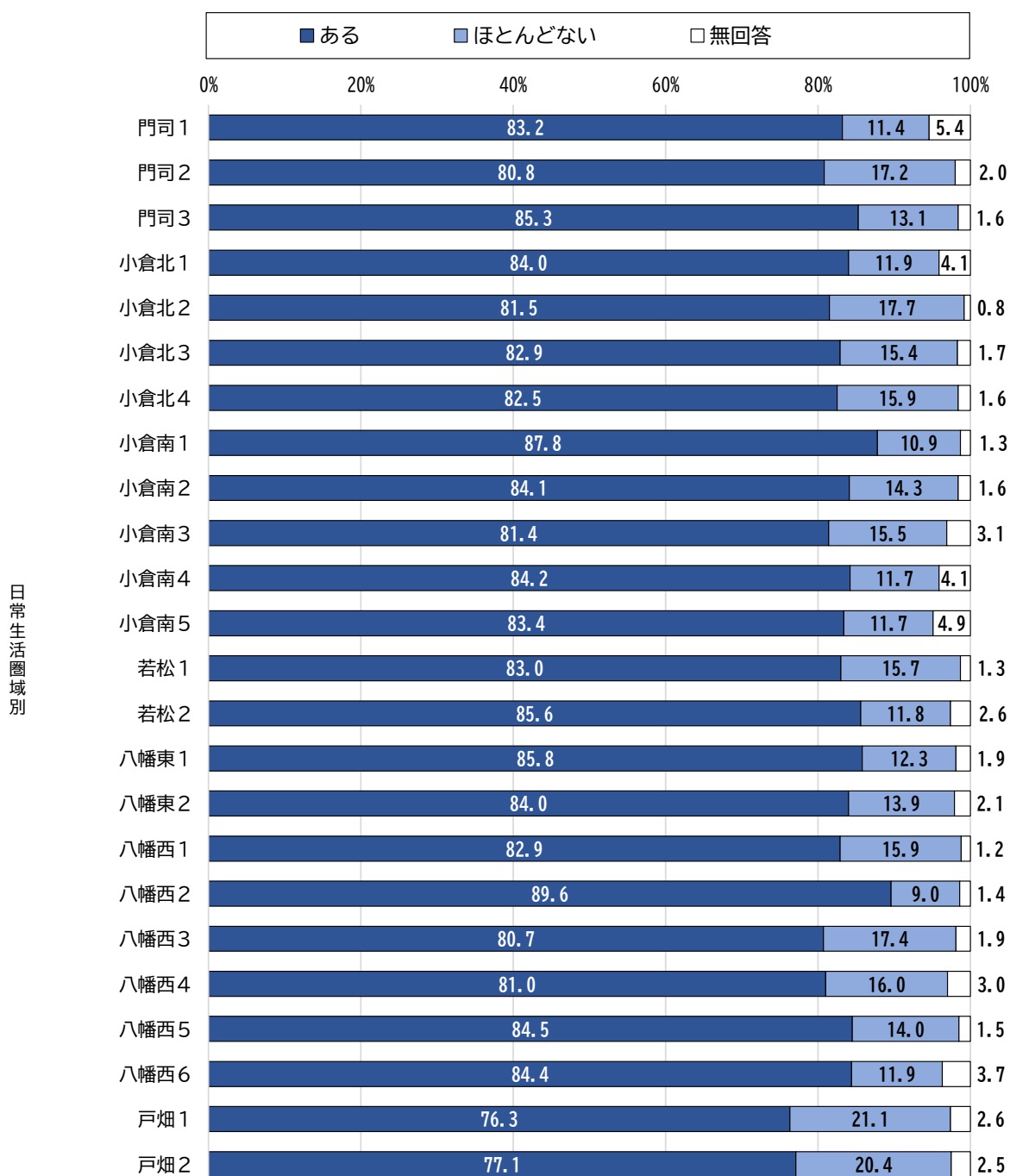


図 3-7-② 食事をともしる機会 【日常生活圏域別】



(5) 認知機能（物忘れ）の状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-8 に示した設問に対する回答結果により、認知機能の低下（物忘れ）のリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当」の割合は、市全体でみると、49.2%となっている。

一般・要支援高齢者でみると、一般高齢者が 40.6%、要支援高齢者が 57.8%となっており、要支援高齢者が 17.2 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 46.7%、女性が 50.7%となっており、女性が 4.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当」の割合が高くなっており、85 歳以上が 60.7%で最も高くなっている。また、前期高齢者が 37.9%、後期高齢者が 54.9%となっており、後期高齢者が 17.0 ポイント高くなっている。

図 3-8-① 認知機能の低下（物忘れ） 【全域】

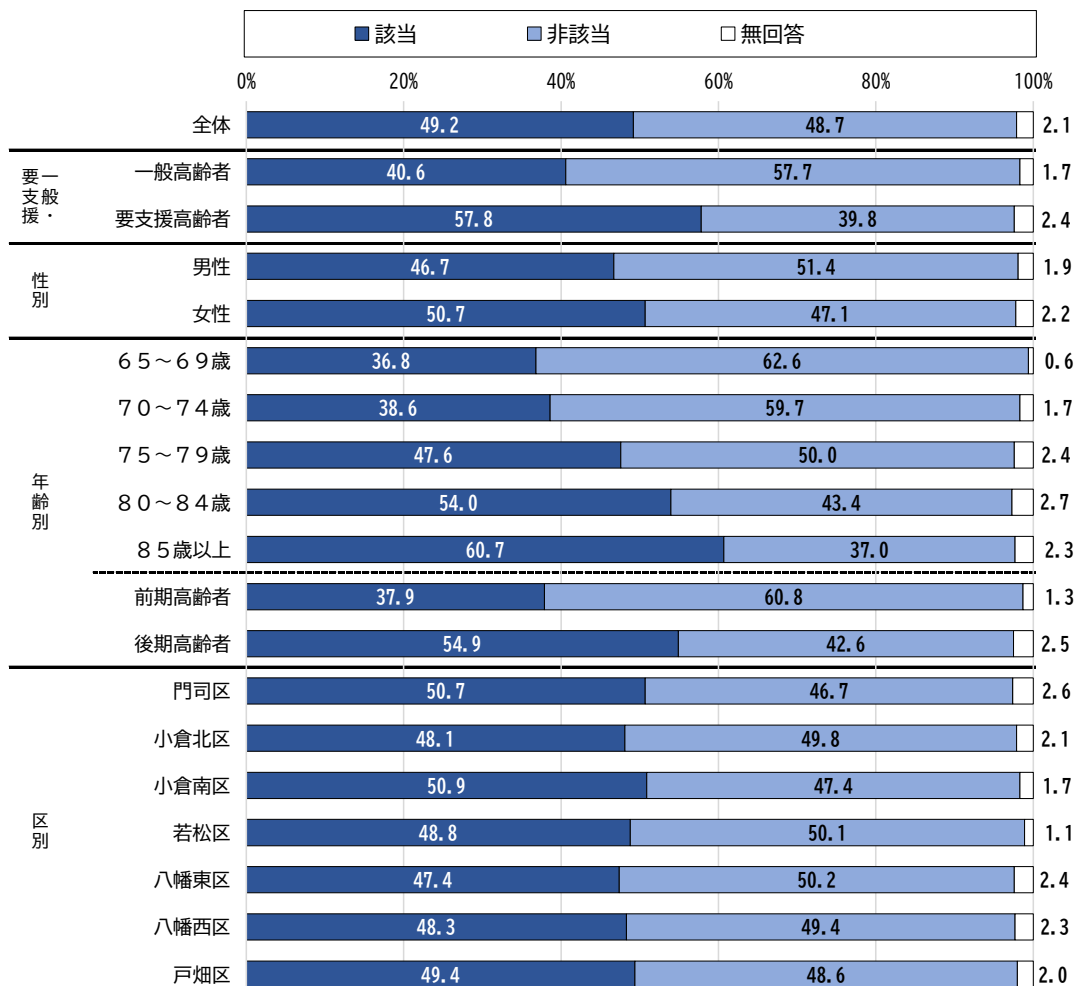


図 3-8-② 認知機能の低下（物忘れ） 【日常生活圏域別】

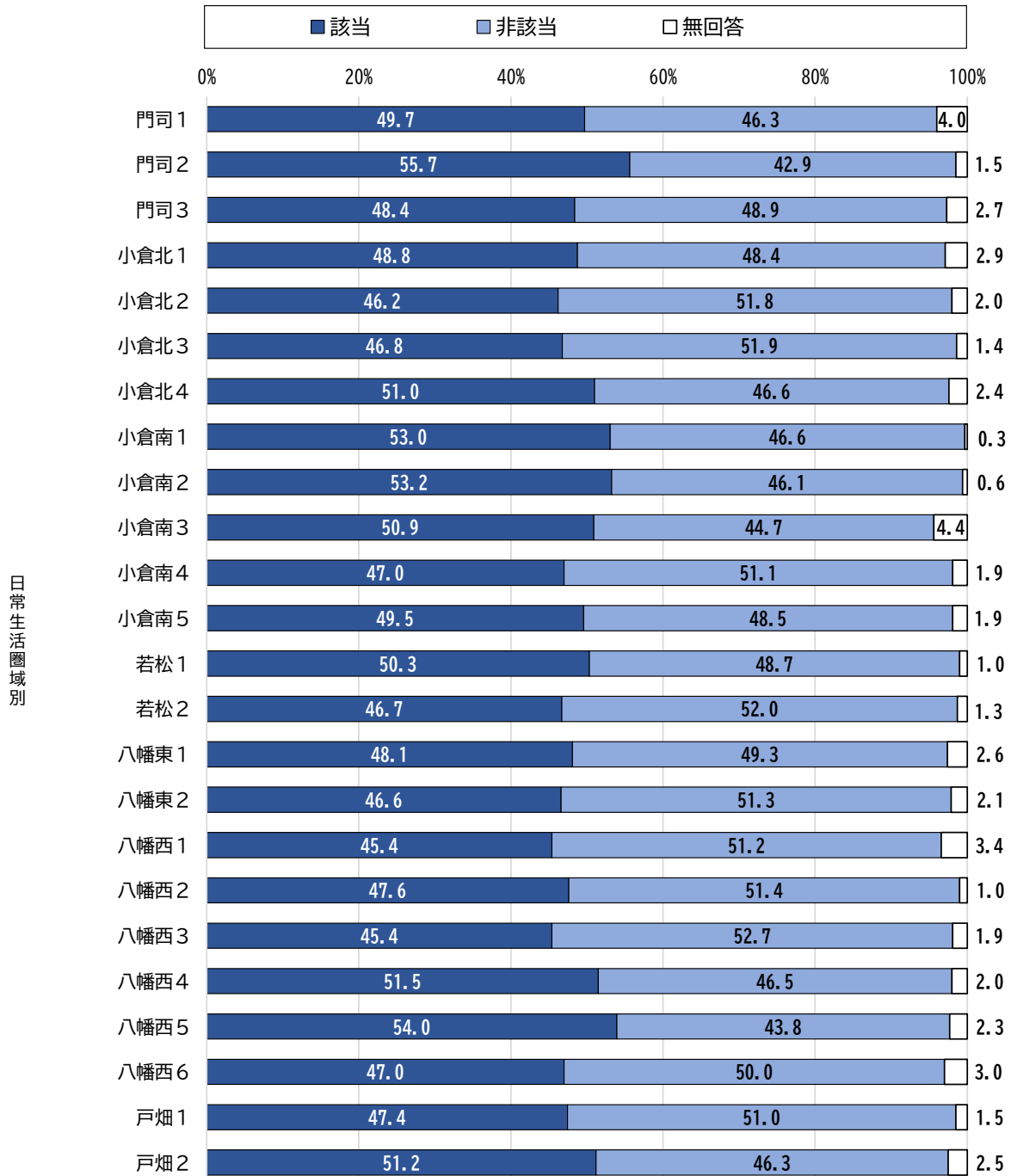


表 3-8 評価に用いた設問と評価基準（認知機能の低下（物忘れ））

設問	配点	評価基準
問 4-Q1 物忘れが多いと感じますか	はい (1点)	1点以上がリスク該当者

2. うつの傾向

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-9 に示した設問に対する回答結果により、うつの傾向のリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当（1点以上）」の割合は、市全体でみると、48.4%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 39.1%、要支援高齢者が 57.6%となっており、要支援高齢者が 18.5 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 46.5%、女性が 49.3%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当」の割合が高くなっているが、75 歳以上では大きな差はみられない。また前期高齢者が 43.4%、後期高齢者が 50.7%となっており、後期高齢者が 7.3 ポイント高くなっている。

図 3-9-① うつの傾向 【全域】

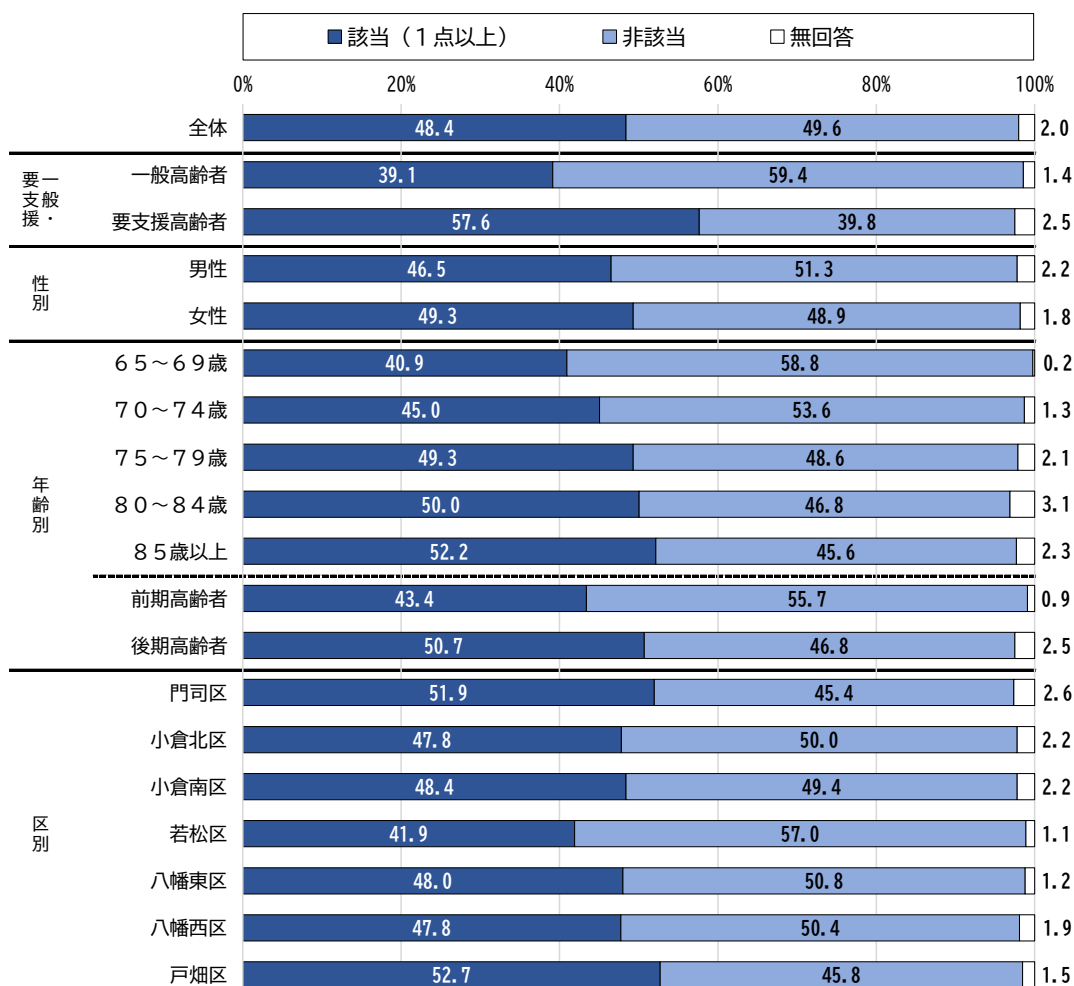


図 3-9-② うつの傾向 【日常生活圏域別】

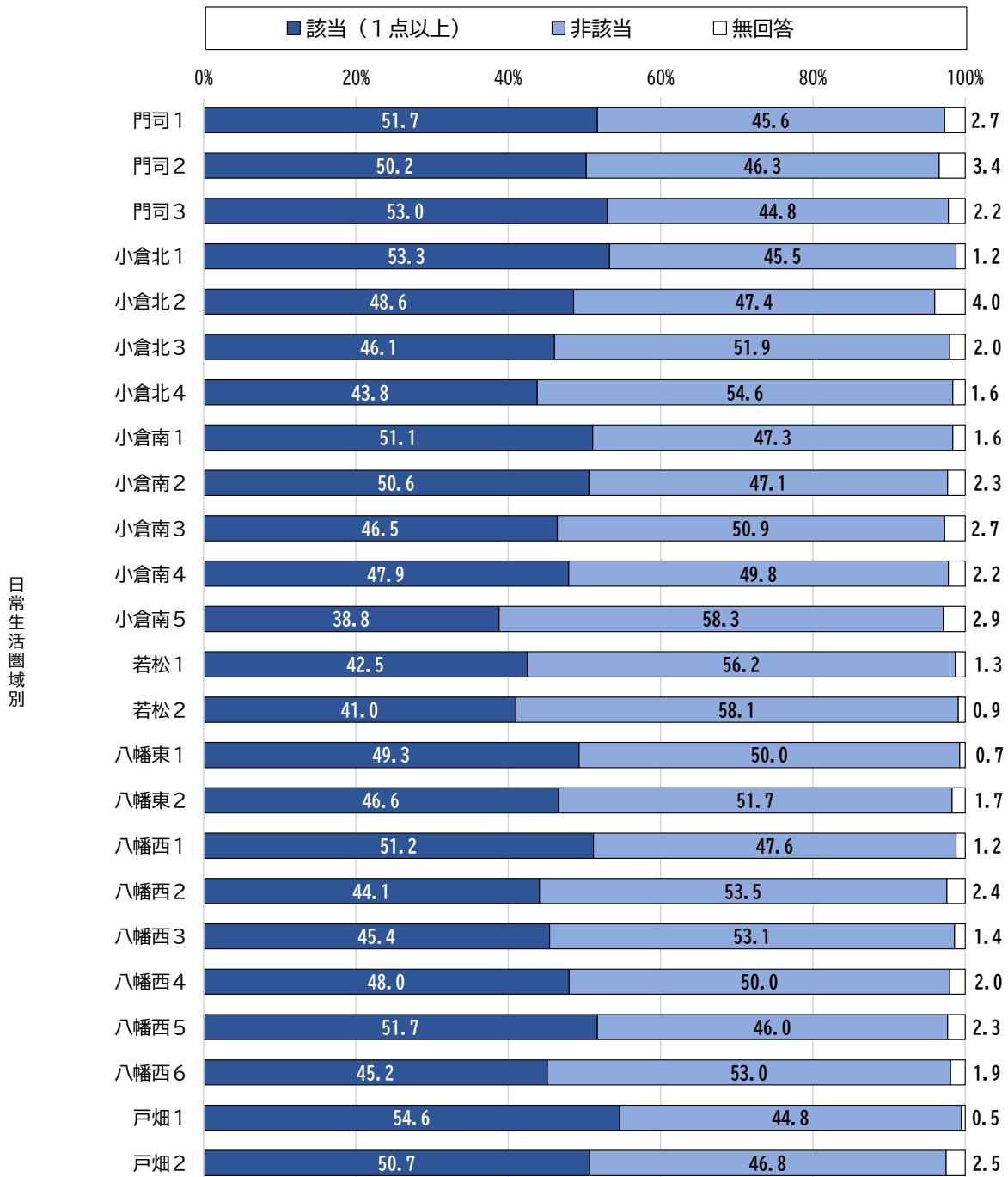


表 3-9 評価に用いた設問と評価基準 (うつの傾向)

設問		配点		評価基準
問 7-Q3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい	(1点)	1点以上が リスク該当者
問 7-Q4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい	(1点)	

3. 転倒リスクの状況

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、表 3-10 に示した設問に対する回答結果により、転倒のリスクについて評価を行った。

リスクがあることを示す「該当（1点以上）」の割合は、市全体でみると、45.3%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が 31.8%、要支援高齢者が 58.8%となっており、要支援高齢者が 27.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が 43.3%、女性が 46.4%となっており、女性が 3.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「該当（1点以上）」の割合が高くなっており、85歳以上が 58.5%で最も高くなっている。また、前期高齢者が 32.9%、後期高齢者が 51.5%となっており、後期高齢者が 18.6 ポイント高くなっている。

図 3-10-① 転倒リスク判定 【全域】

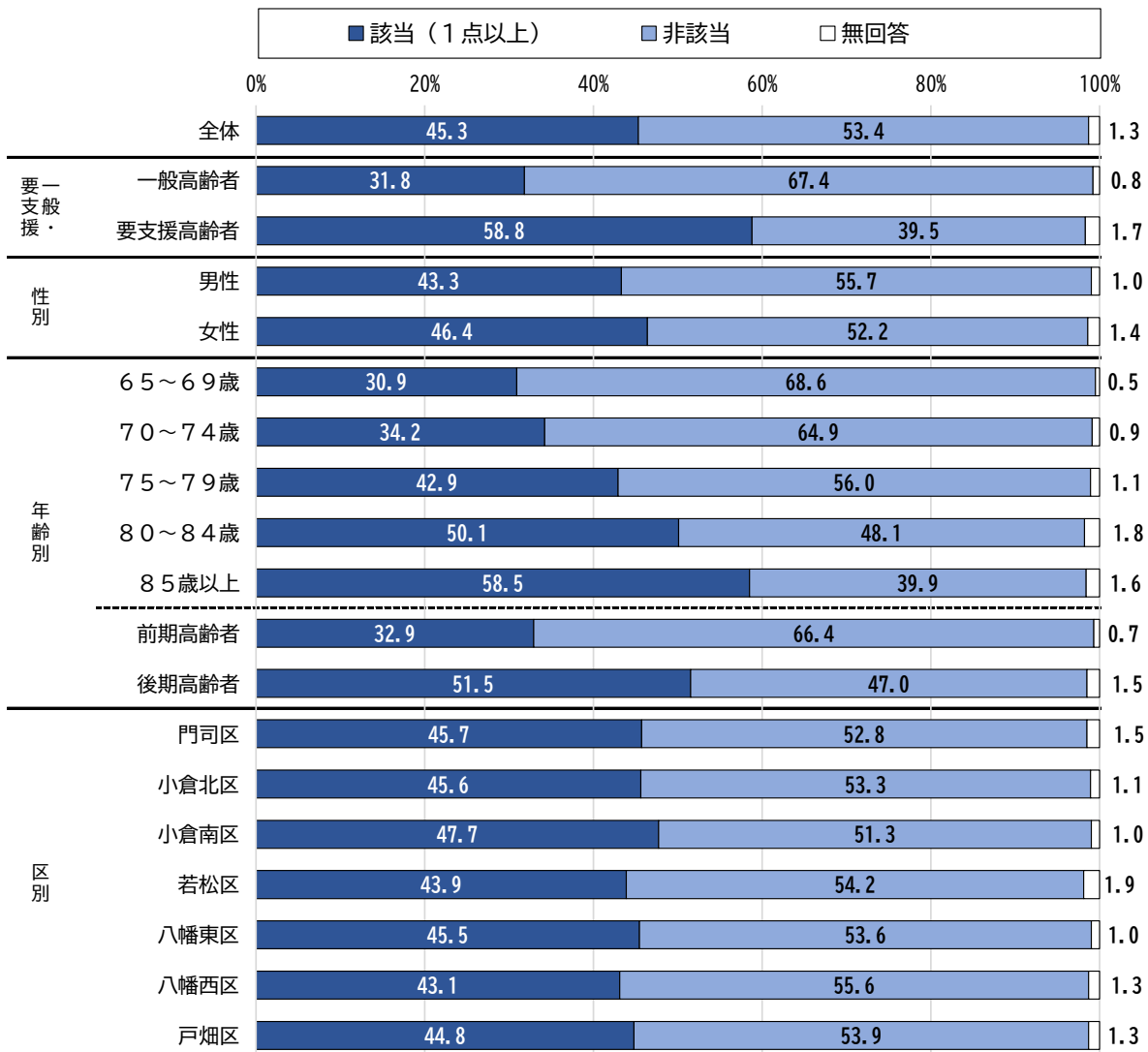


図 3-10-② 転倒リスク判定 【日常生活圏域別】

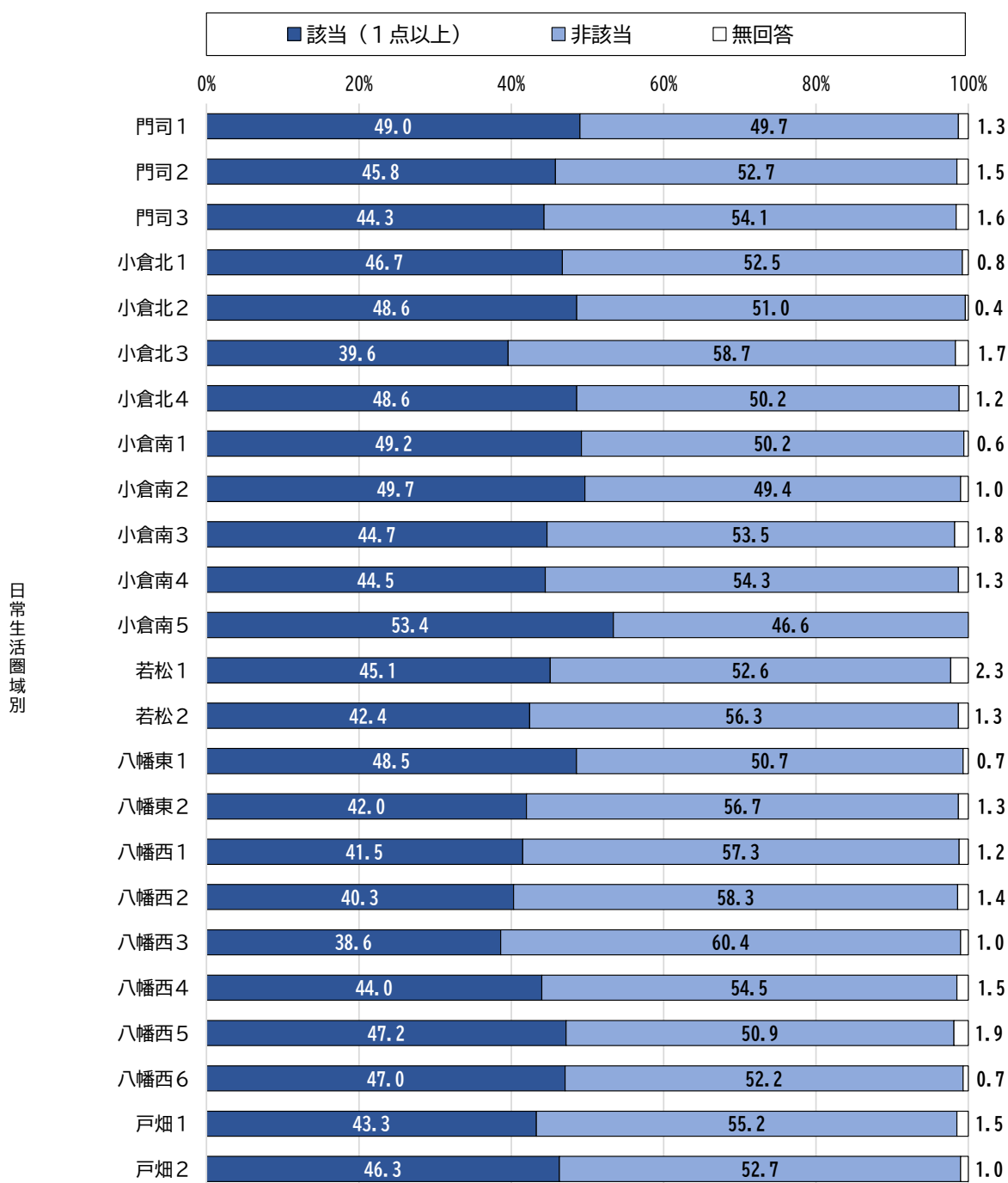


表 3-10 評価に用いた設問と評価基準 (転倒リスク判定)

設問		配点	評価基準
問 2-Q4	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	何度もある 一度ある (1点)	1点以上が リスク該当者

4. 手段的日常生活動作（IADL）

厚労省が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づき、活動的な日常生活を送るための動作（バスに乗って買い物に行く、食事の支度をする、電話をかけるなど）の能力を指す「手段的日常生活動作（IADL：Instrumental Activities of Daily Living）」について、表3-11に示した5つの設問に対する回答結果により評価を行った。

能力が「高い（5点）」人の割合は、市全体でみると、68.7%となっている。一方、「低い（3点以下）」は17.5%、「やや低い（4点）」は13.2%で、2つを合わせた割合は30.7%となっている。

「低い（3点以下）」と「やや低い（4点）」を合わせた割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が14.6%、要支援高齢者が46.7%となっており、要支援高齢者が32.1ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が32.8%、女性が29.4%となっており、男性が3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「低い（3点以下）」と「やや低い（4点）」を合わせた割合は高くなっており、85歳以上で50.1%と最も高くなっている。また、前期高齢者が16.5%、後期高齢者が38.0%となっており、後期高齢者が21.5ポイント高くなっている。

図3-11-① 手段的日常生活動作（IADL） 【全域】

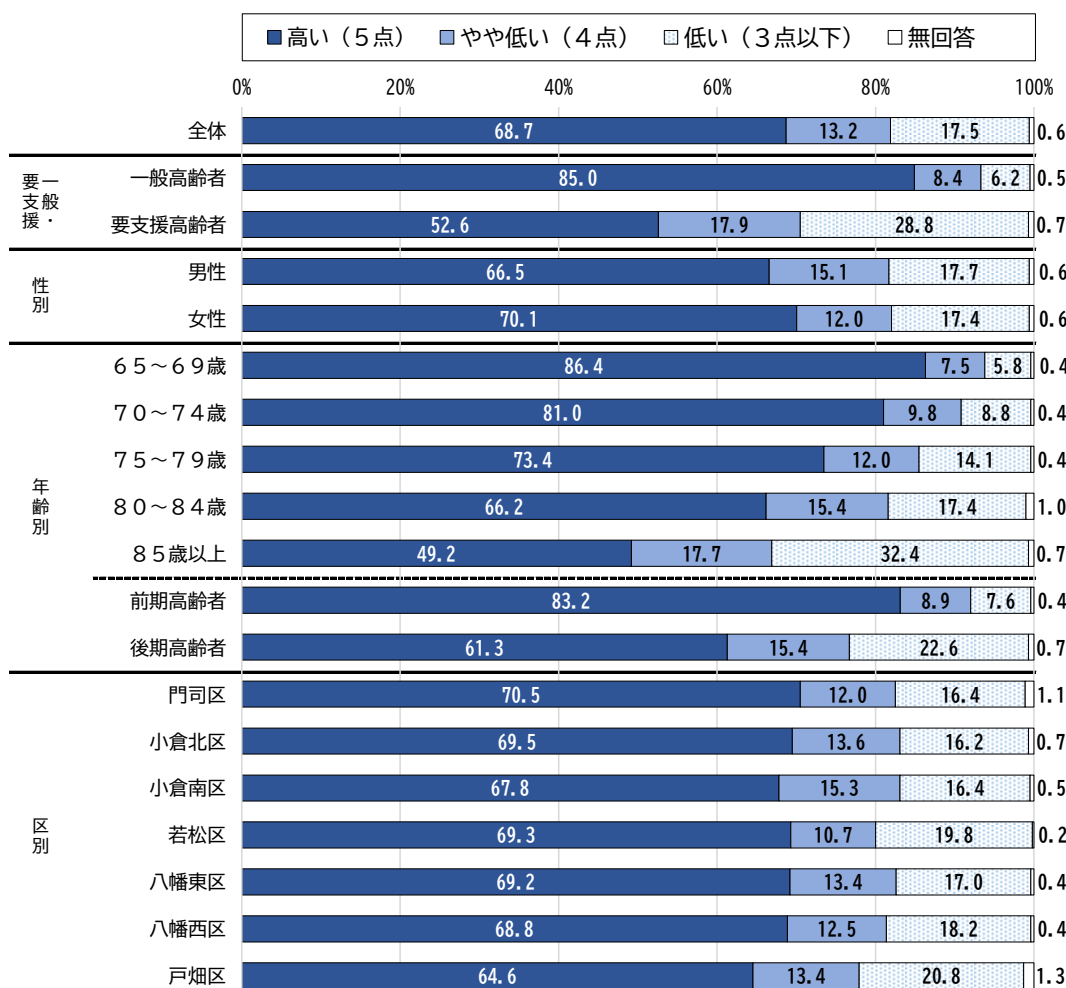


図 3-11-② 手段的日常生活動作（IADL） 【日常生活圏域別】

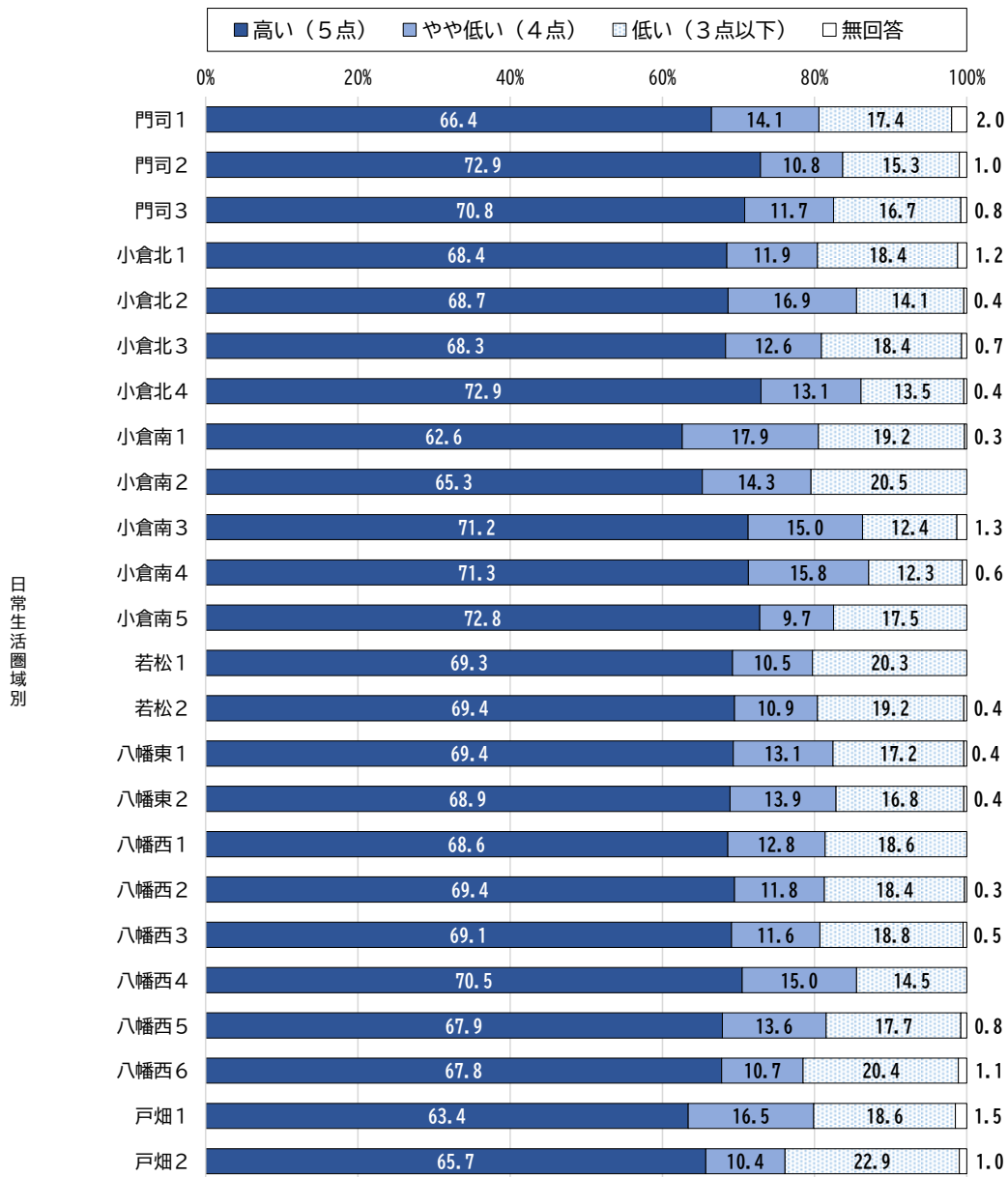


表 3-11 評価に用いた設問と評価基準（IADL）

設問	配点	評価基準
問 4-Q2 バスや電車を使って 1人で外出していますか (自家用車でも可)	できるし、している (1点) できるけどしていない	「低い」3点以下 「やや低い」4点 「高い」5点
問 4-Q3 自分で食品・日用品の買物をしていますか	できるし、している (1点) できるけどしていない	
問 4-Q4 自分で食事の用意をしていますか	できるし、している (1点) できるけどしていない	
問 4-Q5 自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している (1点) できるけどしていない	
問 4-Q6 自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している (1点) できるけどしていない	

第4章 日常生活

1. 交流の場への参加状況

(1) ボランティアのグループへの参加

問5-Q1-① ボランティアのグループに参加していますか。

ボランティアのグループへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が9.7%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が13.2%、要支援高齢者が6.2%となっており、一般高齢者が7.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が12.4%、女性が8.2%となっており、男性が4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、85歳以上で5.3%と低くなっている。また、前期高齢者が11.5%、後期高齢者が8.9%となっており、前期高齢者がやや高くなっている。

図4-1-① ボランティアのグループへの参加 【全域】

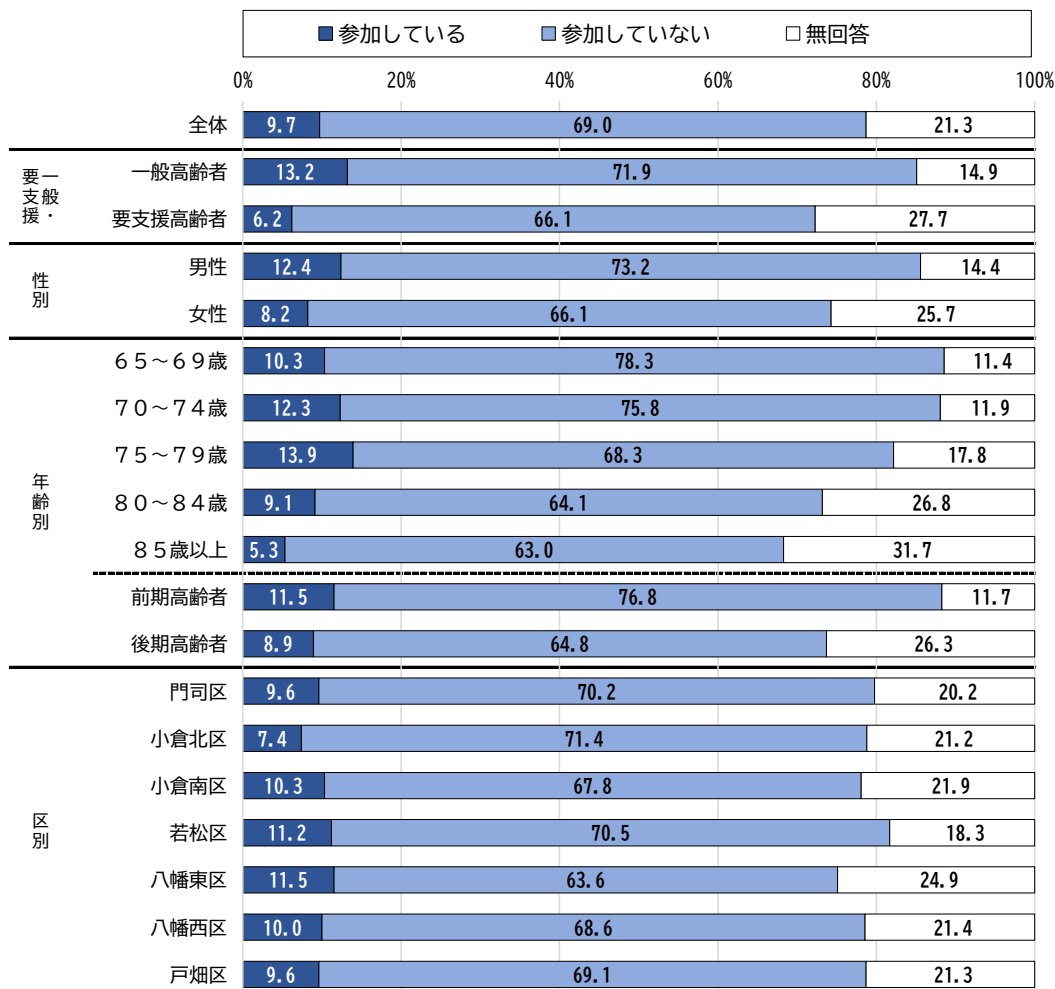
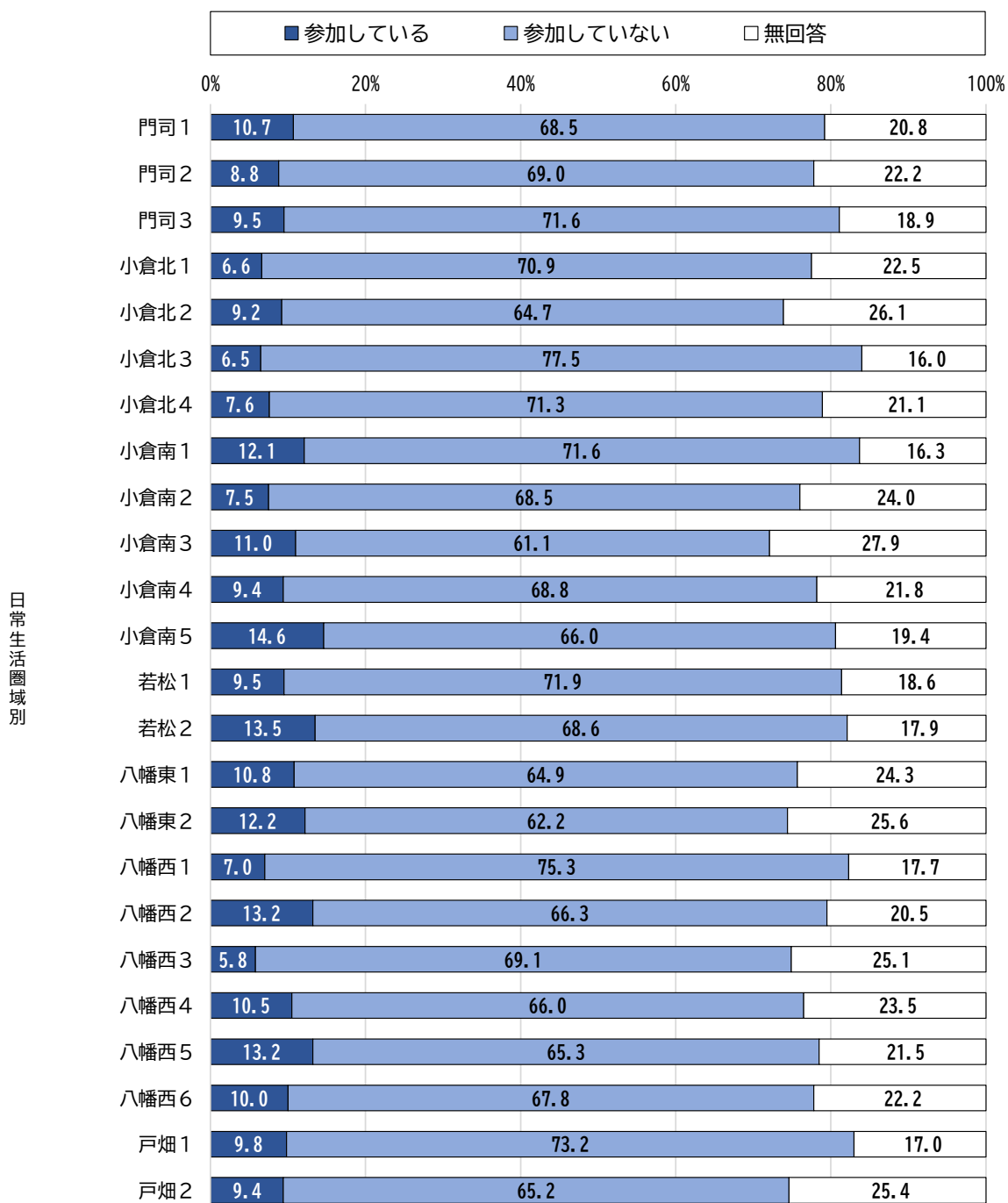


図 4-1-② ボランティアのグループへの参加 【日常生活圏域別】



(2) スポーツ関係のグループやクラブへの参加

問5-Q1-② スポーツ関係のグループやクラブに参加していますか。

スポーツ関係のグループやクラブへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が15.9%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が22.8%、要支援高齢者が9.1%となっており、一般高齢者が13.7ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が17.2%、女性が15.2%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、65～69歳、70～74歳、75～79歳まではほぼ変化が無いが、年齢層が高くなるにつれ割合が低くなっている。また、前期高齢者が20.3%、後期高齢者が13.8%となっており、前期高齢者が6.5ポイント高くなっている。

図4-2-① スポーツ関係のグループやクラブへの参加 【全域】

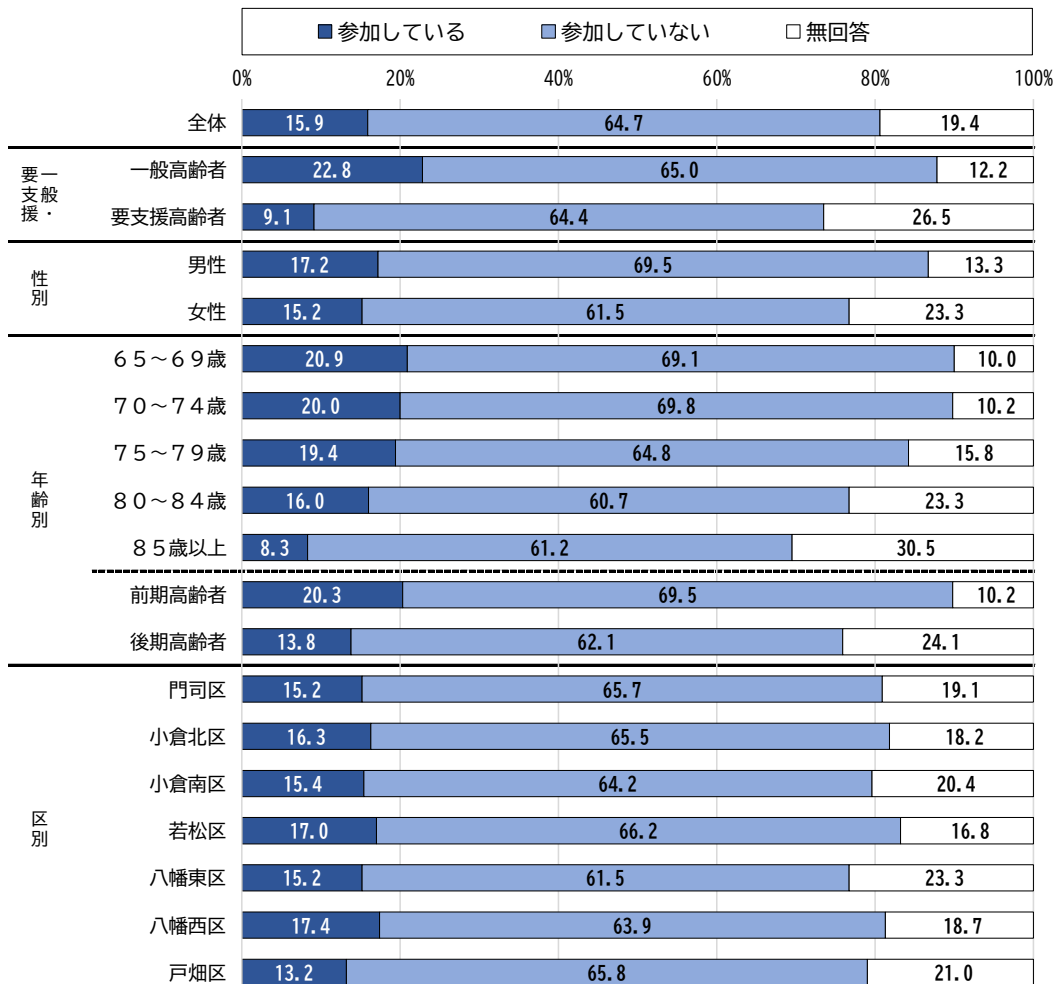
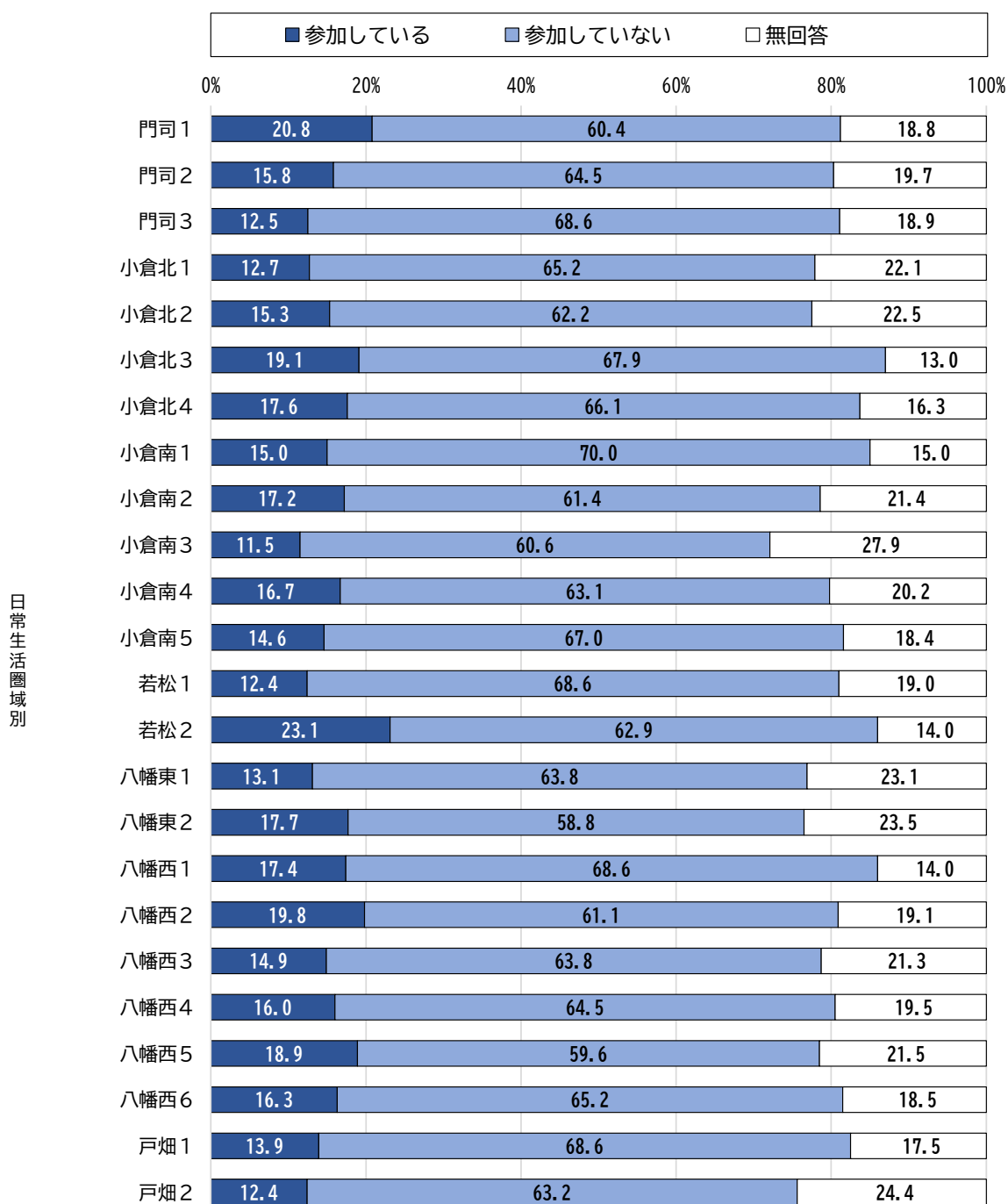


図 4-2-② スポーツ関係のグループやクラブへの参加 【日常生活圏域別】



(3) 趣味関係のグループへの参加

問5-Q1-③ 趣味関係のグループに参加していますか。

趣味関係のグループへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が18.3%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が23.0%、要支援高齢者が13.7%となっており、一般高齢者が9.3ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が17.6%、女性が18.8%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、75～79歳が23.6%で他の年齢層に比べて高くなっている。また、前期高齢者が20.4%、後期高齢者が17.3%となっており、前期高齢者が3.1ポイント高くなっている。

図4-3-① 趣味関係のグループへの参加 【全域】

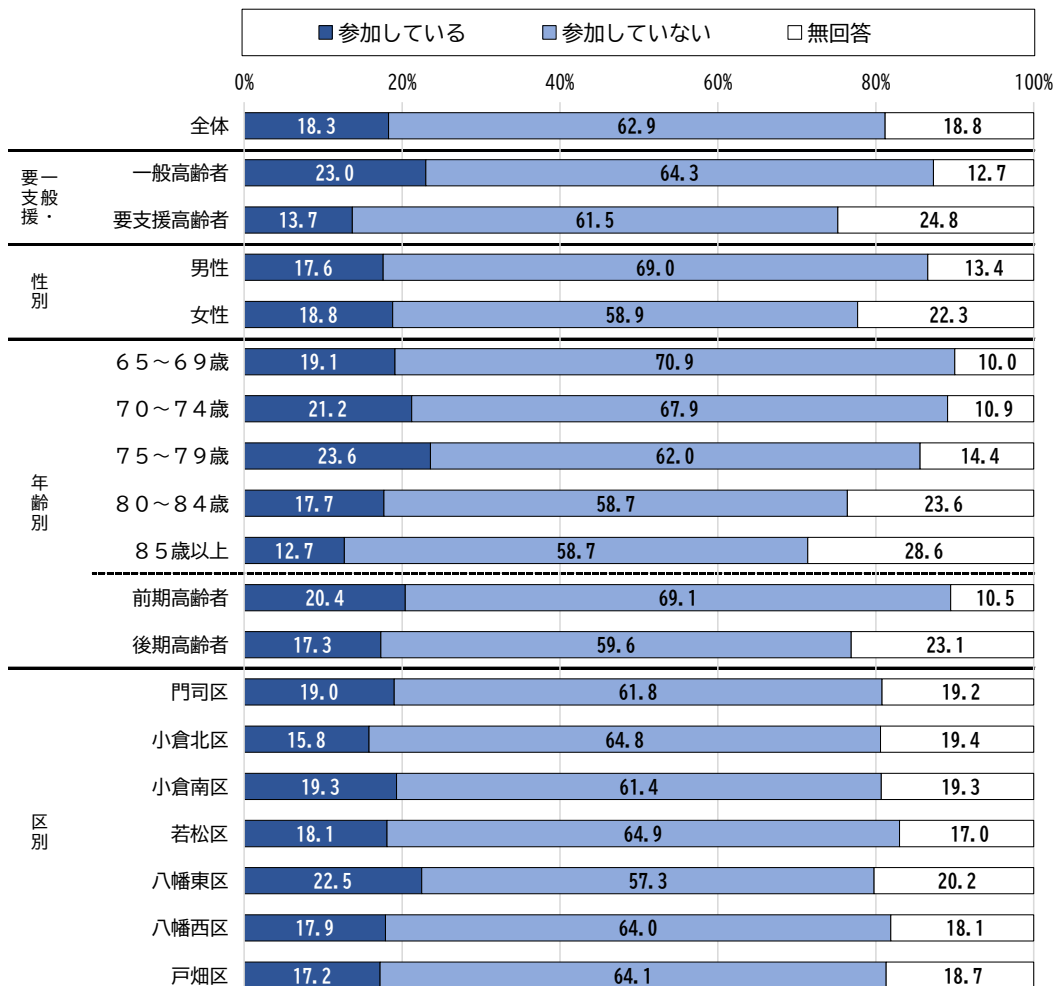
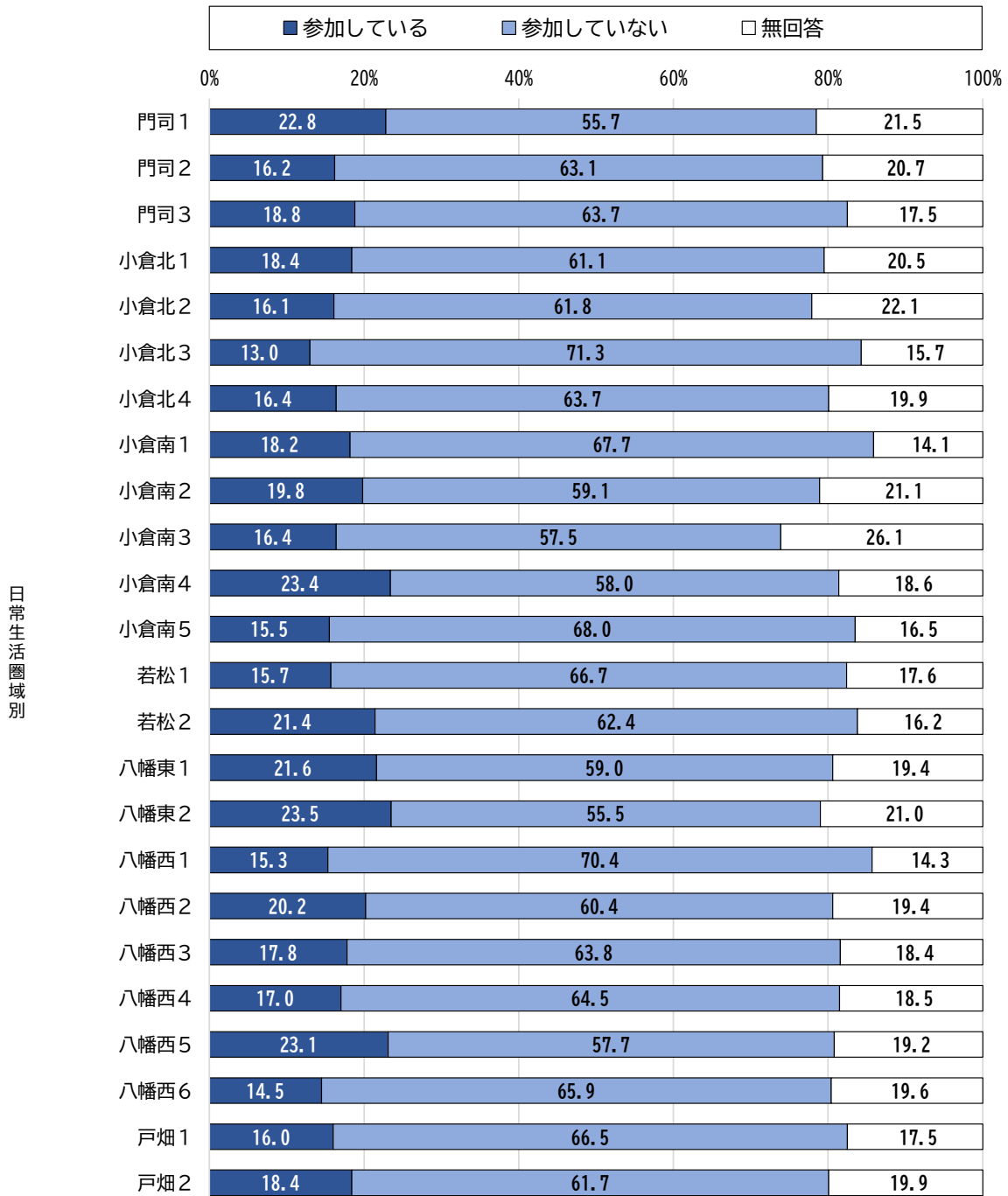


図 4-3-② 趣味関係のグループへの参加 【日常生活圏域別】



(4) 学習・教養サークルへの参加

問5-Q1-④ 学習・教養サークルに参加していますか。

学習・教養サークルへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が7.4%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が9.9%、要支援高齢者が4.9%となっており、一般高齢者が5.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が6.1%、女性が8.1%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、75～79歳が10.1%で最も高くなっている。また、前期高齢者が8.4%、後期高齢者が6.8%と共に1割未満となっている。

図4-4-① 学習・教養サークルへの参加 【全域】

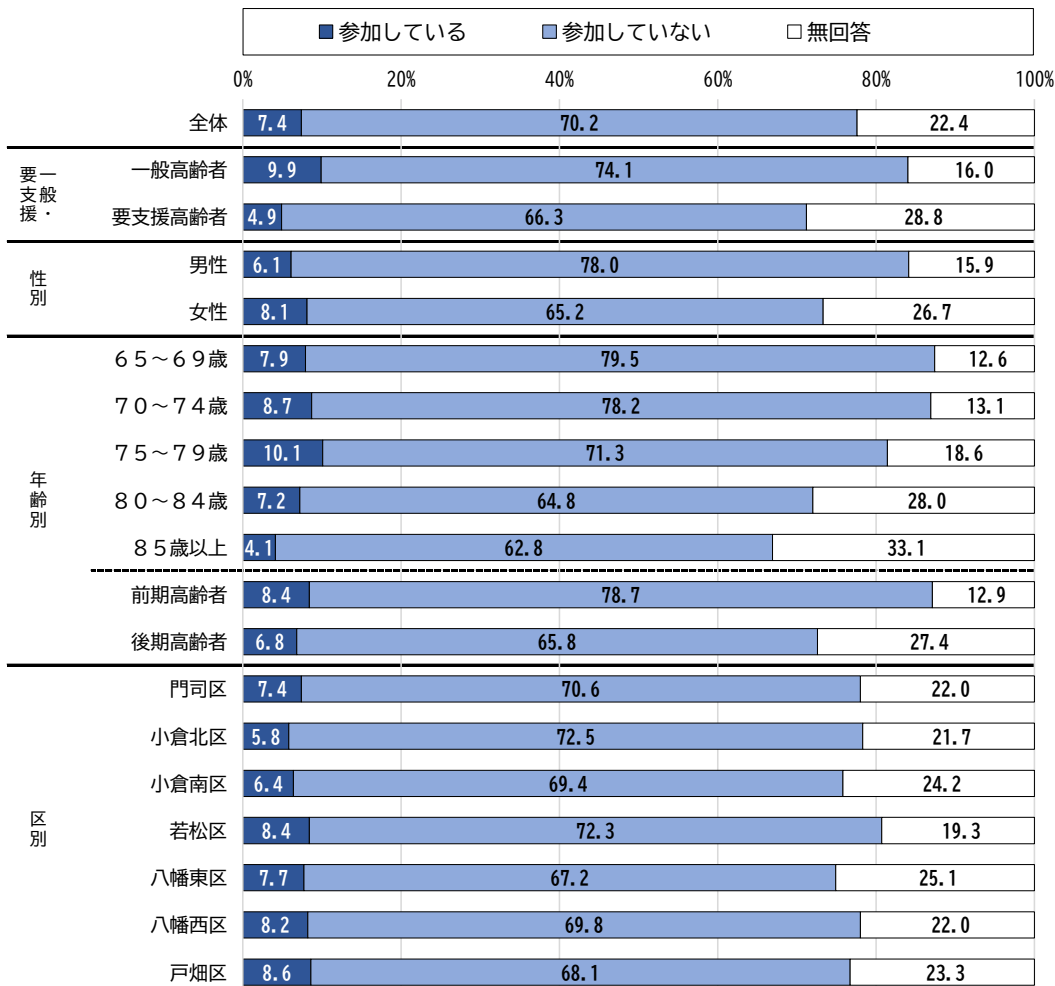
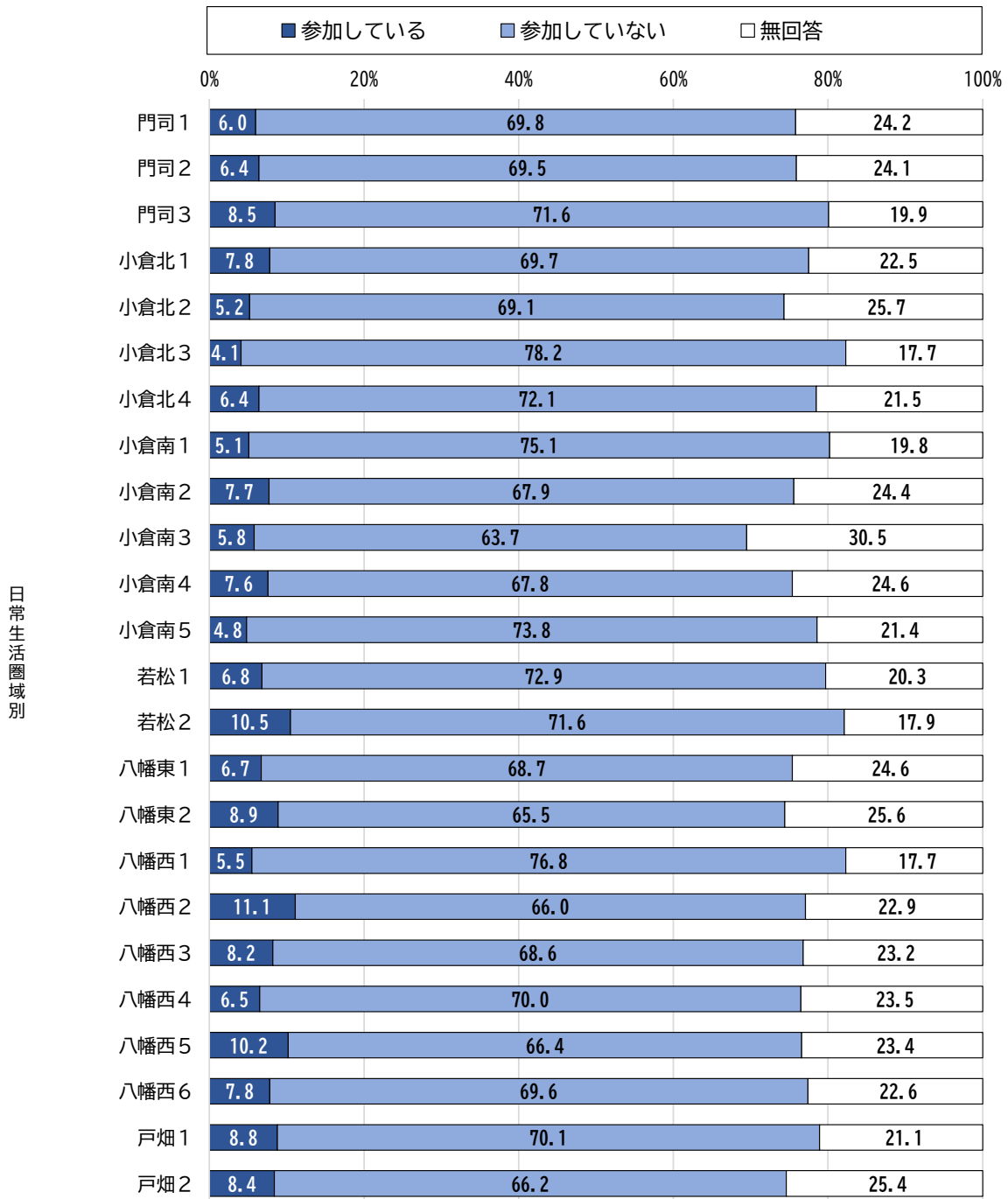


図 4-4-② 学習・教養サークルへの参加 【日常生活圏域別】



(5) 通いの場への参加

問5-Q1-⑤ 介護予防のための通いの場（社会福祉協議会などが行っている高齢者サロン、いきがい活動ステーション、高齢者地域交流支援通所事業（地域交流型デイサービス）、きたきゅう体操、ひまわり太極拳、公園で健康づくり、ふれあい昼食交流会など）に参加していますか。

通いの場への参加については、市全体でみると、「参加している」割合が19.3%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が7.0%、要支援高齢者が31.6%となっており、要支援高齢者が24.6ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が14.1%、女性が22.7%となっており、女性が8.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって、「参加している」が高くなっており、85歳以上が29.5%で最も高くなっている。また、前期高齢者が8.4%、後期高齢者が24.9%となっており、後期高齢者が16.5ポイント高くなっている。

図4-5-① 通いの場への参加 【全域】

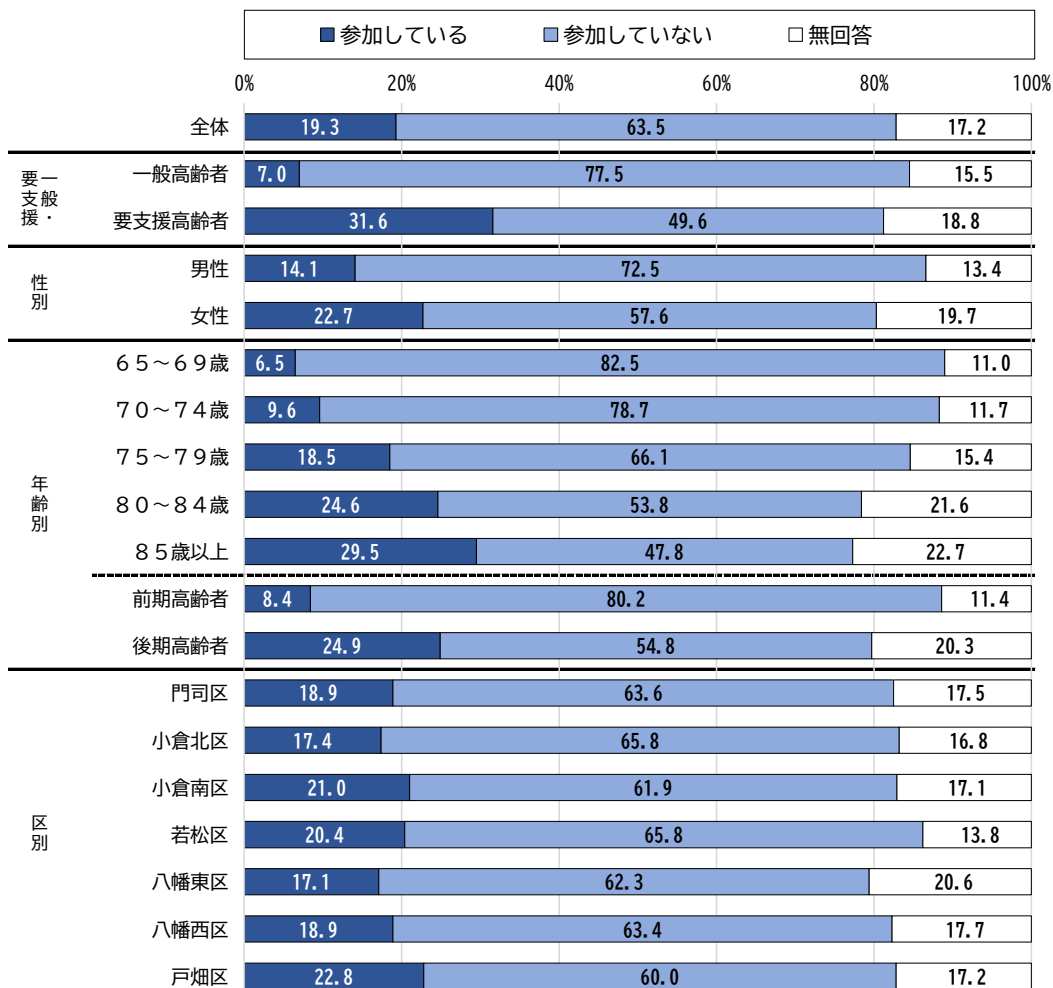
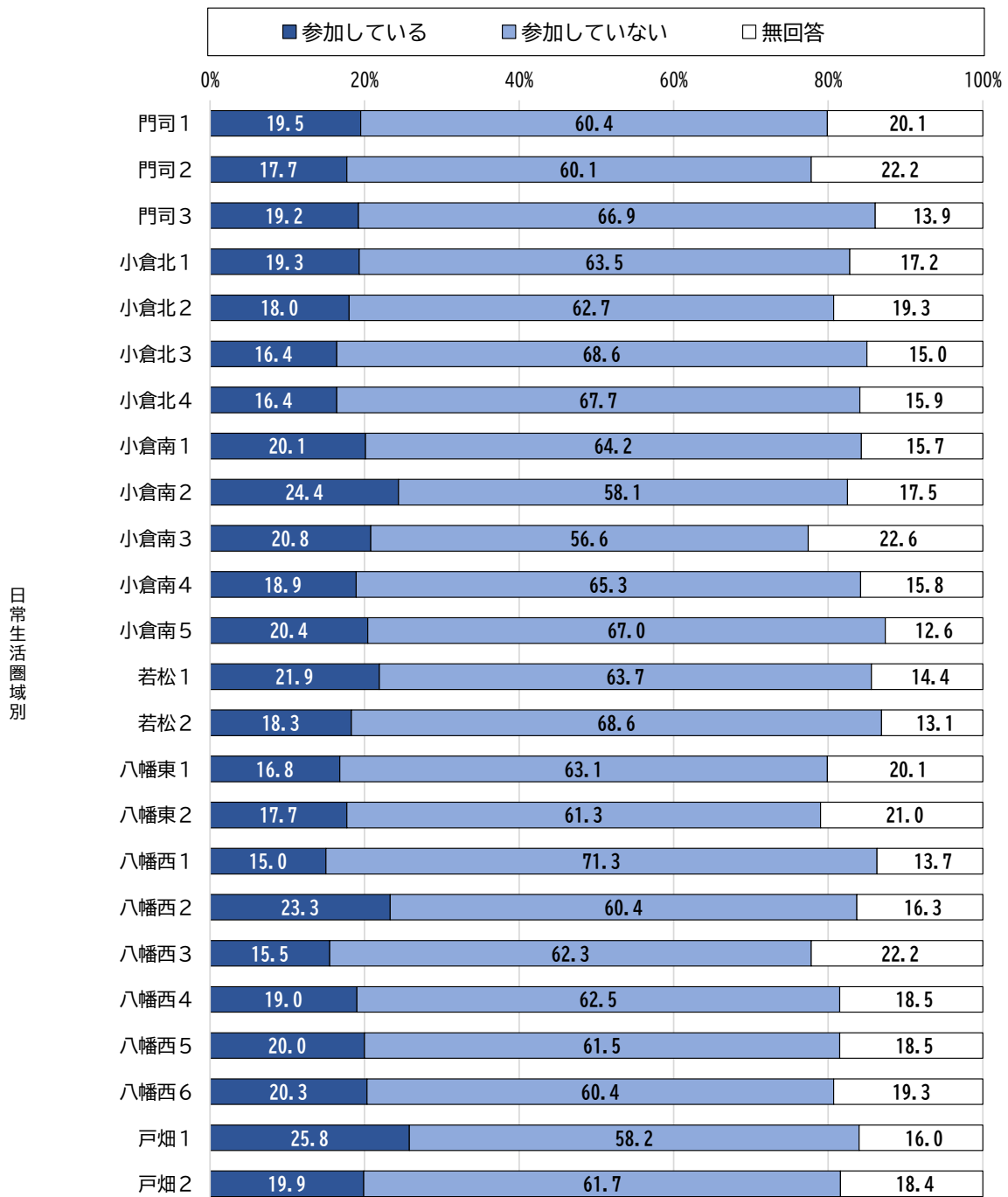


図 4-5-② 通いの場への参加 【日常生活圏域別】



(6) 老人クラブへの参加

問5-Q1-⑥ 老人クラブに参加していますか。

老人クラブへの参加については、市全体でみると、「参加している」割合が6.6%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別や性別でみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも1割未満となっているが、年齢層が下がるにつれて、参加率も低くなる傾向がある。また、前期高齢者が3.4%、後期高齢者が8.1%となっており、後期高齢者が4.7ポイント高くなっている。

図4-6-① 老人クラブへの参加 【全域】

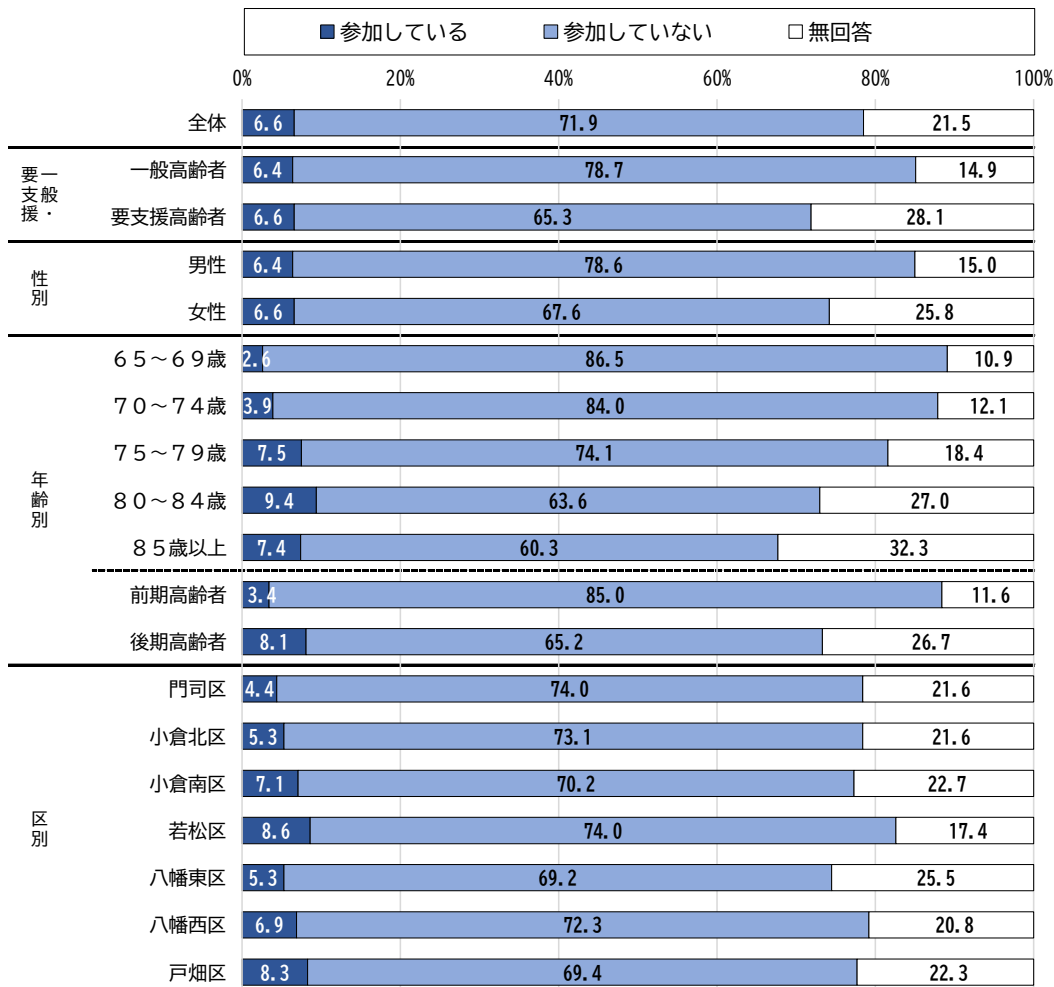
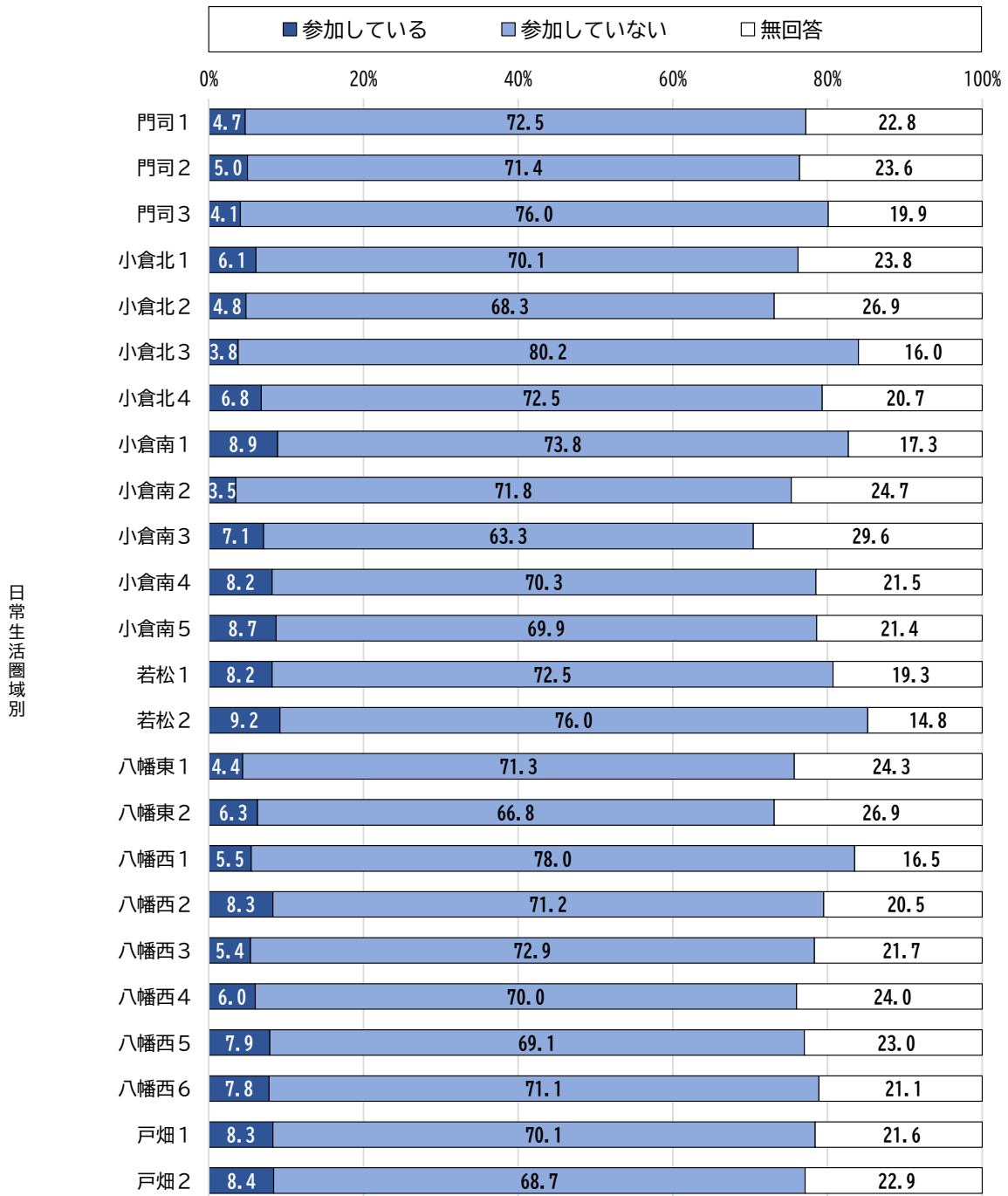


図 4-6-② 老人クラブへの参加 【日常生活圏域別】



(7) 町内会・自治会への参加

問5-Q1-⑦ 町内会・自治会に参加していますか。

町内会・自治会への参加については、市全体でみると、「参加している」割合が18.6%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が26.1%、要支援高齢者が11.1%となっており、一般高齢者が15.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が20.7%、女性が17.2%となっており、男性が3.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「参加している」の割合は65～69歳が26.0%と最も高くなっており、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が24.9%、後期高齢者が15.3%となっており、前期高齢者が9.6ポイント高くなっている。

図4-7-① 町内会・自治会への参加 【全域】

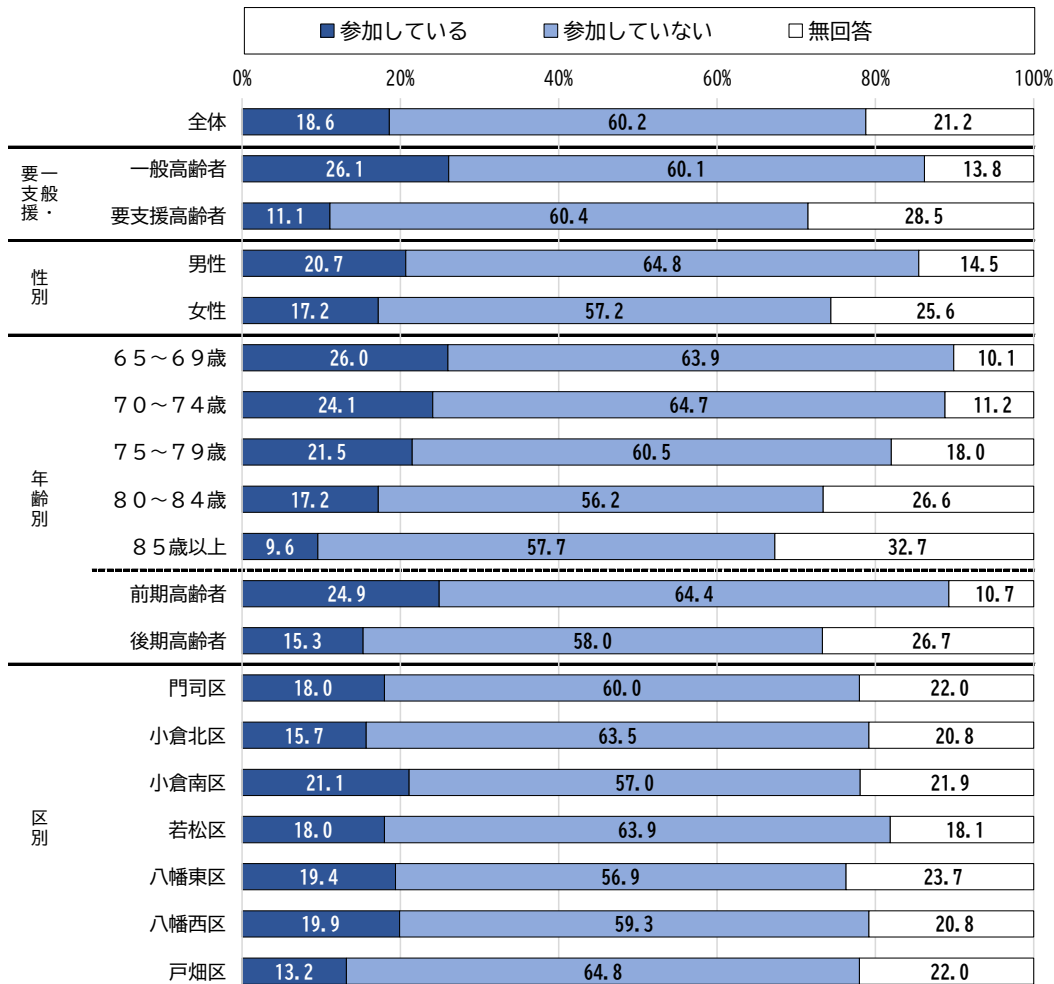
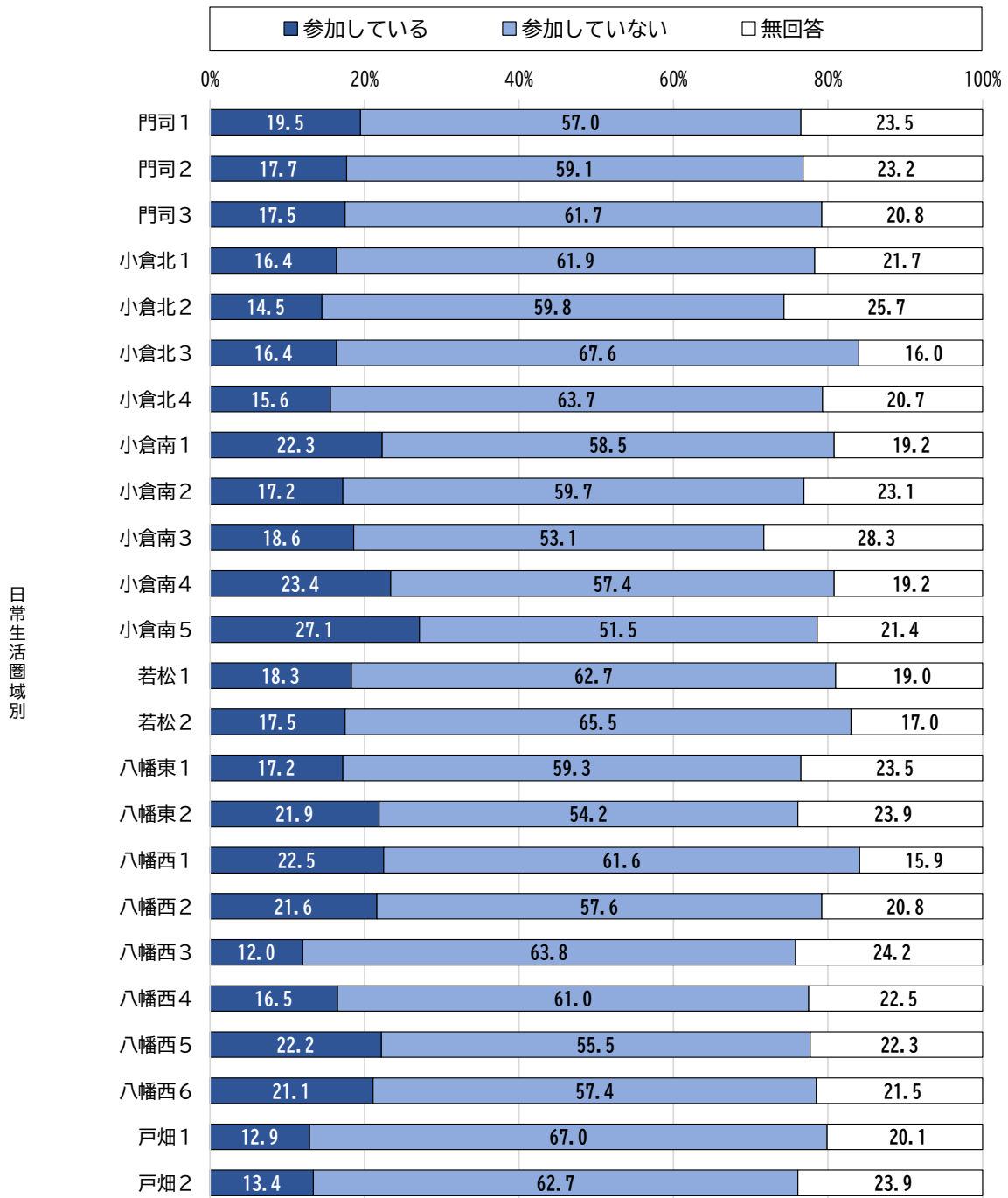


図 4-7-② 町内会・自治会への参加 【日常生活圏域別】



(8) 収入のある仕事への参加

問5-Q1-⑧ 収入のある仕事に参加していますか。

収入のある仕事への参加については、市全体でみると、「参加している」割合が11.1%となっている。

「参加している」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が19.7%、要支援高齢者が2.7%となっており、一般高齢者が17.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が16.0%、女性が8.2%となっており、男性が7.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、65～69歳が33.1%で最も高くなっており、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が25.5%、後期高齢者が3.9%となっており、前期高齢者が21.6ポイント高くなっている。

図4-8-① 収入のある仕事への参加 【全域】

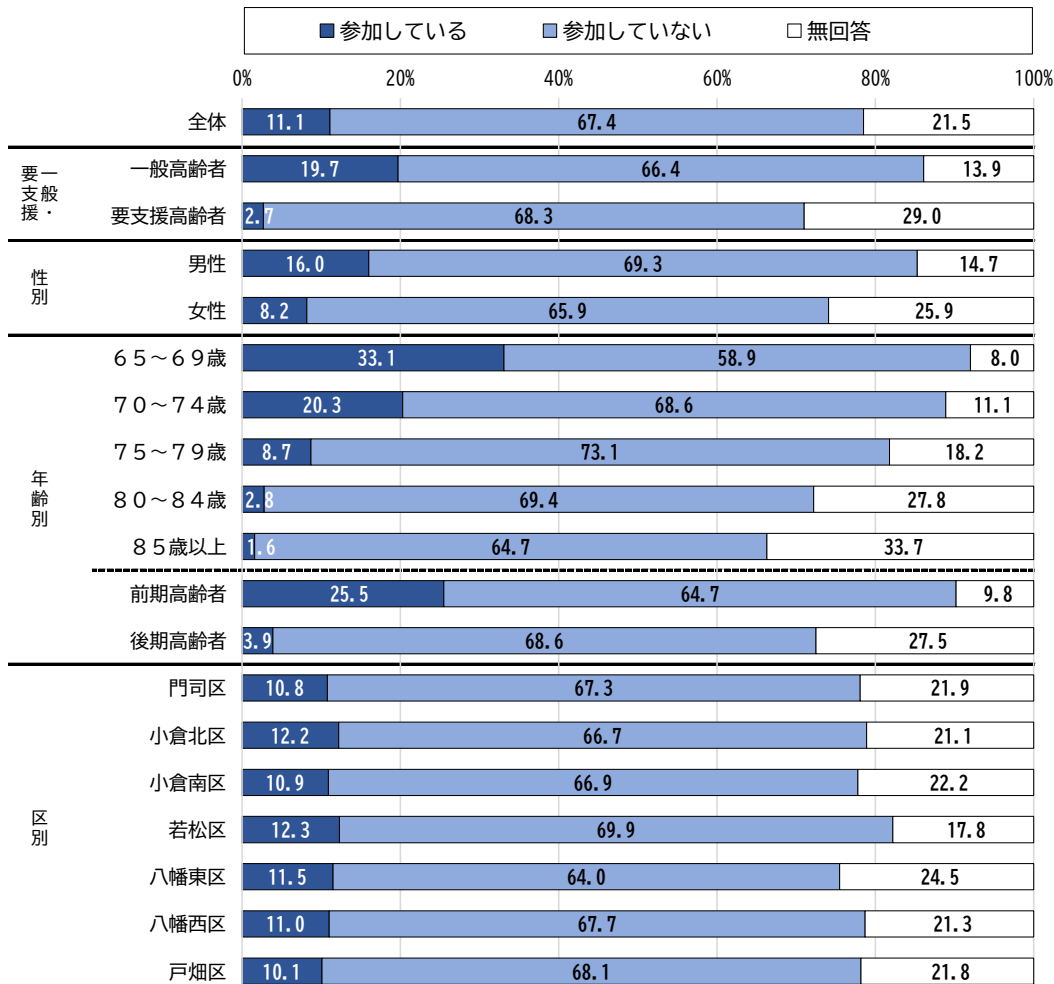
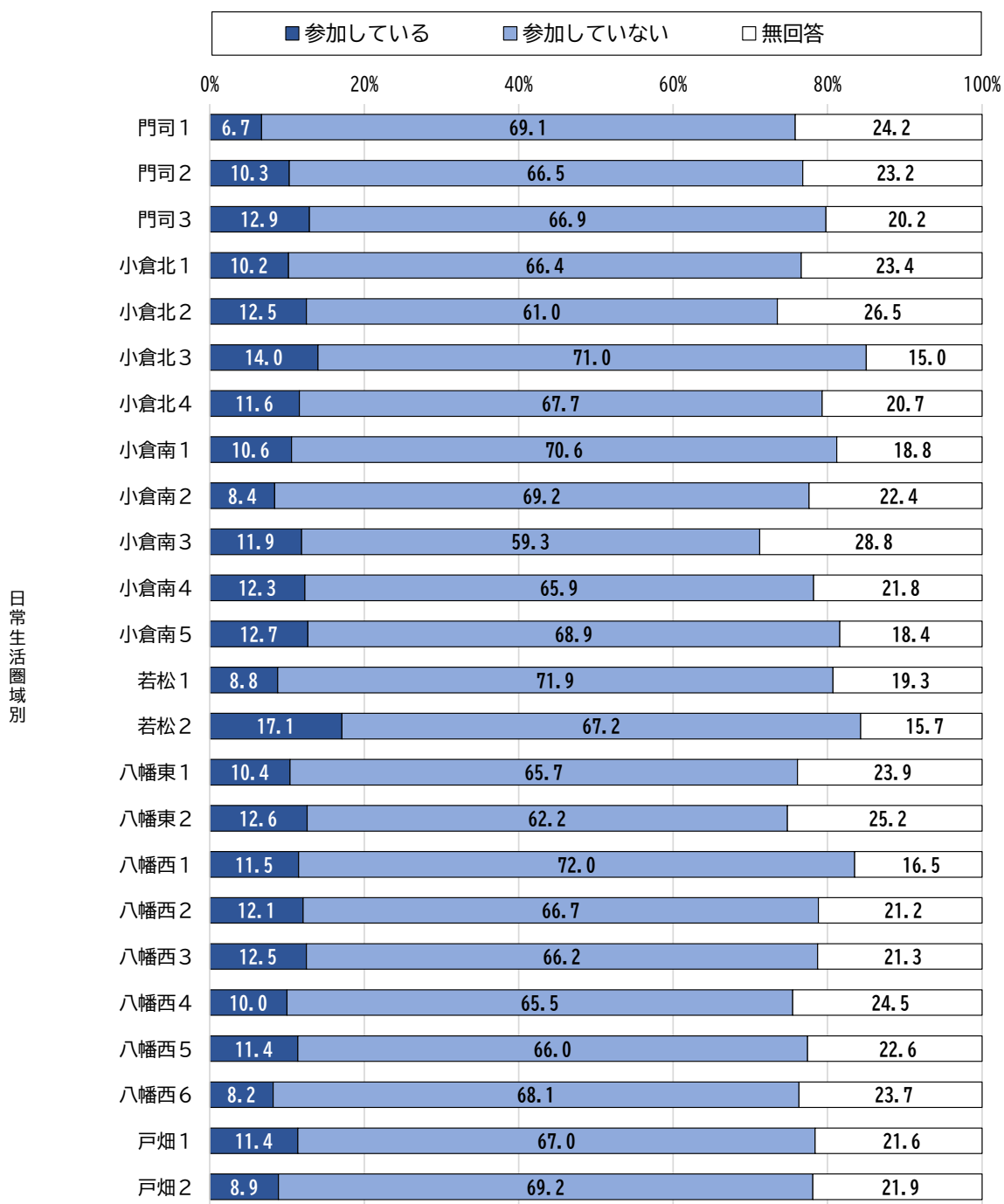


図 4-8-② 収入のある仕事への参加 【日常生活圏域別】



(9) 地域活動への参加意向

問5-Q2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加してみたいかを尋ねたところ、市全体でみると、「参加の意向がある」と回答した割合は41.6%、「参加したくない」の割合は49.4%となっている。

「参加の意向がある」割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が47.1%、要支援高齢者が36.2%となっており、一般高齢者が10.9ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が42.5%、女性が41.1%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が48.6%、後期高齢者が38.0%となっており、前期高齢者が10.6ポイント高くなっている。

図4-9-① 地域活動への参加意向 【全域】

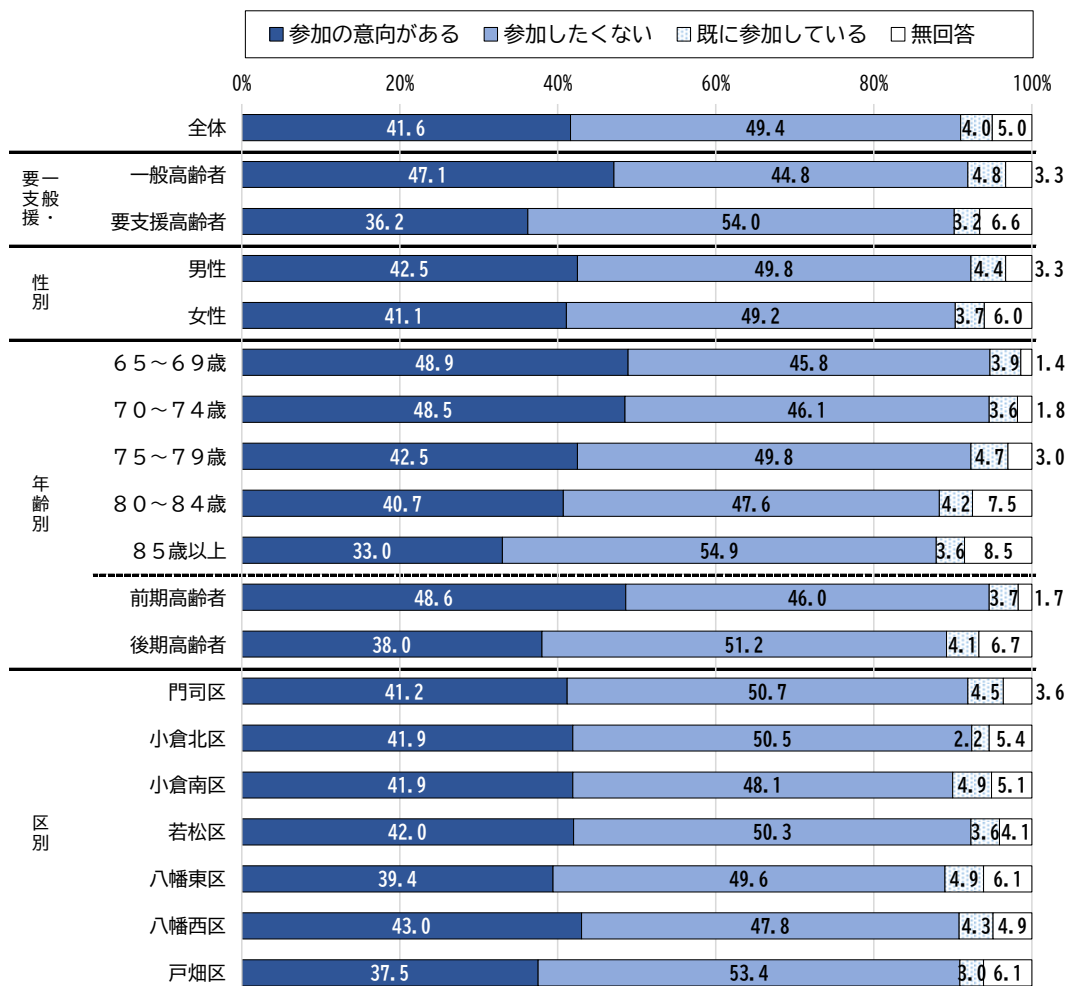
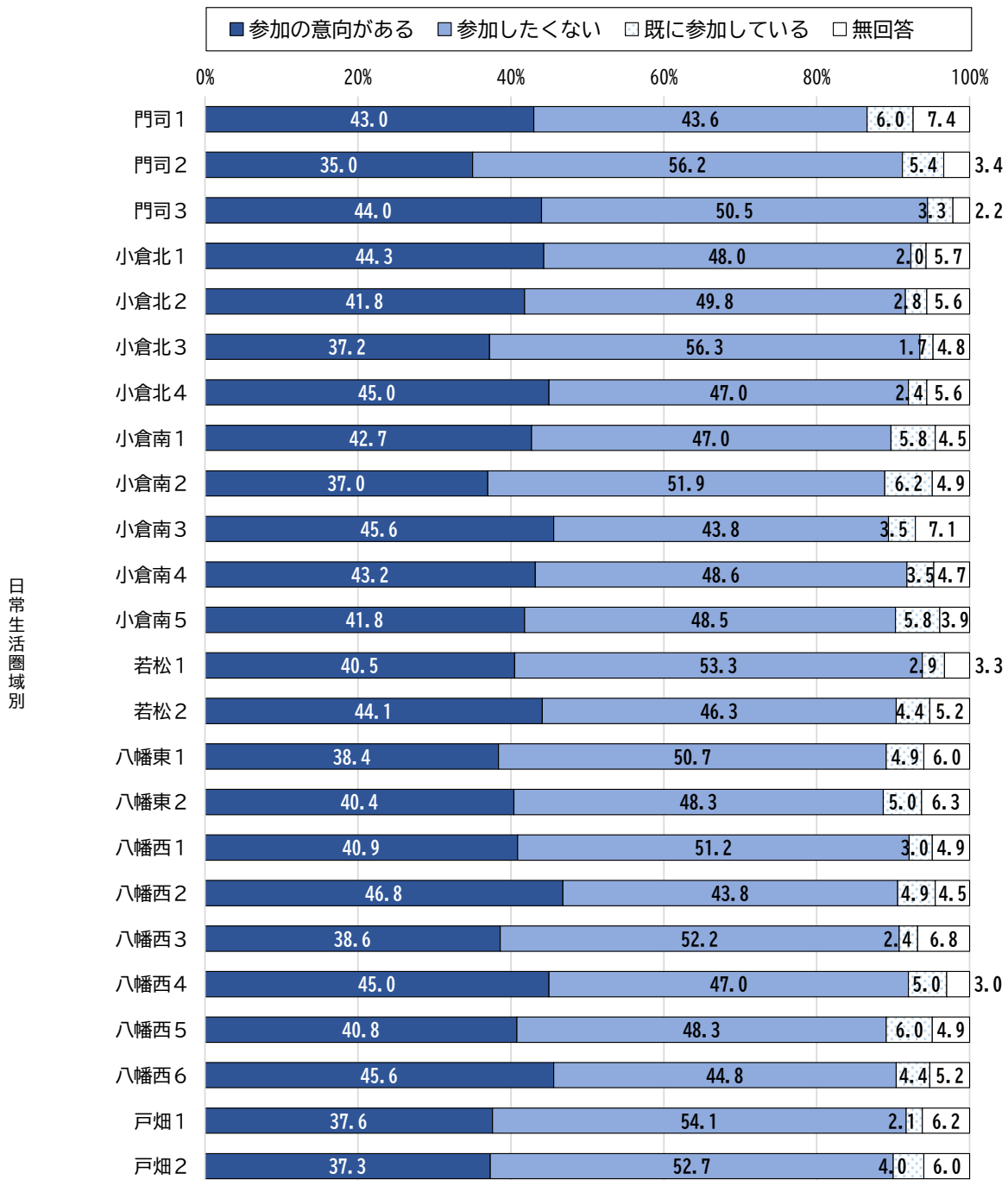


図 4-9-② 地域活動への参加意向 【日常生活圏域別】



(10) 地域活動の企画・運営への参加意向

問5-Q3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいかを尋ねたところ、市全体でみると、「参加の意向がある」と回答した割合は20.9%、「参加したくない」の割合は70.9%となっている。

「参加の意向がある」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が25.5%、要支援高齢者が16.4%となっており、一般高齢者が9.1ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が24.7%、女性が18.5%となっており、男性が6.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、65～69歳が26.3%で最も高く、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が25.8%、後期高齢者が18.4%となっており、前期高齢者が7.4ポイント高くなっている。

図4-10-① 地域活動の企画・運営への参加意向 【全域】

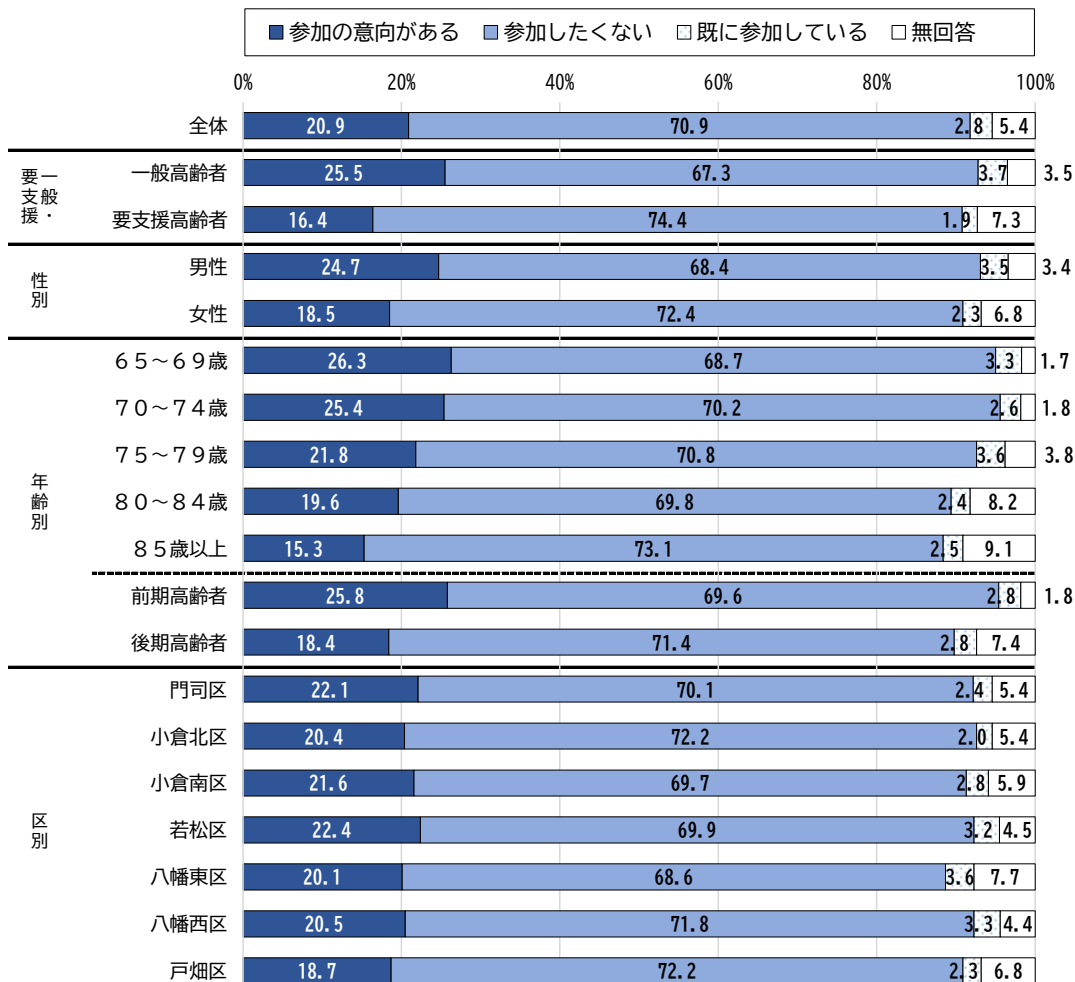
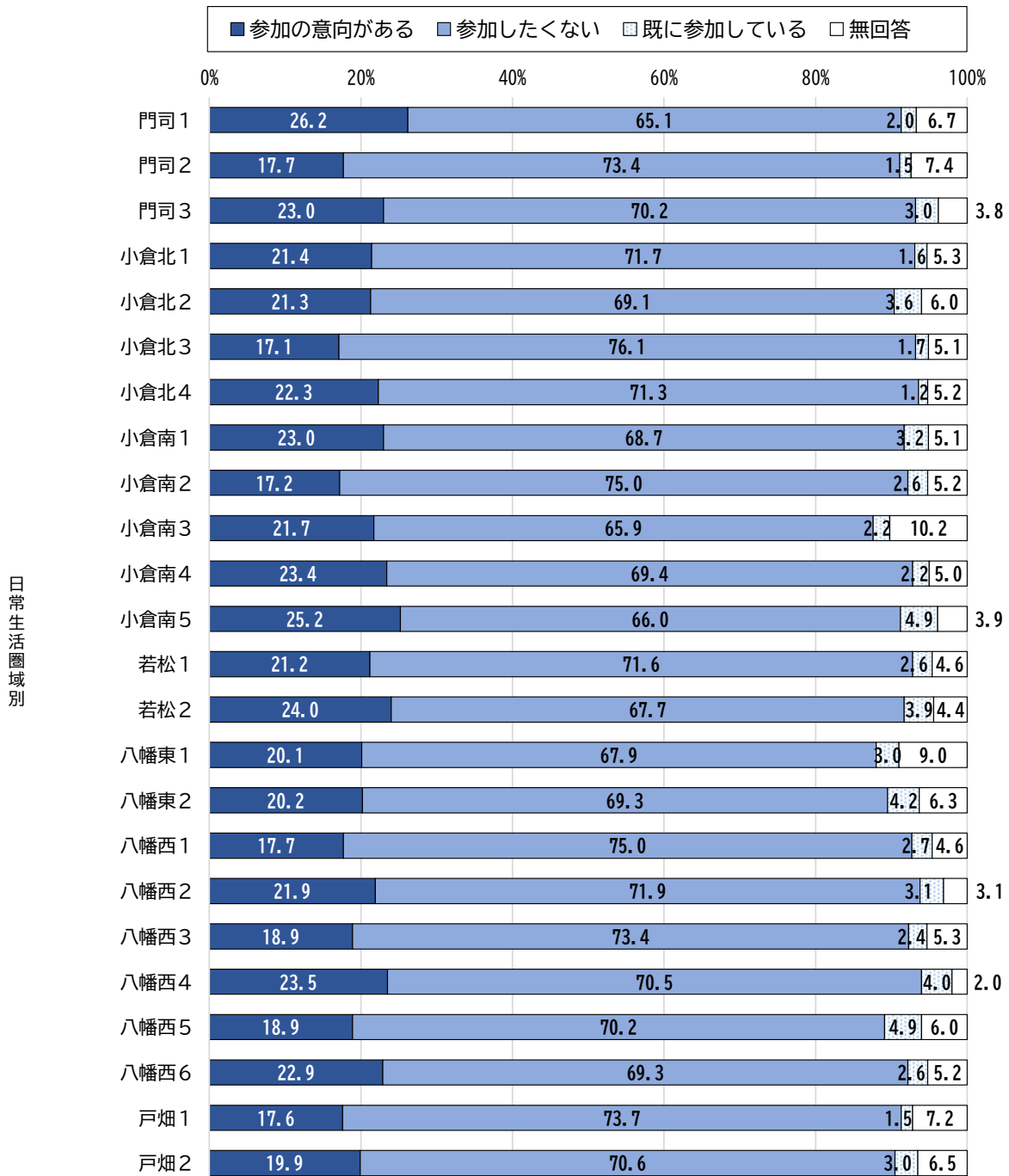


図 4-10-② 地域活動の企画・運営への参加意向 【日常生活圏域別】



2. たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問6-Q1 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人がいますか。

配偶者や近隣の方等、自身の心配事や愚痴を聞いてくれる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体で見ると、「いる」と回答した割合が92.1%となっている。

「いる」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が94.2%、要支援高齢者が90.2%となっており、一般高齢者が4.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が89.9%、女性が93.7%となっており、女性が3.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、前期高齢者が93.5%、後期高齢者が91.5%となっており、前期高齢者がやや高くなっている。

図4-11-① 心配事や愚痴を聞いてくれる人 【全域】

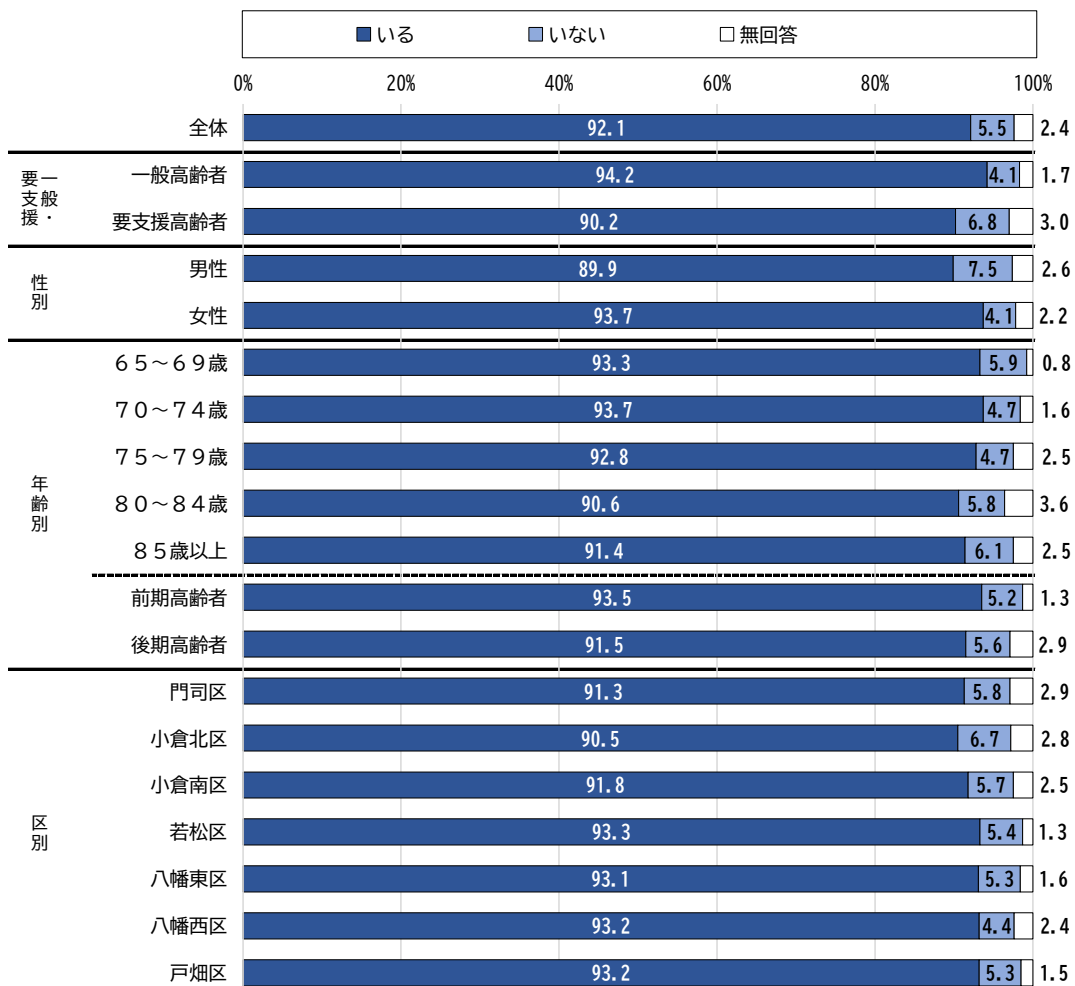
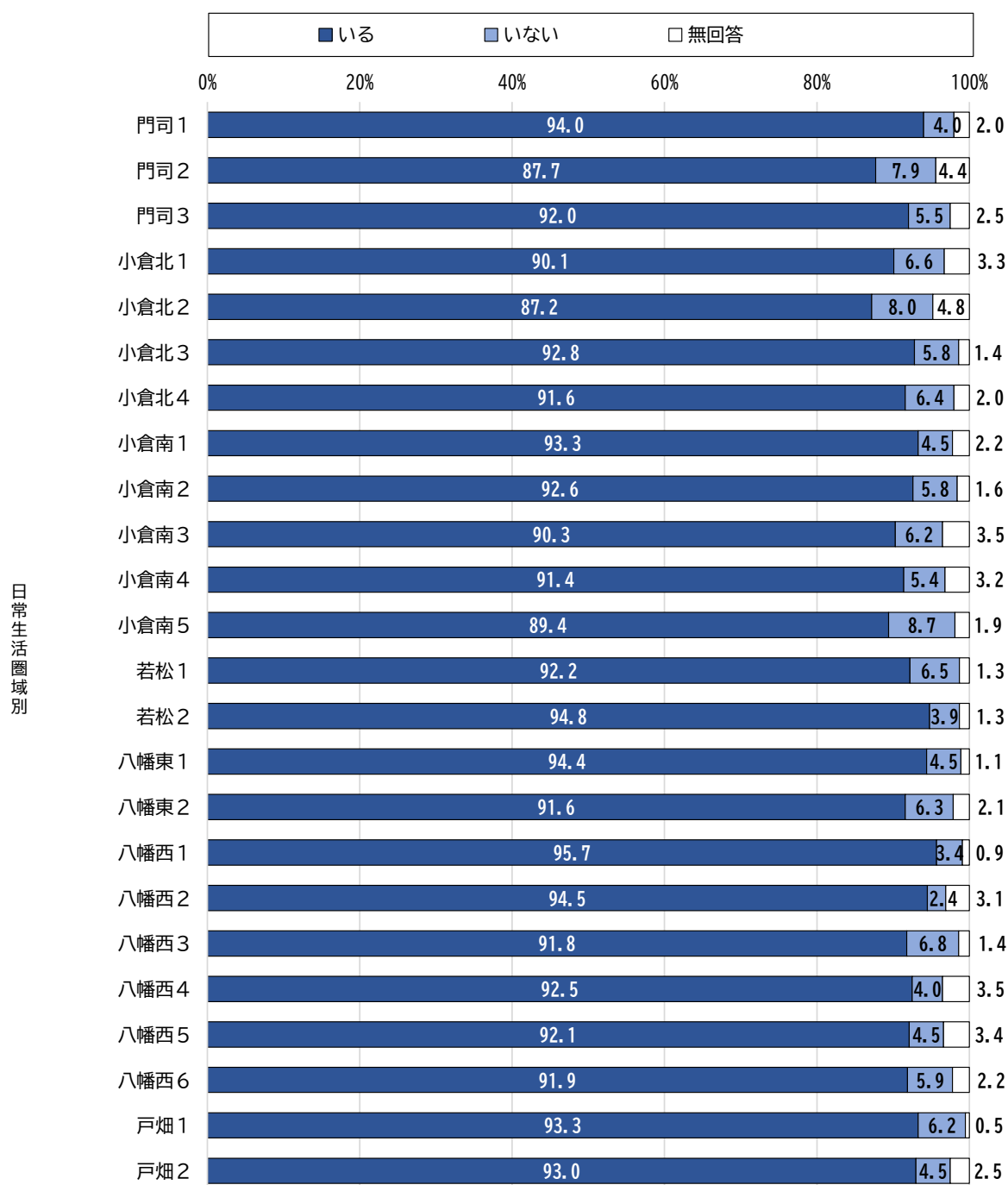


図 4-11-② 心配事や愚痴を聞いてくれる人 【日常生活圏域別】



(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問6-Q2 あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人がいますか。

自身が心配事や愚痴を聞いてあげる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「いる」と回答した割合が85.9%となっている。

「いる」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が90.8%、要支援高齢者が80.8%となっており、一般高齢者が10.0ポイント高くなっている。

男女別にみると、男性が84.6%、女性が86.6%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、65～69歳が92.8%と最も高くなっており、年齢層が高くなるにつれて低くなっている。また、前期高齢者が92.0%、後期高齢者が82.7%となっており、前期高齢者が9.3ポイント高くなっている。

図4-12-① 心配事や愚痴を聞いてあげる人 【全域】

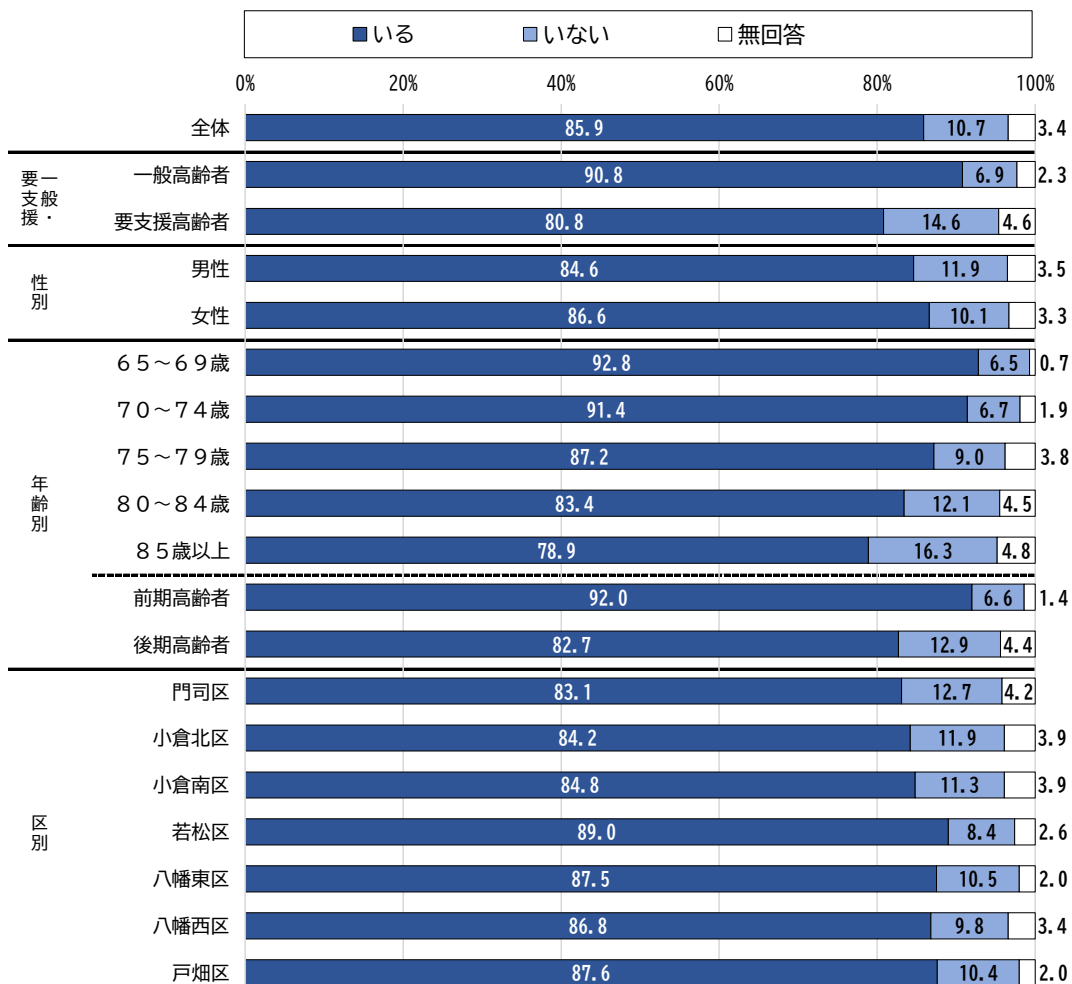
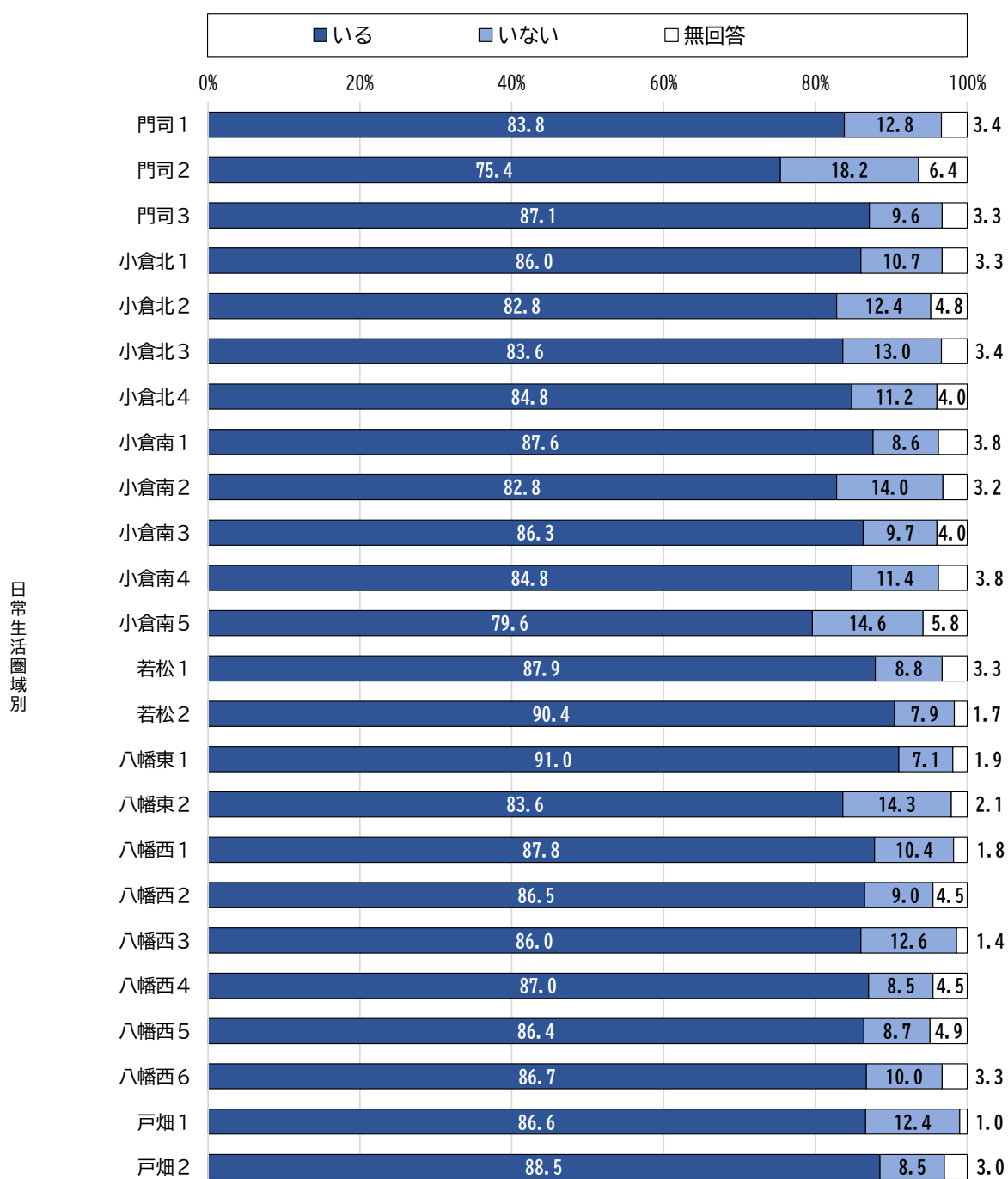


図 4-12-② 心配事や愚痴を聞いてあげる人 【日常生活圏域別】



(3) 看病や世話をしてくれる人

問6-Q3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人がいますか。

自身が病気で寝込んだときに、配偶者や同居の方等、看病や世話をしてくれる人がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「いる」と回答した割合が88.6%となっている。

「いる」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が91.5%、要支援高齢者が85.5%となっており、一般高齢者が6.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が89.7%、女性が88.2%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも8割以上となっているが、80～84歳が84.7%と他の年齢層に比べてやや低くなっている。また、前期高齢者が90.8%、後期高齢者が87.7%となっており、前期高齢者が3.1ポイント高くなっている。

図4-13-① 看病や世話をしてくれる人 【全域】

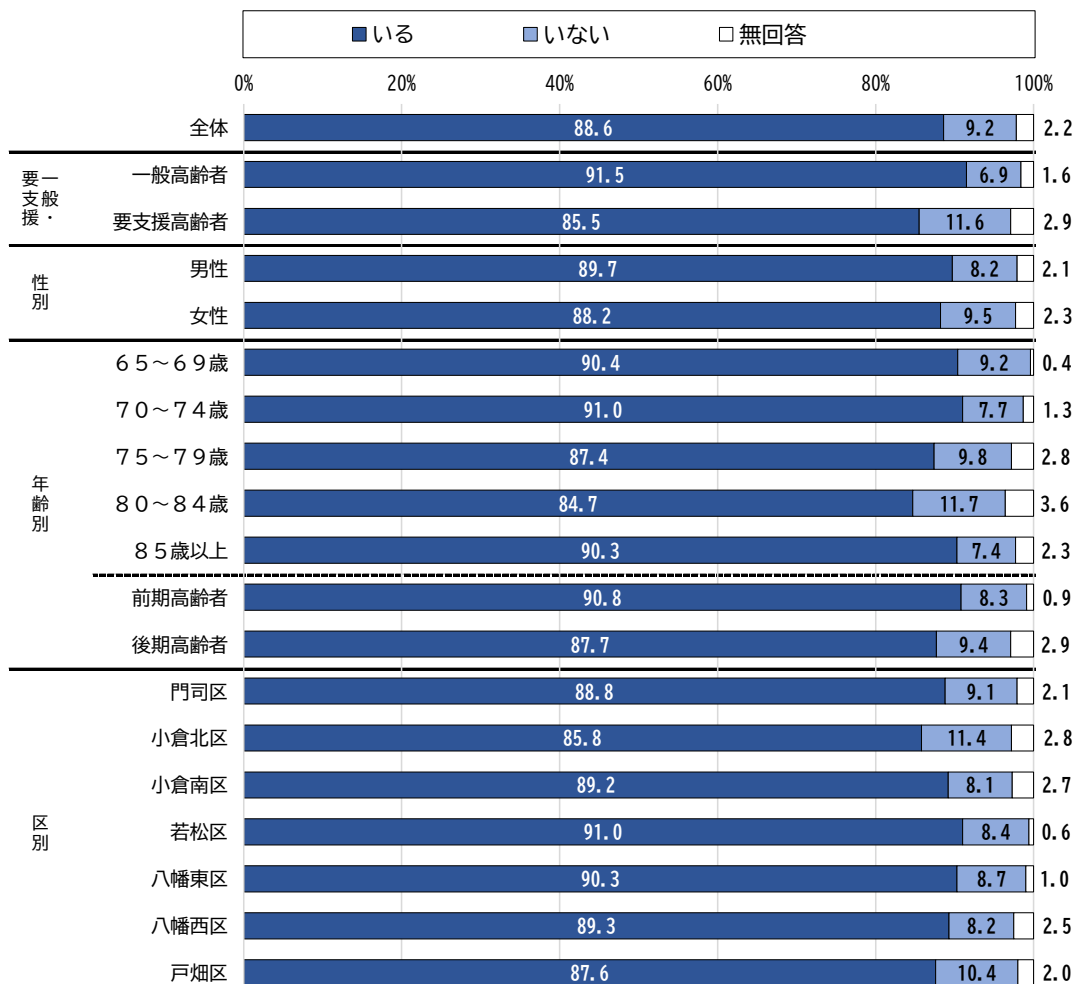
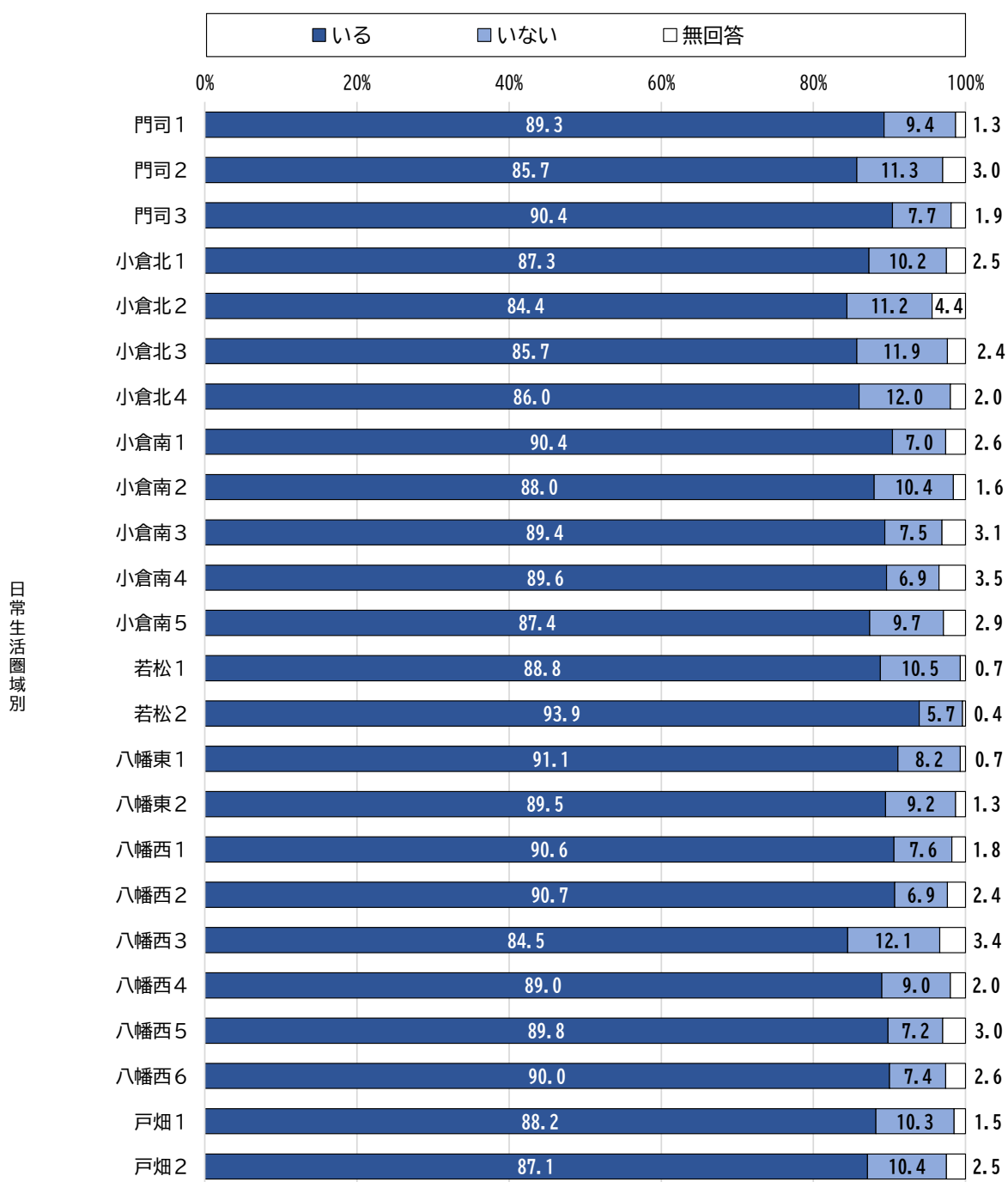


図 4-13-② 看病や世話をしてくれる人 【日常生活圏域別】



(4) 看病や世話をしあける人

問6-Q4 看病や世話をしあける人がいますか。

自身が看病や世話をしあける相手がいるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「いる」と回答した割合が72.2%となっている。

「いる」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が84.2%、要支援高齢者が60.2%となっており、一般高齢者が24.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が78.2%、女性が68.5%となっており、男性が9.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて「いる」の割合は減少しており、85歳以上では56.8%と他の年齢層に比べて低くなっている。また、前期高齢者が84.8%、後期高齢者が65.8%となっており、前期高齢者が19.0ポイント高くなっている。

図4-14-① 看病や世話をしあける人 【全域】

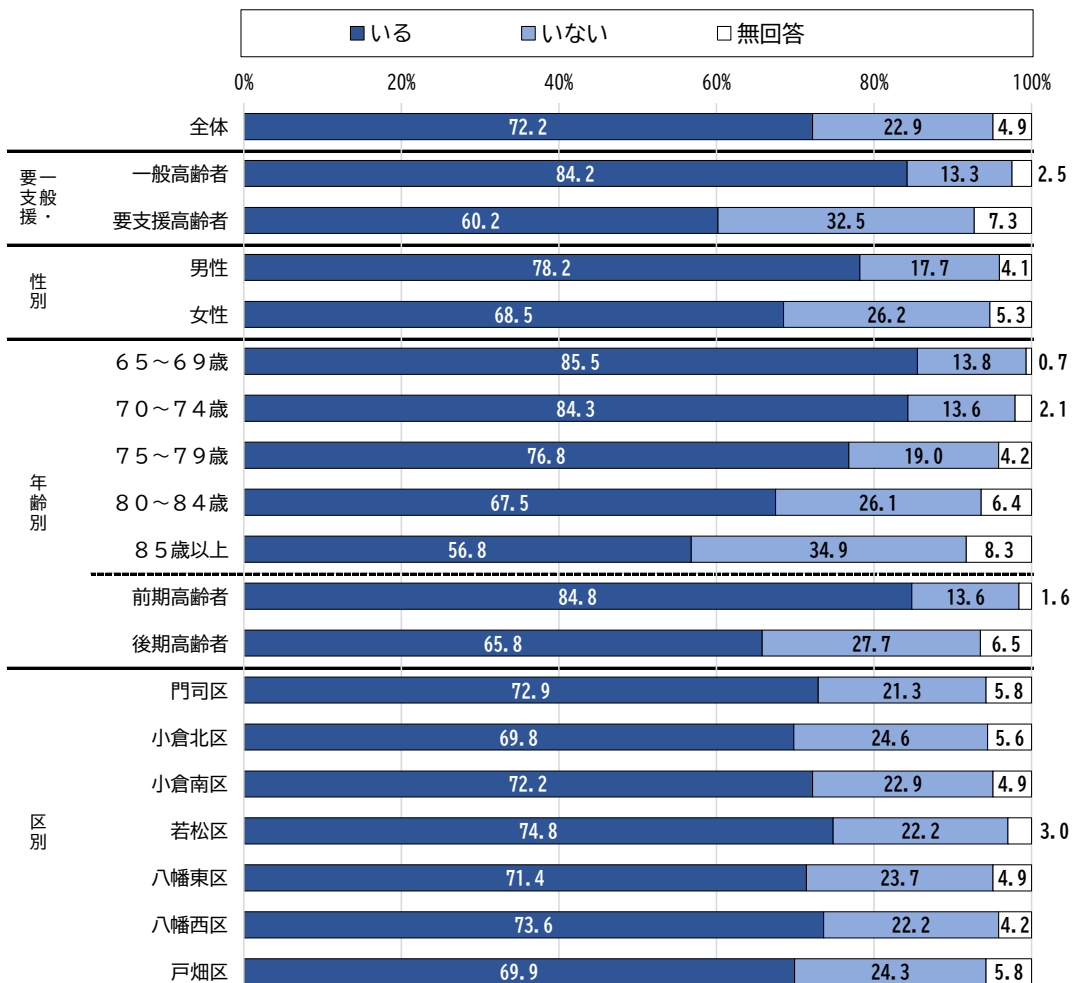
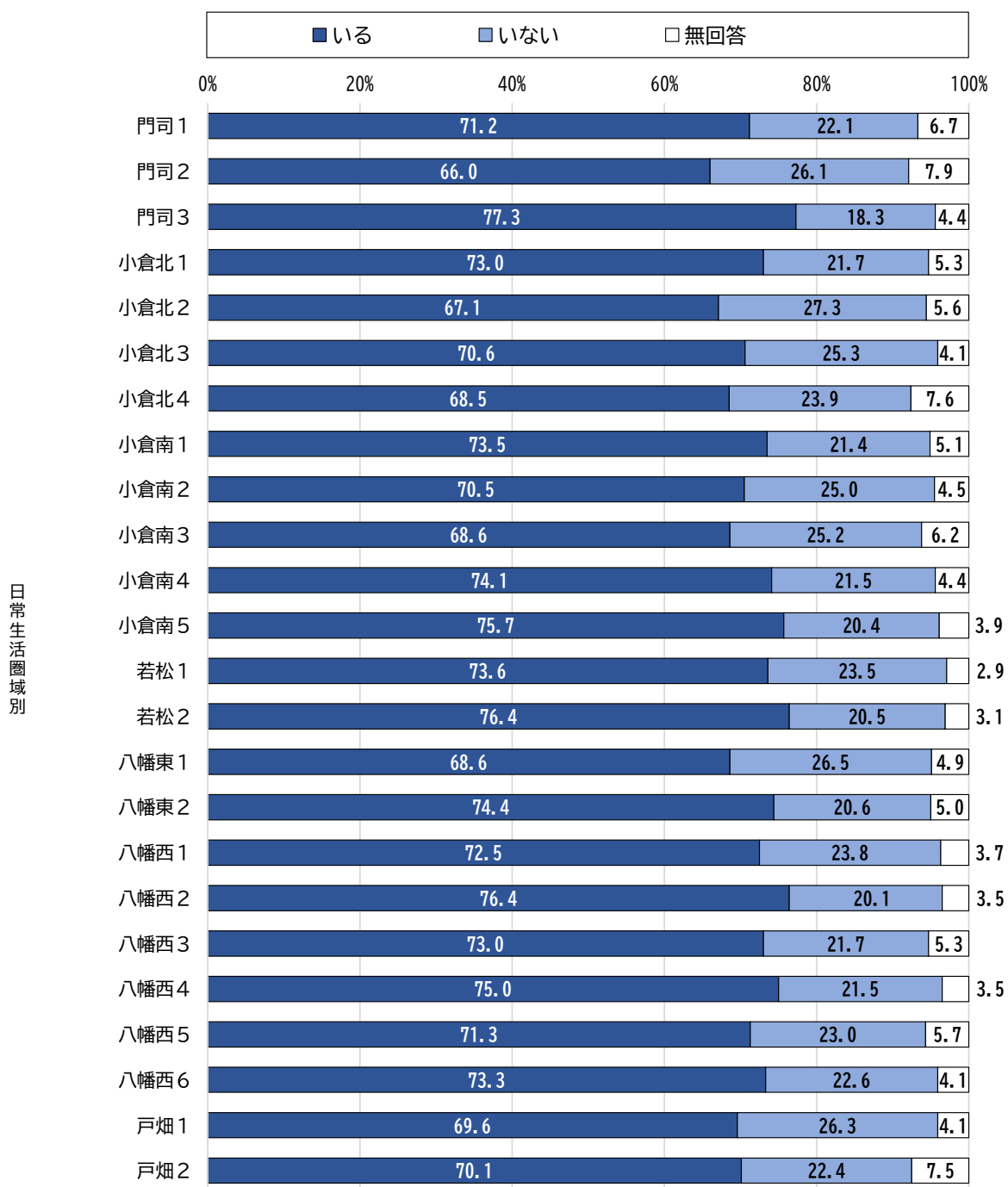


図 4-14-② 看病や世話をしあける人 【日常生活圏域別】



3. 認知症に係る相談

(1) 自身や家族の認知症の症状

問8-Q1 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

自身に認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状があるかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「はい」と回答した割合が10.7%となっている。

「はい」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が9.3%、要支援高齢者が12.0%と要支援高齢者がやや高くなっている。

男女別にみると、男性が11.8%、女性が9.9%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、80～84歳が13.9%と他の年齢層に比べてやや高くなっている。また、前期高齢者が8.4%、後期高齢者が11.8%となっており、後期高齢者が3.4ポイント高くなっている。

図4-15-① 自身や家族の認知症の症状 【全域】

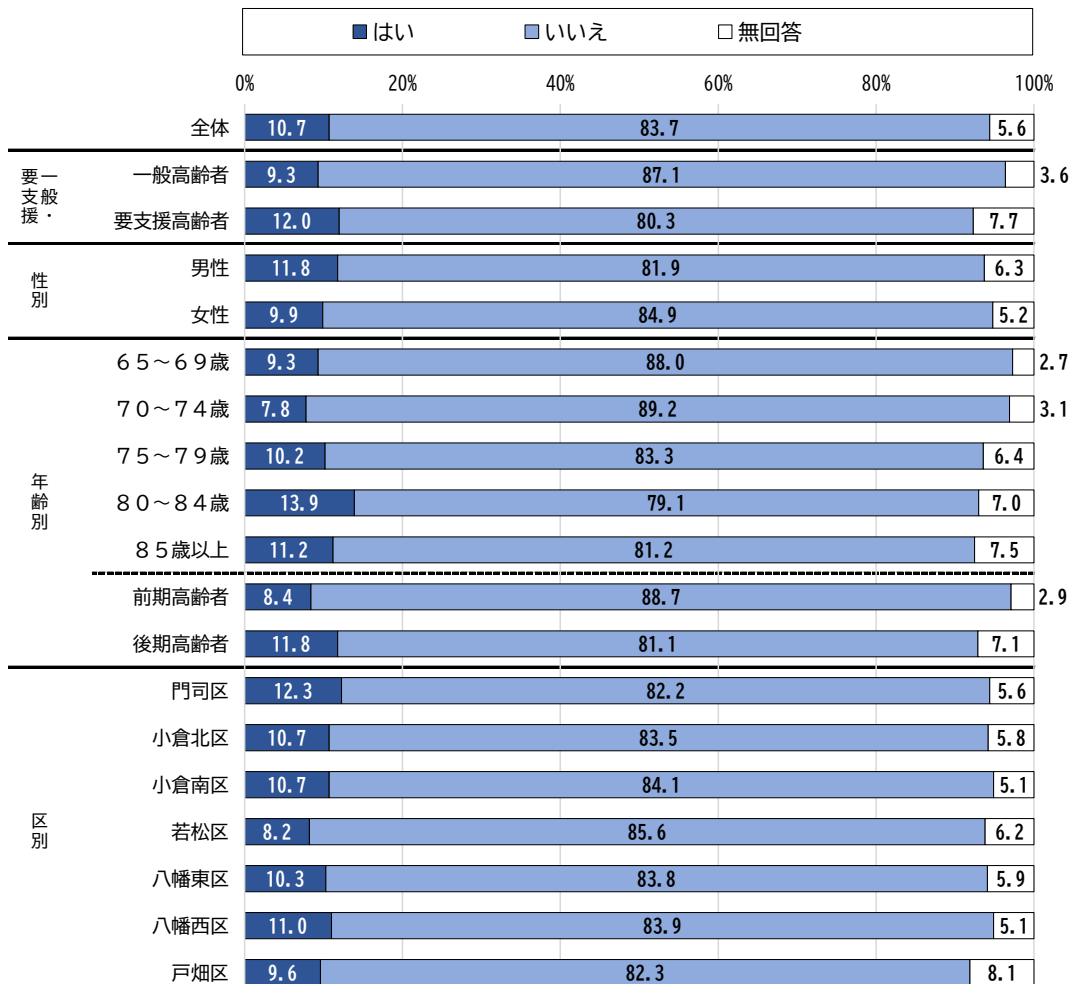
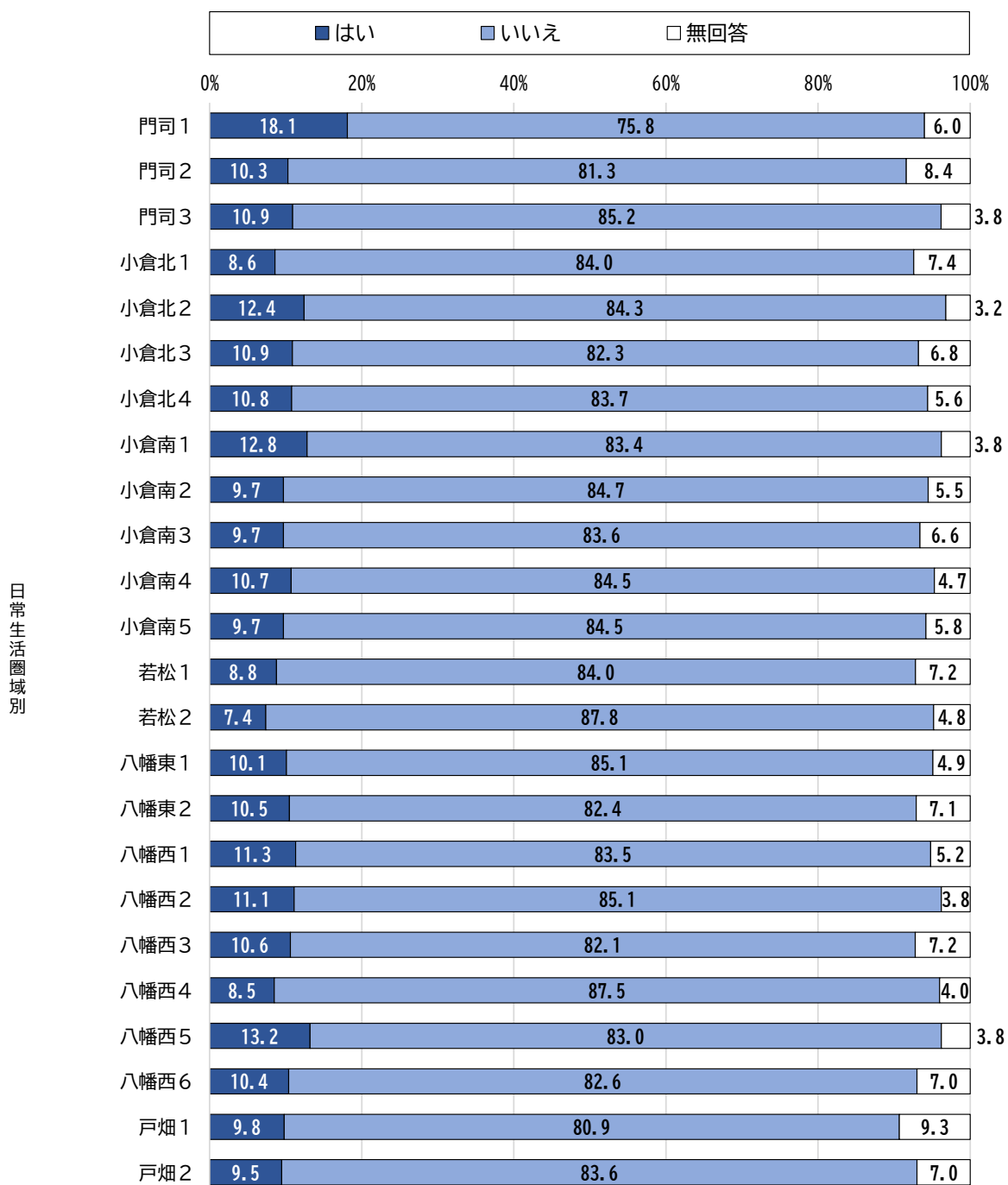


図 4-15-② 自身や家族の認知症の症状 【日常生活圏域別】



(2) 認知症に関する相談窓口の把握

問8-Q2 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症に関する相談窓口を知っているかどうか尋ねたところ、市全体でみると、「はい」と回答した割合が23.9%となっている。

「はい」の割合を一般・要支援別にみると、大きな差はみられない。

性別にみると、男性が21.6%、女性が25.4%となっており、女性が3.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、大きな差はみられない。また、前期高齢者・後期高齢者においても大きな差はみられない。

図4-16-① 認知症に関する相談窓口の把握 【全域】

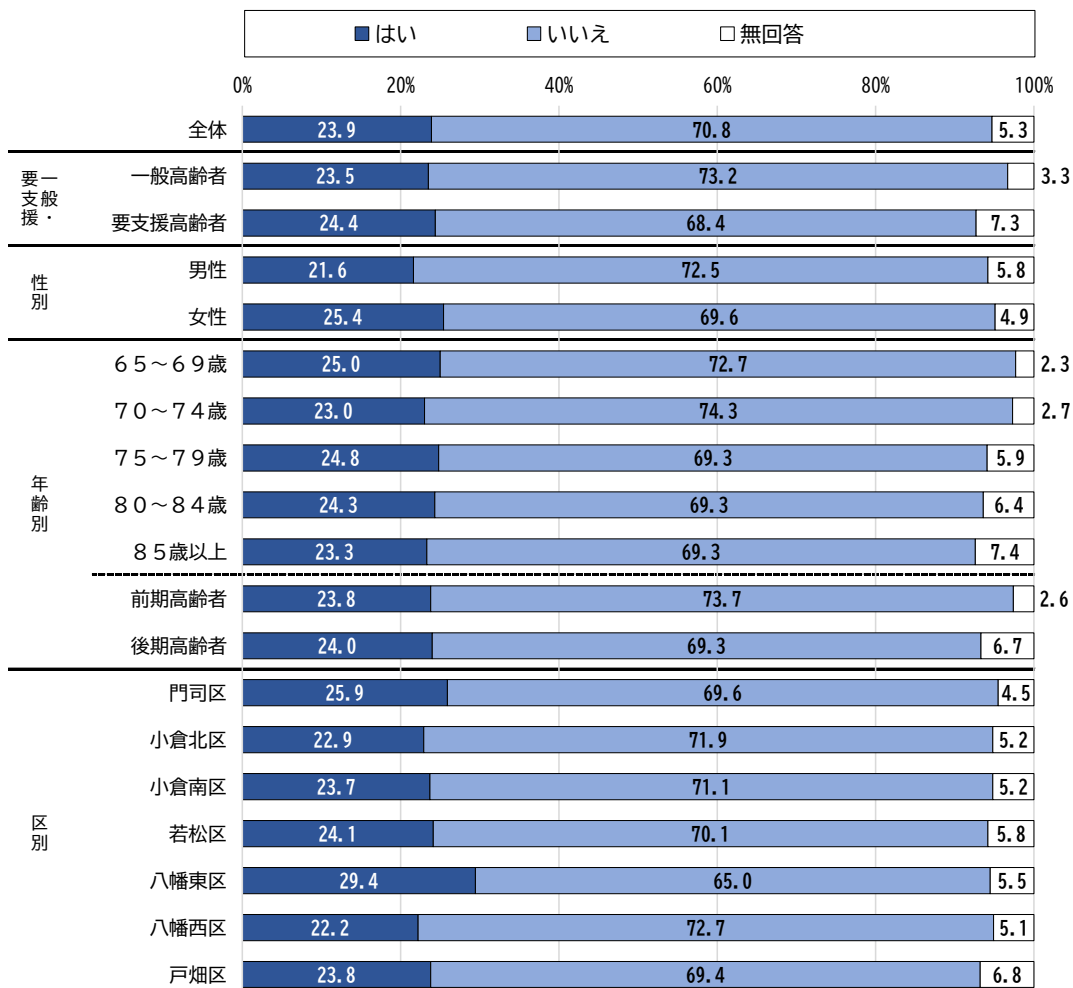
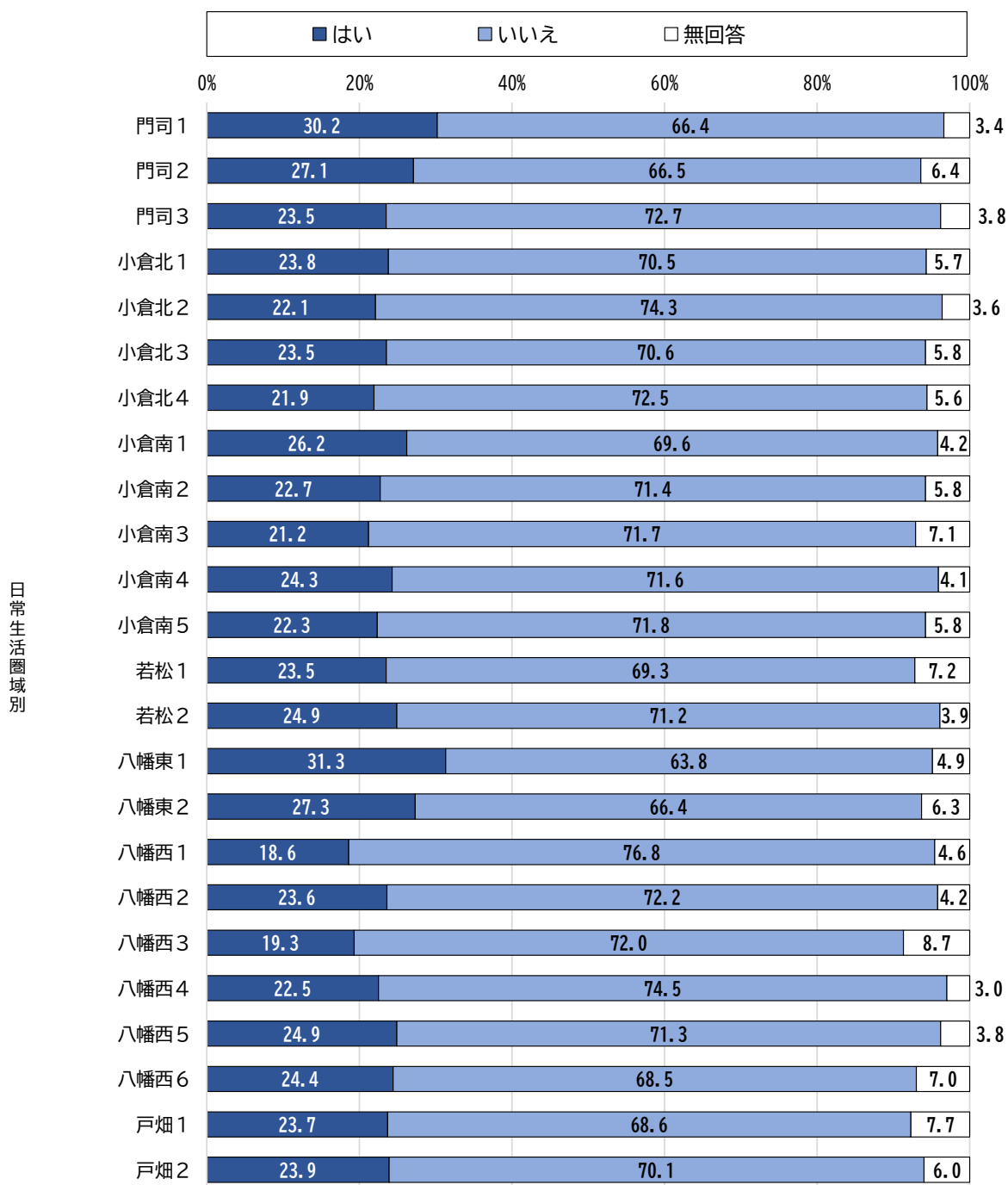


図 4-16-② 認知症に関する相談窓口の把握 【日常生活圏域別】



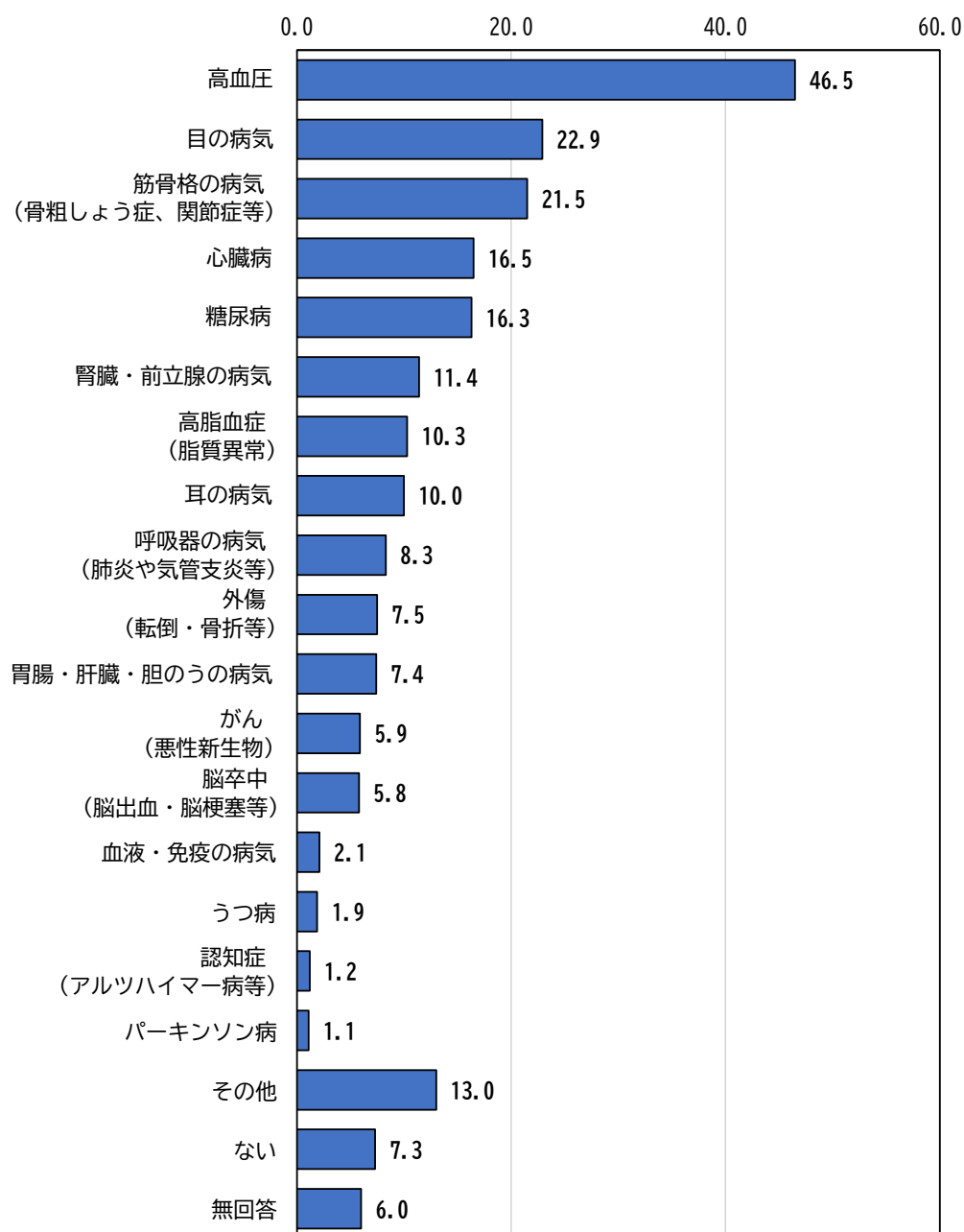
第5章 健康・疾病

1. 疾病

問7-Q6 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。

現在治療中、または後遺症のある病気については、市全体でみると、「高血圧」の割合が46.5%で最も高く、次いで「目の病気」22.9%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」21.5%、「心臓病」16.5%、「糖尿病」16.3%などとなっている。

図5-1 現在治療中または後遺症のある病気



(1) 高血圧

高血圧の有病率は、市全体で見ると、46.5%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が44.2%、要支援高齢者が48.8%となっており、要支援高齢者が4.6ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が44.9%、女性が47.4%となっており、女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、おおむね年齢層が高くなるにつれて有病率が高くなっている。また、前期高齢者が41.6%、後期高齢者が48.9%となっており、後期高齢者が7.3ポイント高くなっている。

図 5-2-① 高血圧の有病率【全域】

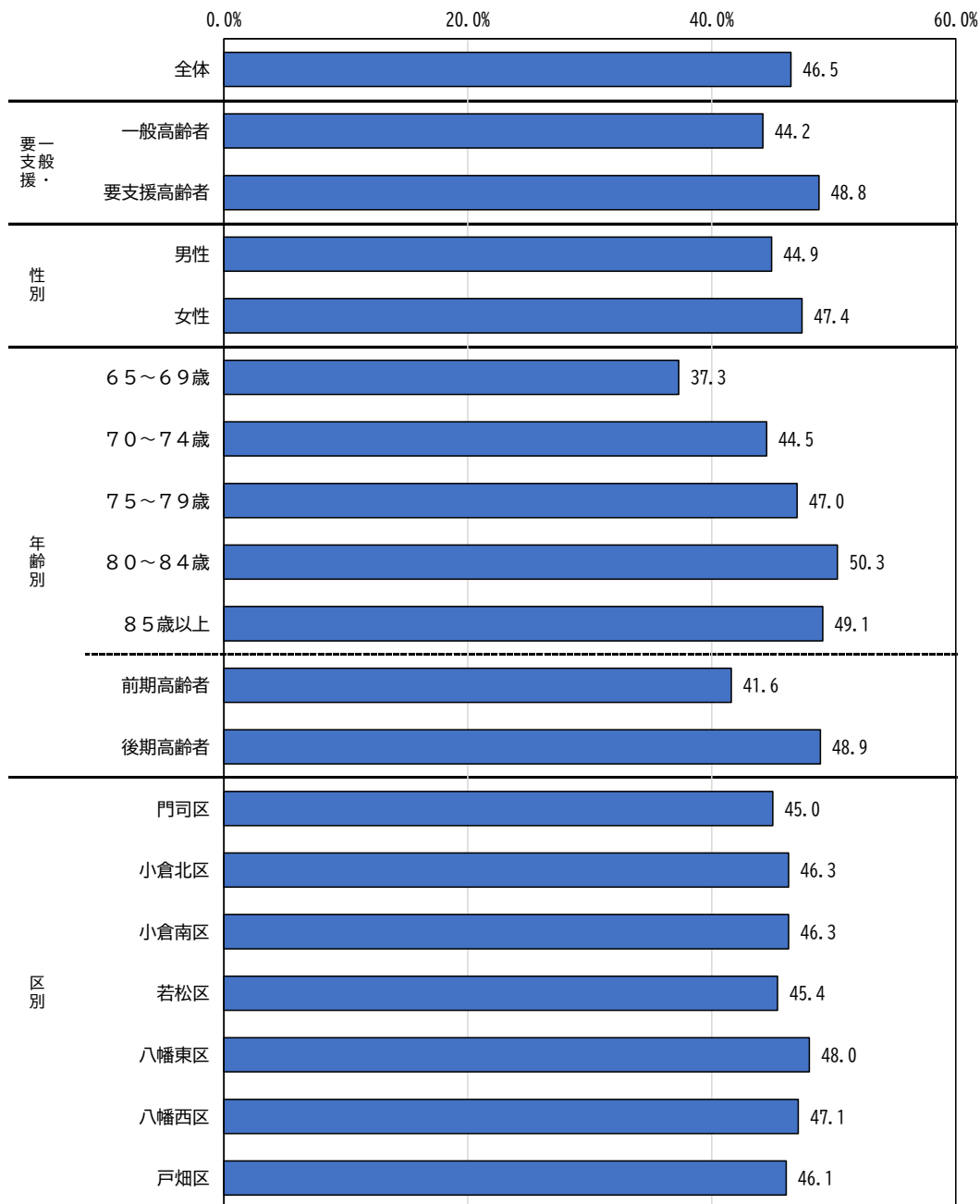
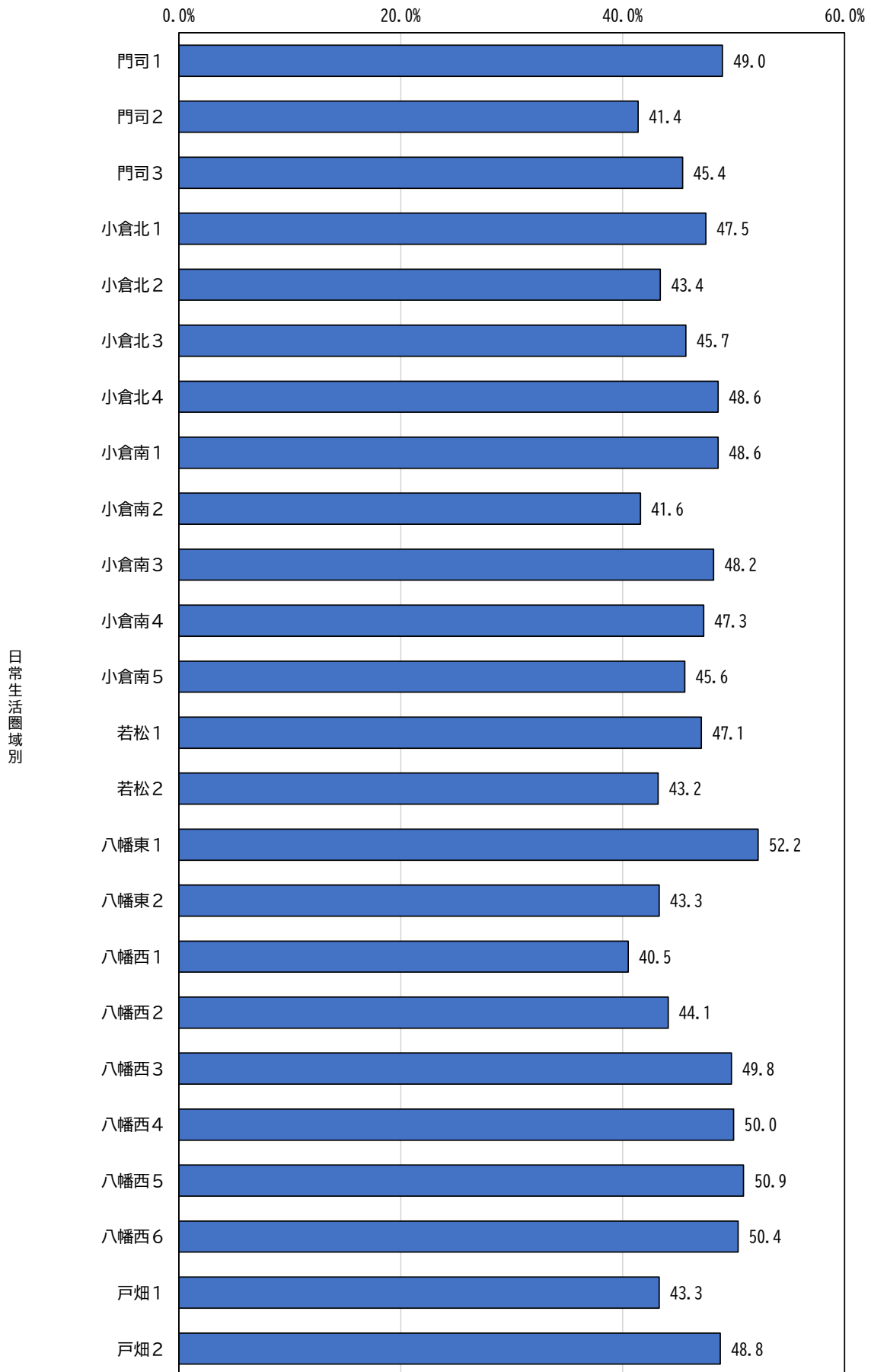


図 5-2-② 高血圧の有病率【日常生活圏域別】



(2) 脳卒中

脳卒中（脳出血・脳梗塞等）の有病率は、市全体でみると、5.8%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が3.0%、要支援高齢者が8.4%となっており、要支援高齢者が5.4ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が8.0%、女性が4.3%となっており、男性が3.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、75～79歳の年齢層で有病率が高い傾向がみられる。また、前期高齢者が5.0%、後期高齢者が6.1%となっており、後期高齢者がやや高くなっている。

図 5-3-① 脳卒中の有病率【全域】

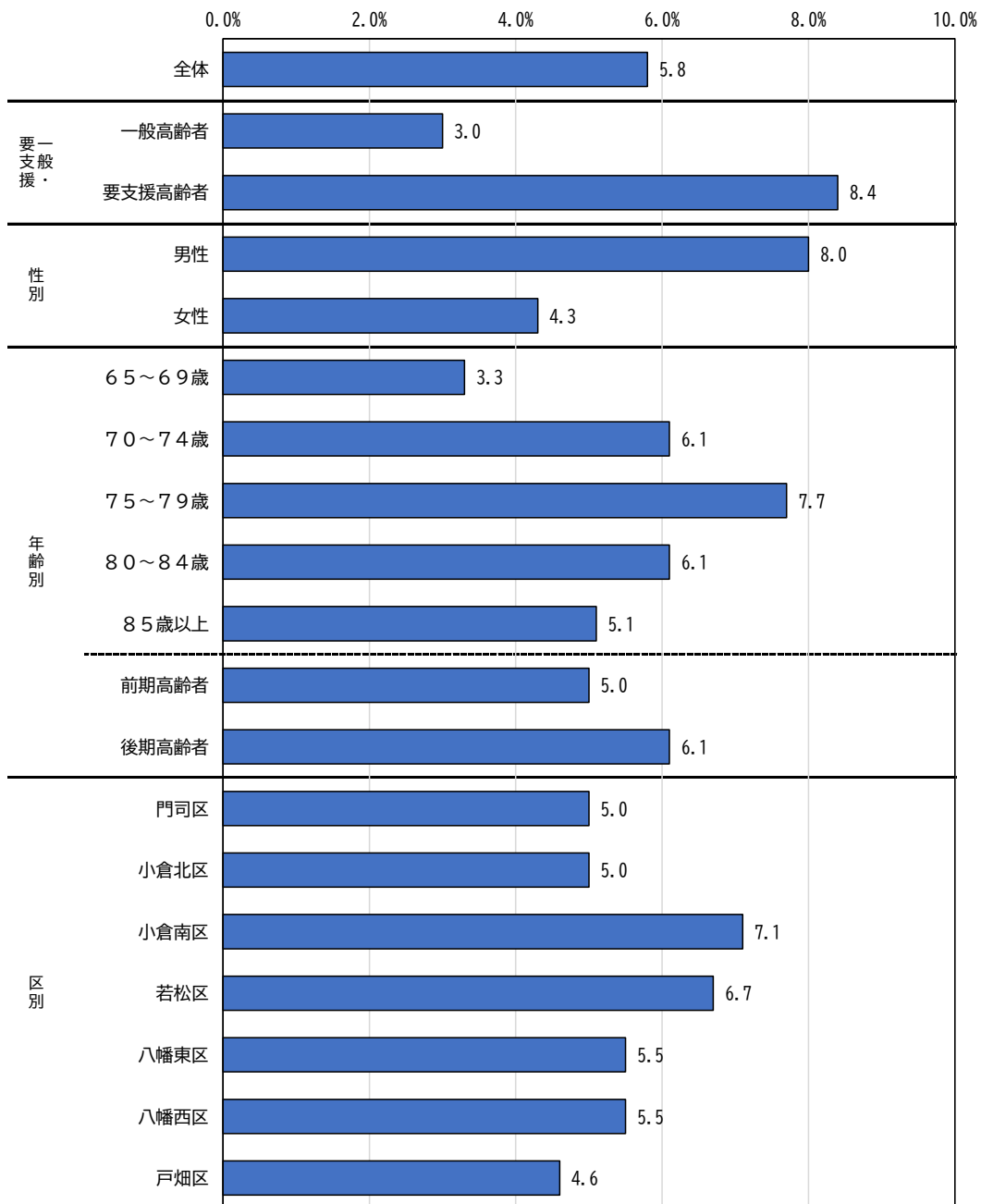
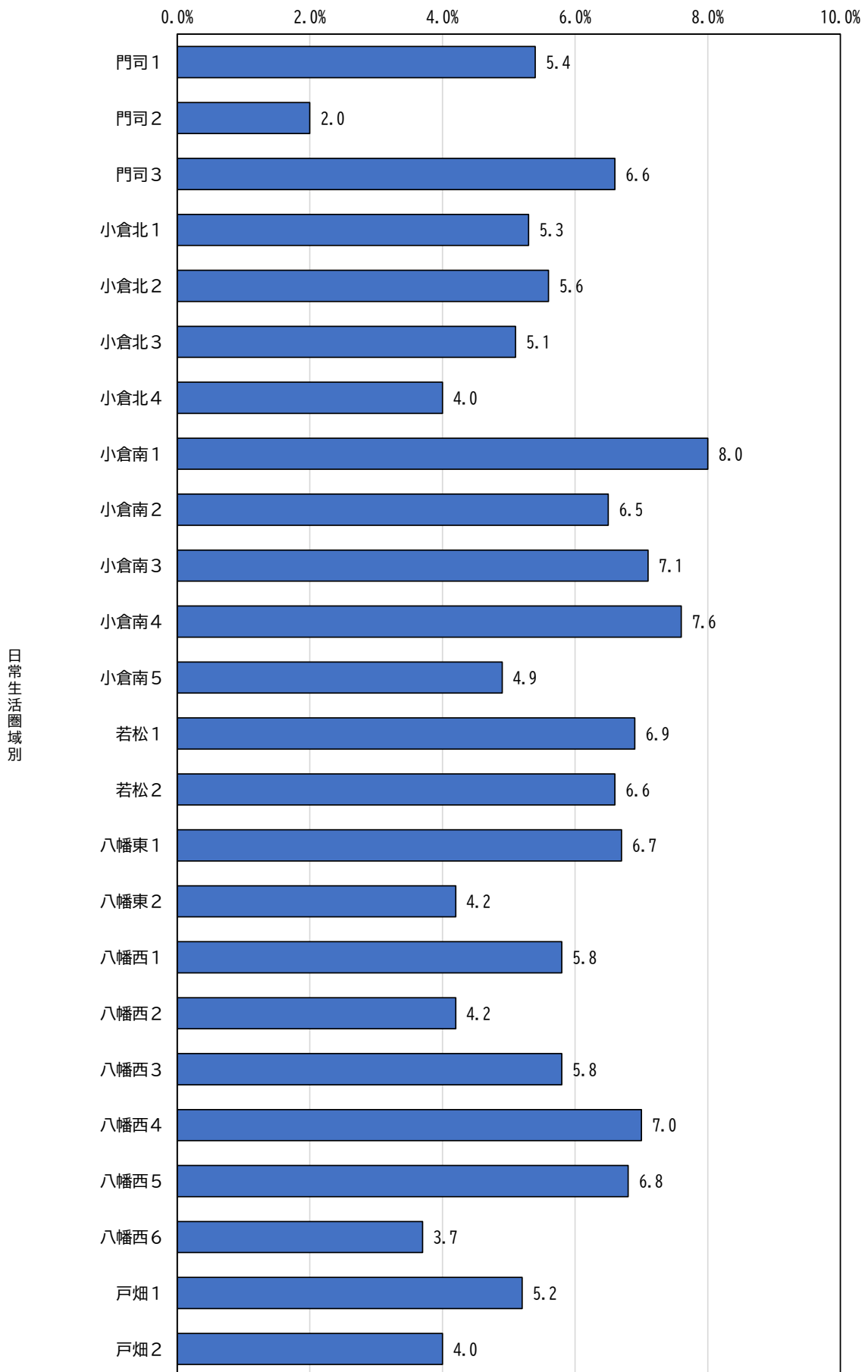


図 5-3-② 脳卒中の有病率【日常生活圏域別】



(3) 心臓病

心臓病についてみると、市全体の有病率は16.5%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が12.1%、要支援高齢者が20.9%となっており、要支援高齢者が8.8ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が19.6%、女性が14.5%となっており、男性が5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて有病率は高くなっており、85歳以上で22.4%となっている。また、前期高齢者が10.4%、後期高齢者が19.7%となっており、後期高齢者が9.3ポイント高くなっている。

図 5-4-① 心臓病の有病率【全域】

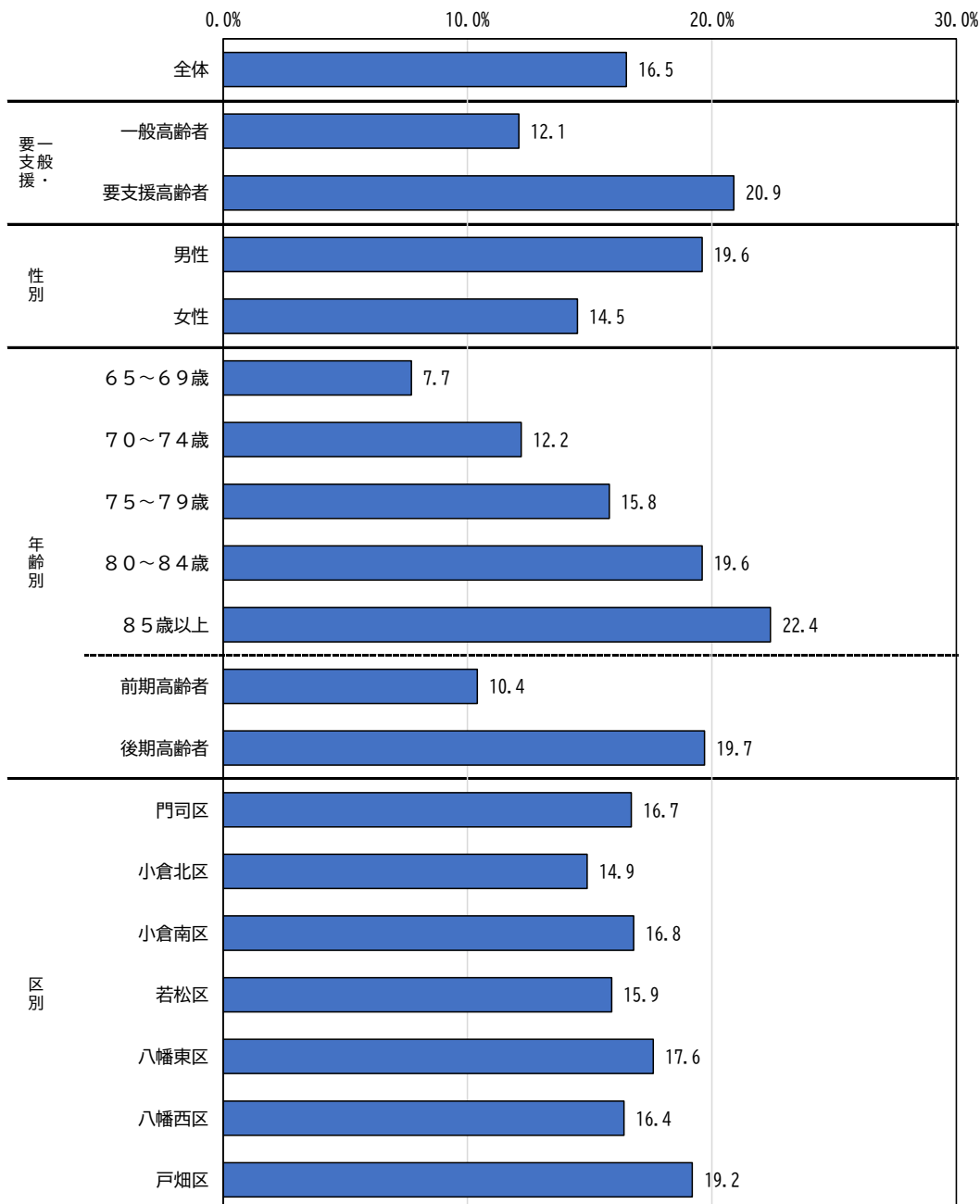
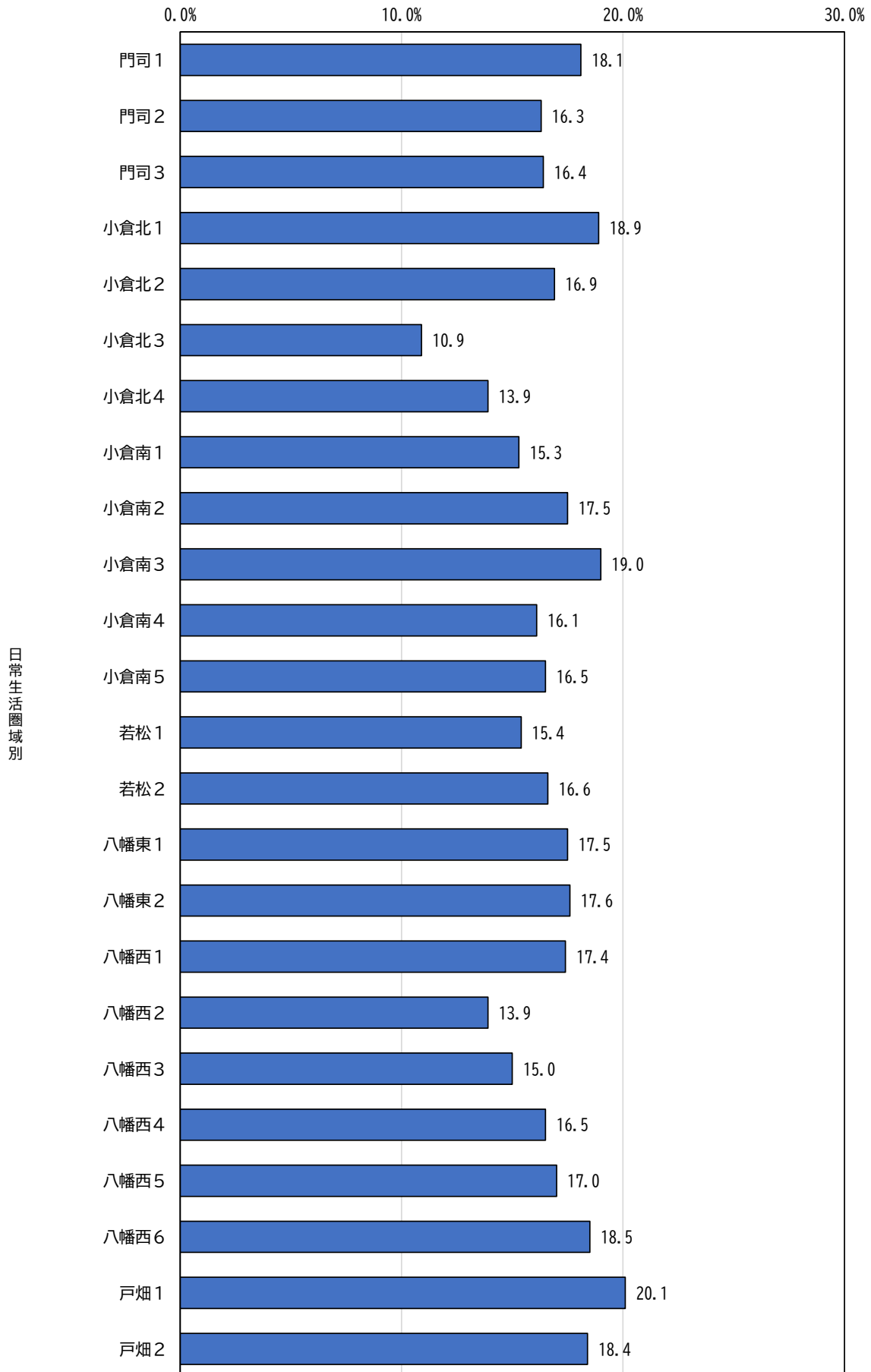


図 5-4-② 心臓病の有病率【日常生活圏域別】



(4) 糖尿病

糖尿病についてみると、市全体の有病率は16.3%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者、要支援高齢者ともに16.3%となっている。

性別にみると、男性が22.3%、女性が12.4%となっており、男性が9.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、85歳以上が12.7%と他の年齢層に比べて低くなっている。また、前期高齢者が17.7%、後期高齢者が15.6%となっており、前期高齢者がやや高くなっている。

図 5-5-① 糖尿病の有病率【全域】

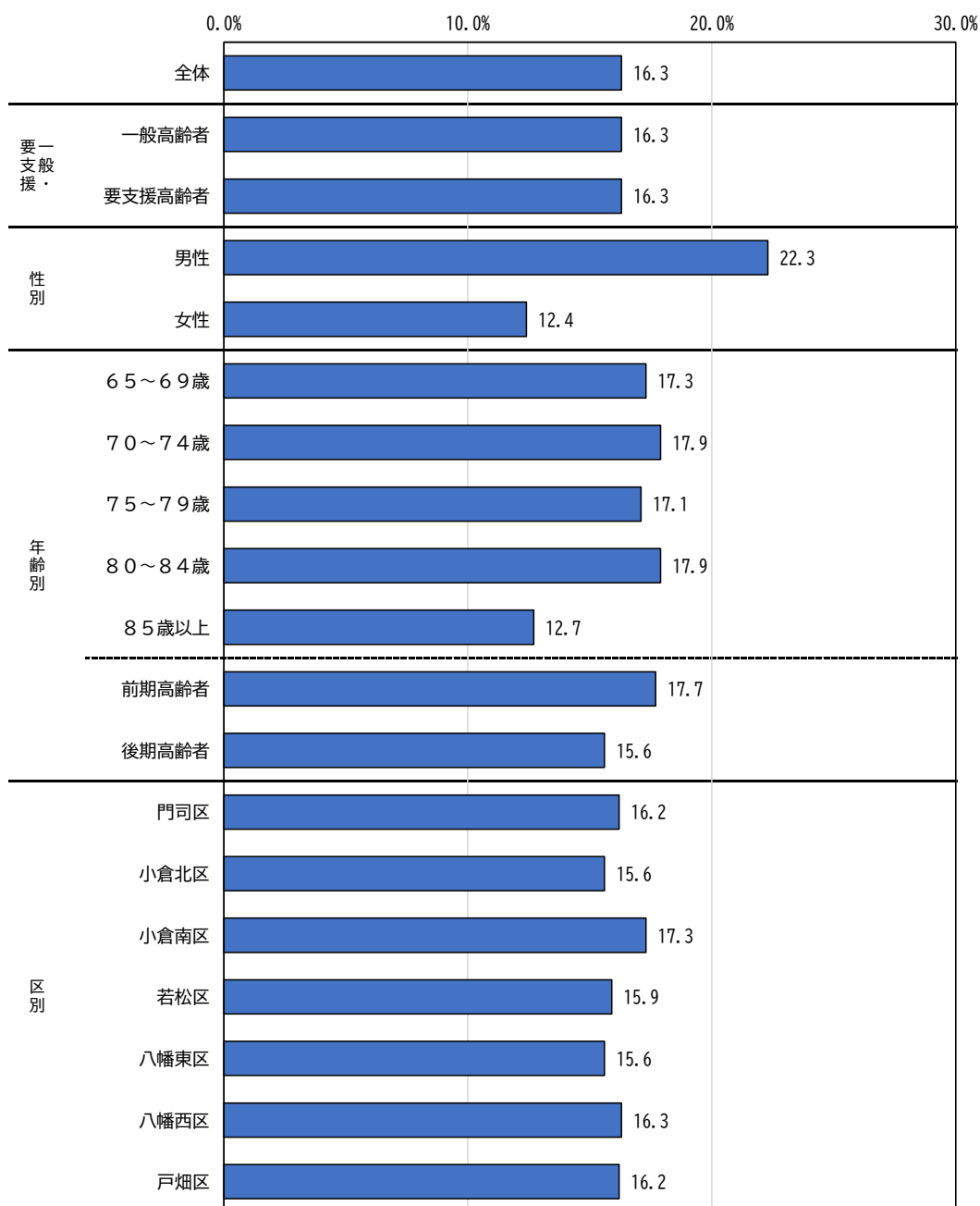
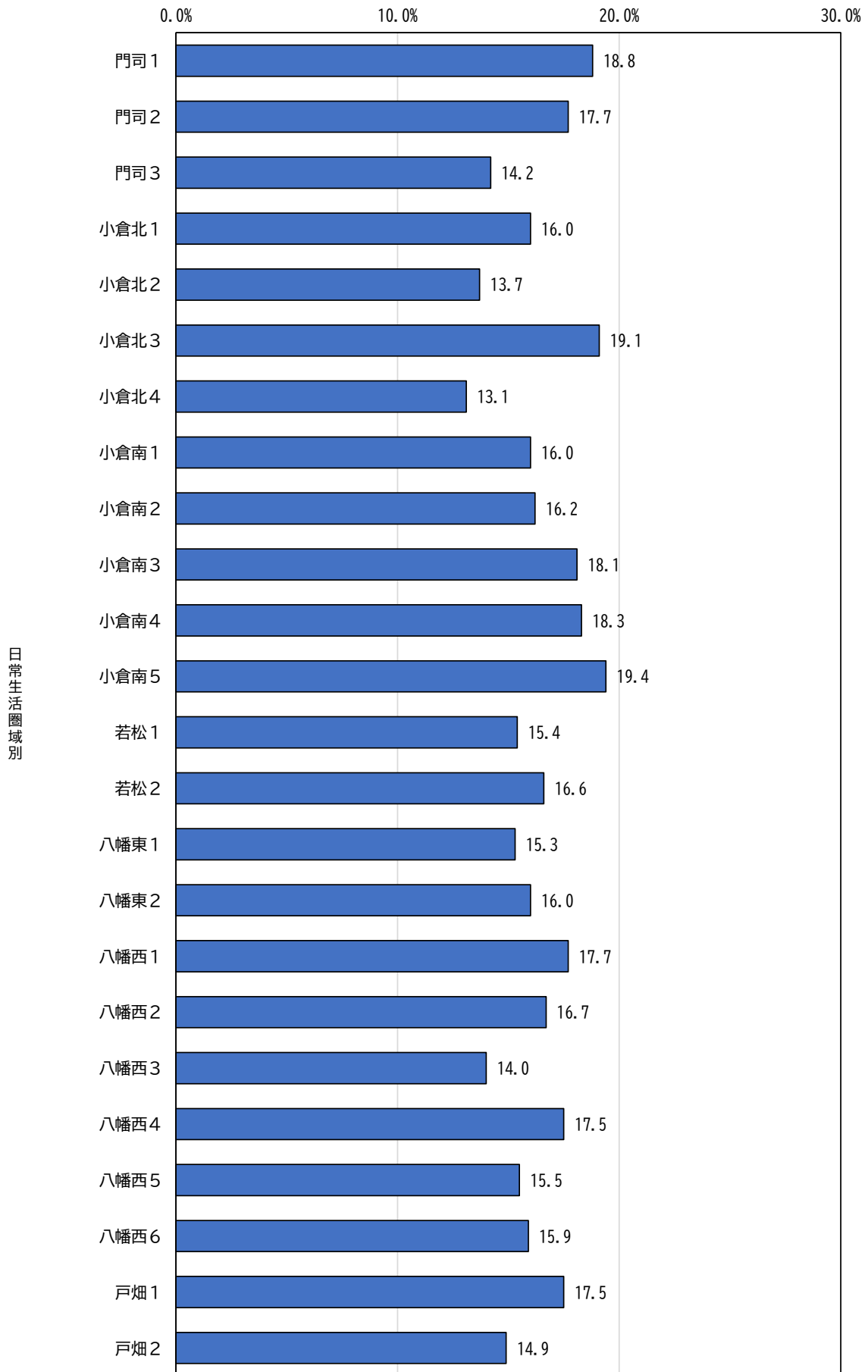


図 5-5-② 糖尿病の有病率【日常生活圏域別】



(5) 筋骨格の病気

筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）の有病率は、市全体で見ると、21.5%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が12.7%、要支援高齢者が30.1%となっており、要支援高齢者が17.4ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が8.5%、女性が29.8%となっており、女性が21.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて有病率も高くなっている。また、前期高齢者が13.6%、後期高齢者が25.5%となっており、後期高齢者が11.9ポイント高くなっている。

図 5-6-① 筋骨格の病気の有病率【全域】

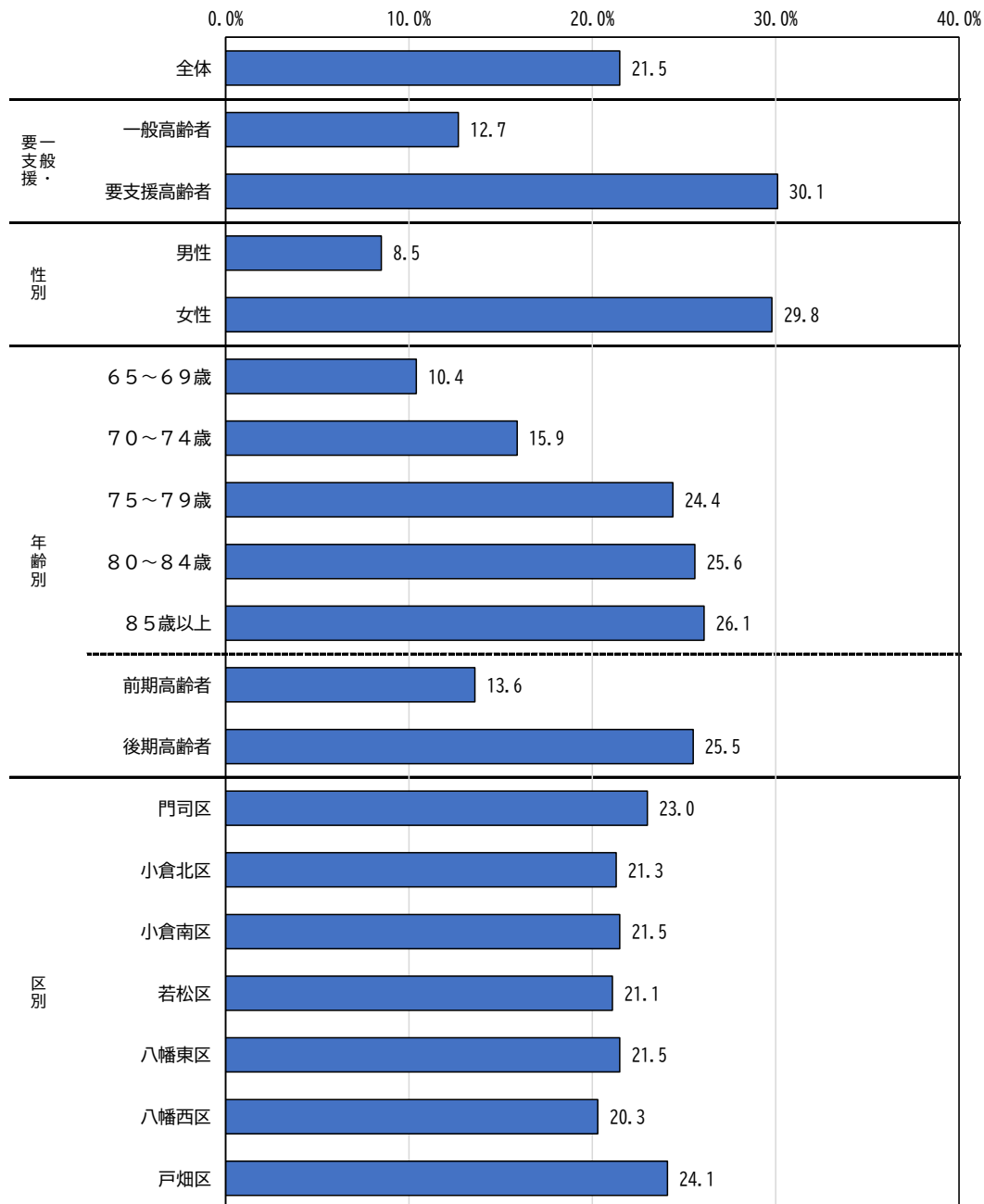
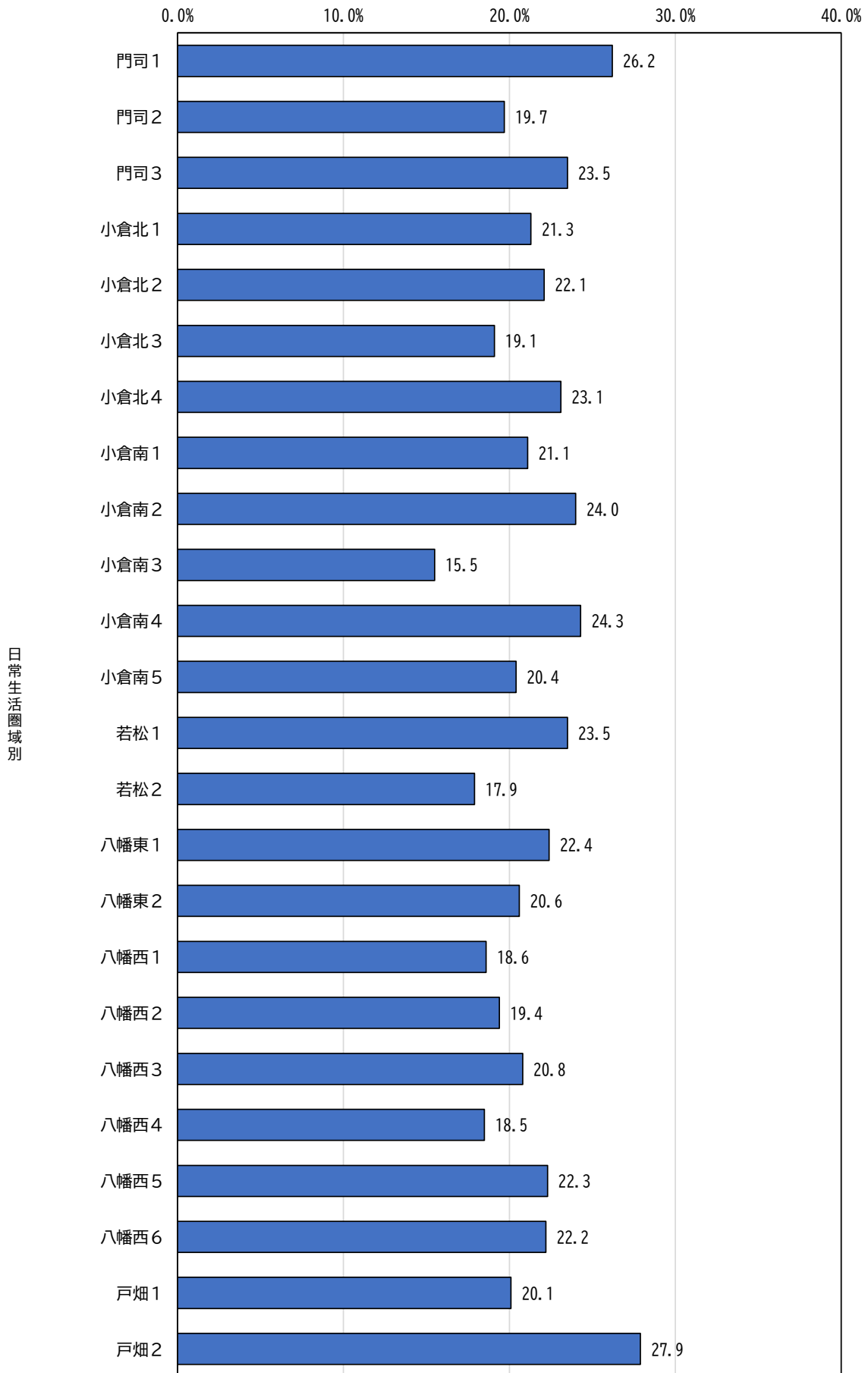


図 5-6-② 筋骨格の病気の有病率【日常生活圏域別】



(6) がん

がん（悪性新生物）の有病率は、市全体で見ると、5.9%となっている。

一般・要支援別にみると、一般高齢者が4.7%、要支援高齢者が7.0%となっており、要支援高齢者がやや高くなっている。

性別にみると、男性が6.5%、女性が5.5%となっており、男性がやや高くなっている。

年齢別にみると、65～69歳が5.2%と他の年齢層に比べてやや低くなっている。

図 5-7-① がんの有病率【全域】

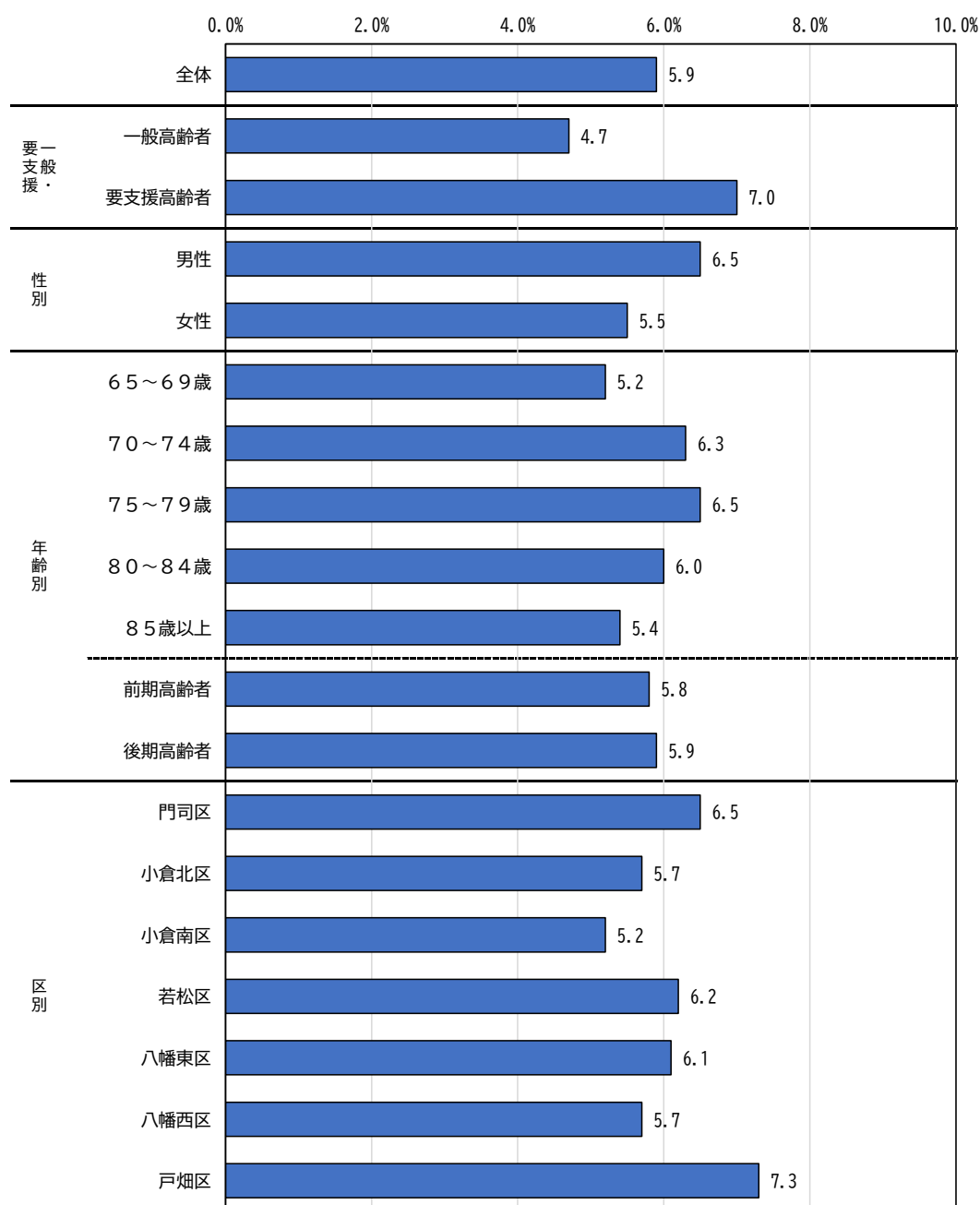
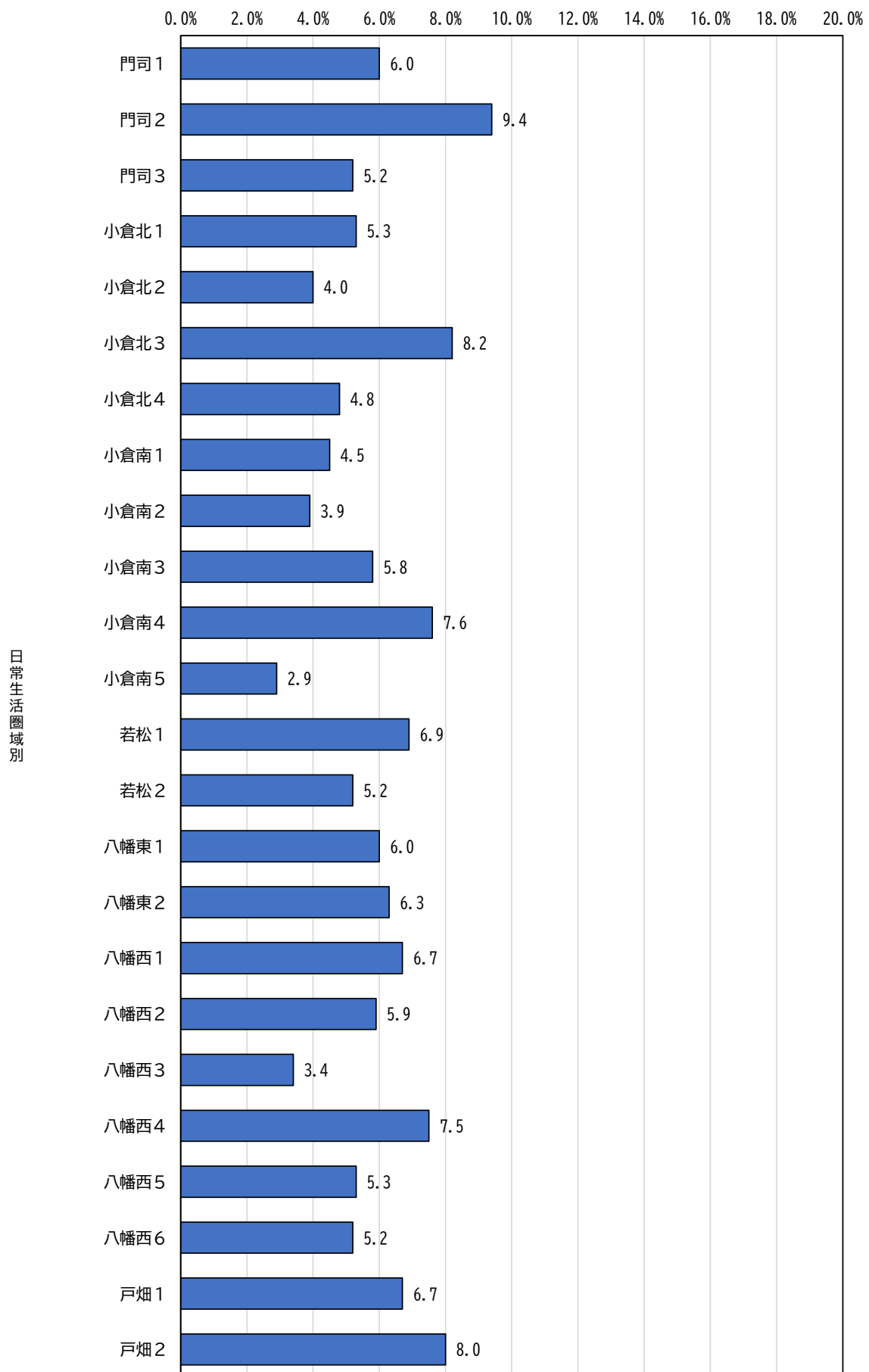


図 5-7-② がんの有病率【日常生活圏域別】



2. 主観的健康感

(1) 健康状態

問7-Q1 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

主観的健康感に関する回答結果は、市全体で見ると、「まあよい」の割合が55.9%で最も高く、次いで「あまりよくない」28.2%、「よくない」7.0%、「とてもよい」6.3%の順となっており、「とてもよい」と「まあよい」の合計（健康群）は62.2%となっている。

健康群の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者が78.0%、要支援高齢者が46.6%となっており、一般高齢者が31.4ポイント高くなっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、おおむね健康群の割合は年齢層が高くなるにしたがって低くなっており、85歳以上で53.8%となっている。また、前期高齢者が74.8%、後期高齢者が56.2%となっており、前期高齢者が18.6ポイント高くなっている。

図5-8-① 現在の健康状態 【全域】

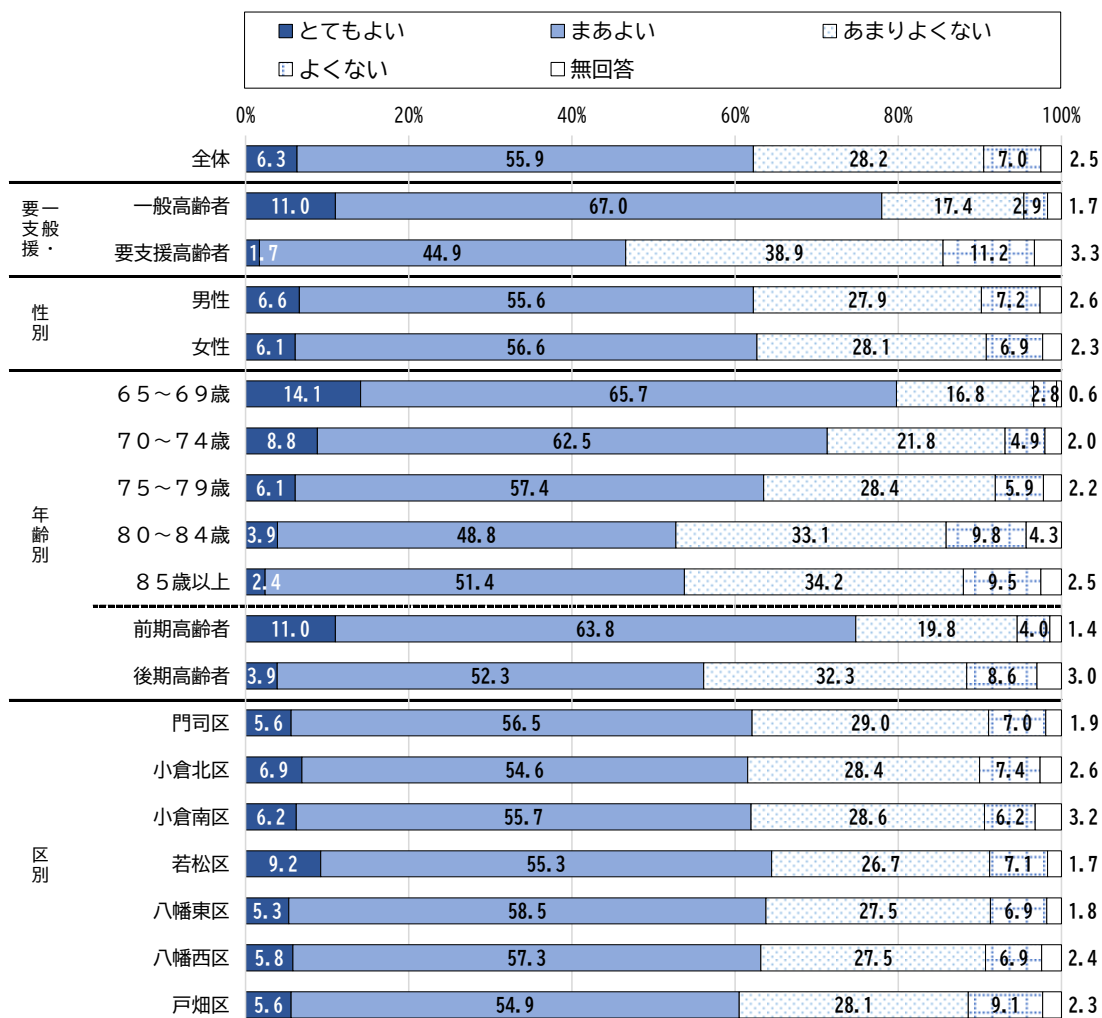
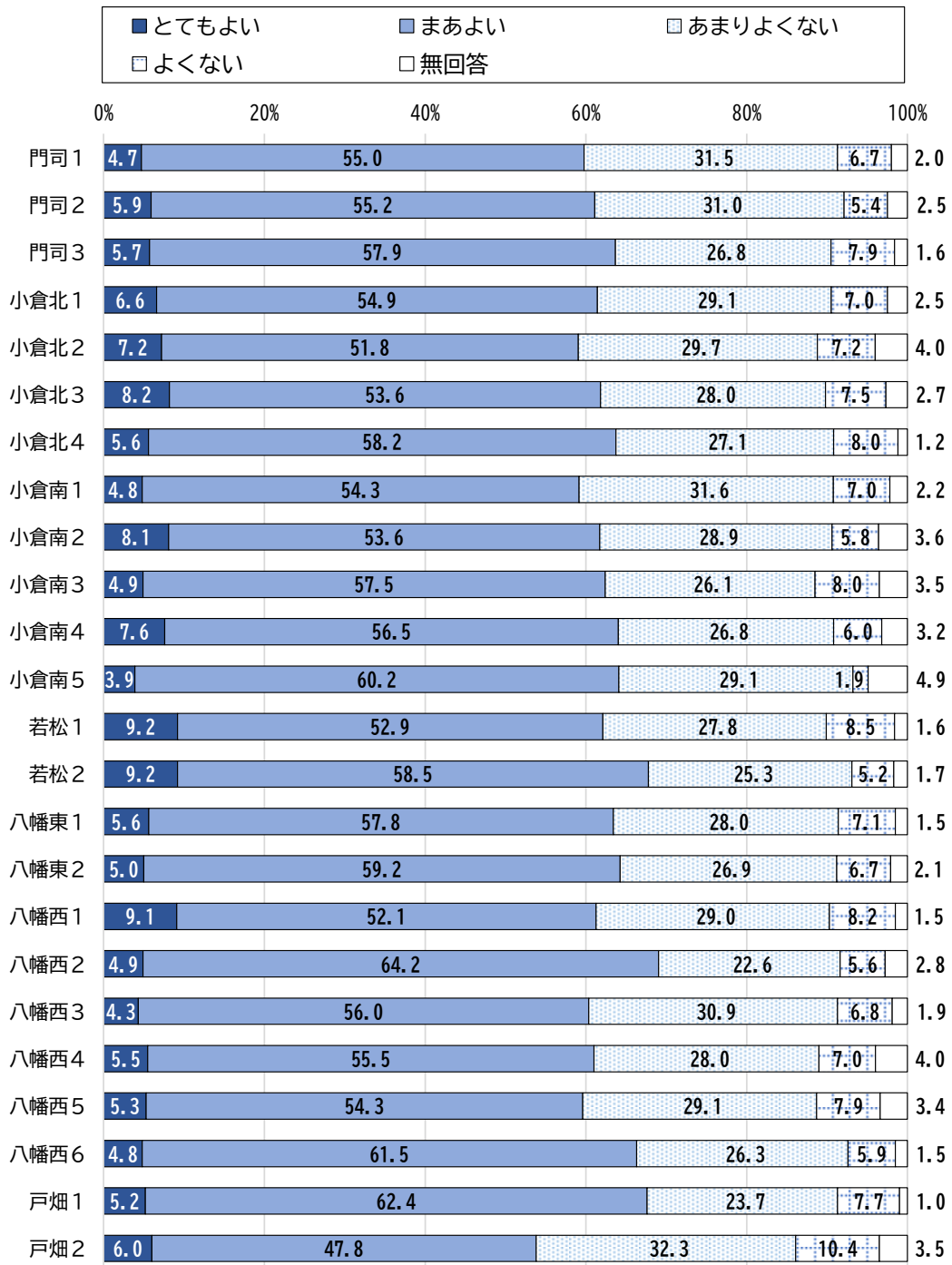


図 5-8-② 現在の健康状態 【日常生活圏域別】

日常生活圏域別



(2) 幸福感

問7-Q2 あなたは、現在どの程度幸せですか。

自身の幸福感について、「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として尋ねたところ、市全体でみると、平均値が6.9となっている。

この数値を一般・要支援別にみると、一般高齢者が7.3、要支援高齢者が6.6となっており、一般高齢者の方が平均値が高くなっている。

男女別にみると、男性が6.6、女性が7.2となっており、女性の方が平均値が高くなっている。

年齢別にみると、年齢層で大きな差はみられない。また、前期高齢者、後期高齢者ともに6.9となっている。

図5-9-① 幸福感【全域】

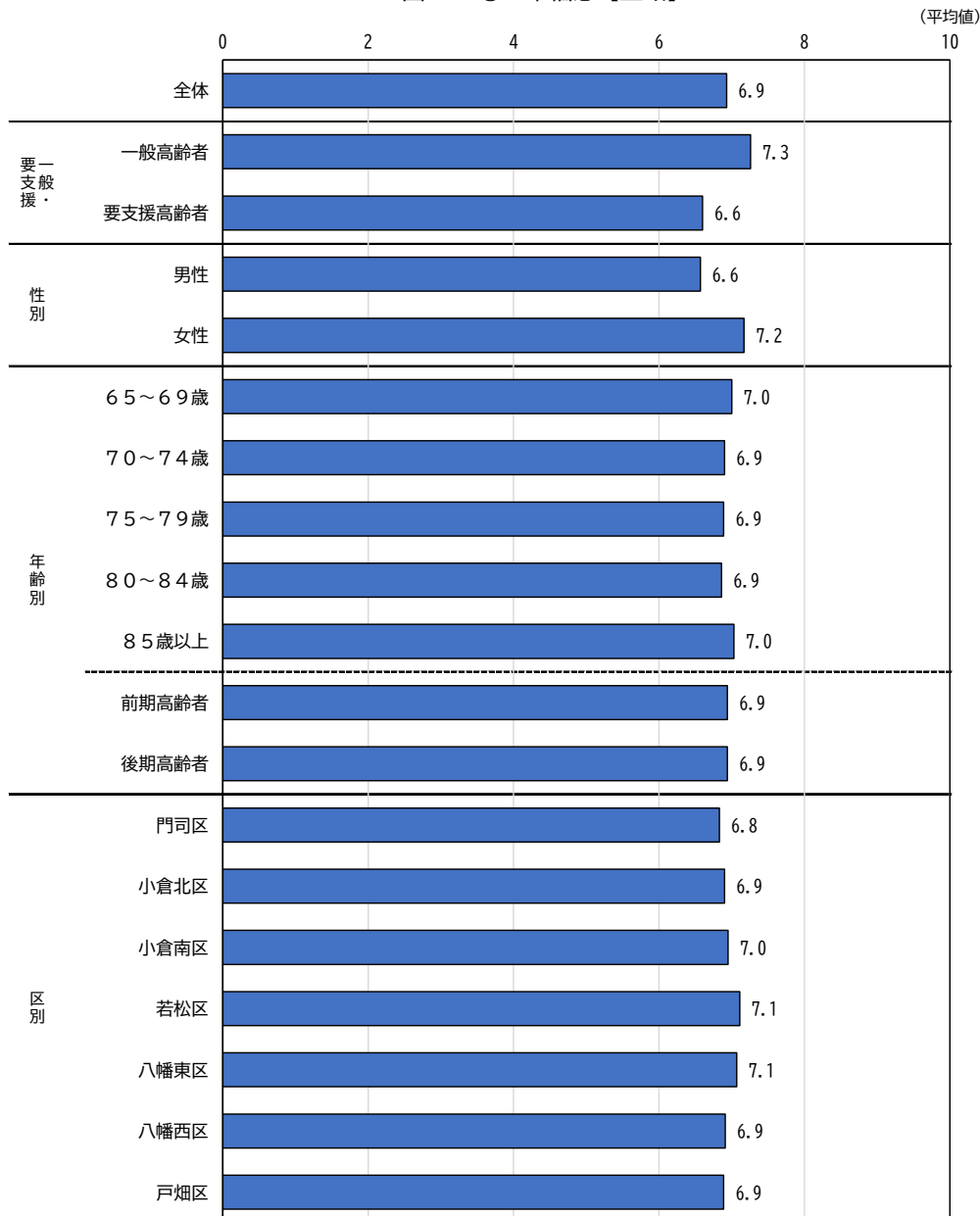
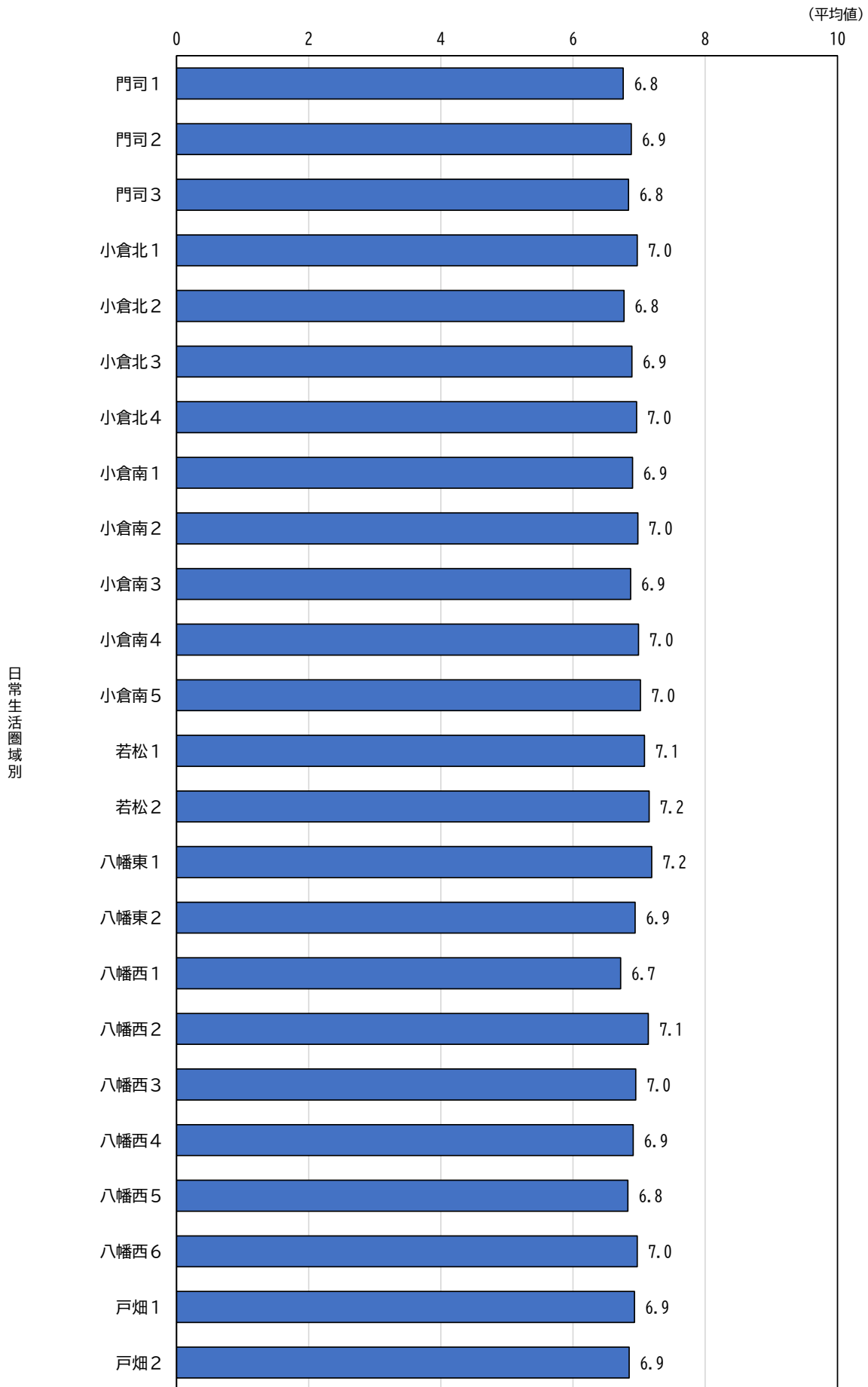


図 5-9-② 幸福感【日常生活圏域別】



第6章 介護

1. 介護・介助の状況

問1 - (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

介護・介助の状況について、市全体でみると、「介護・介助は必要ない」の割合が56.6%で最も高くなっている。次いで「現在、何らかの介護を受けている（家族などの介護）」22.8%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」18.1%となっている。

「介護・介助は必要ない」の割合を一般・要支援別にみると、一般高齢者は86.7%、要支援高齢者は26.8%となっており、一般高齢者が59.9ポイント高くなっている。

性別にみると、男性が62.0%、女性53.2%となっており、男性が8.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって割合が低くなっている。また、前期高齢者が81.2%、後期高齢者が44.0%となっており、前期高齢者が37.2ポイント高くなっている。

図6-1-① 介護・介助の状況 【全域】

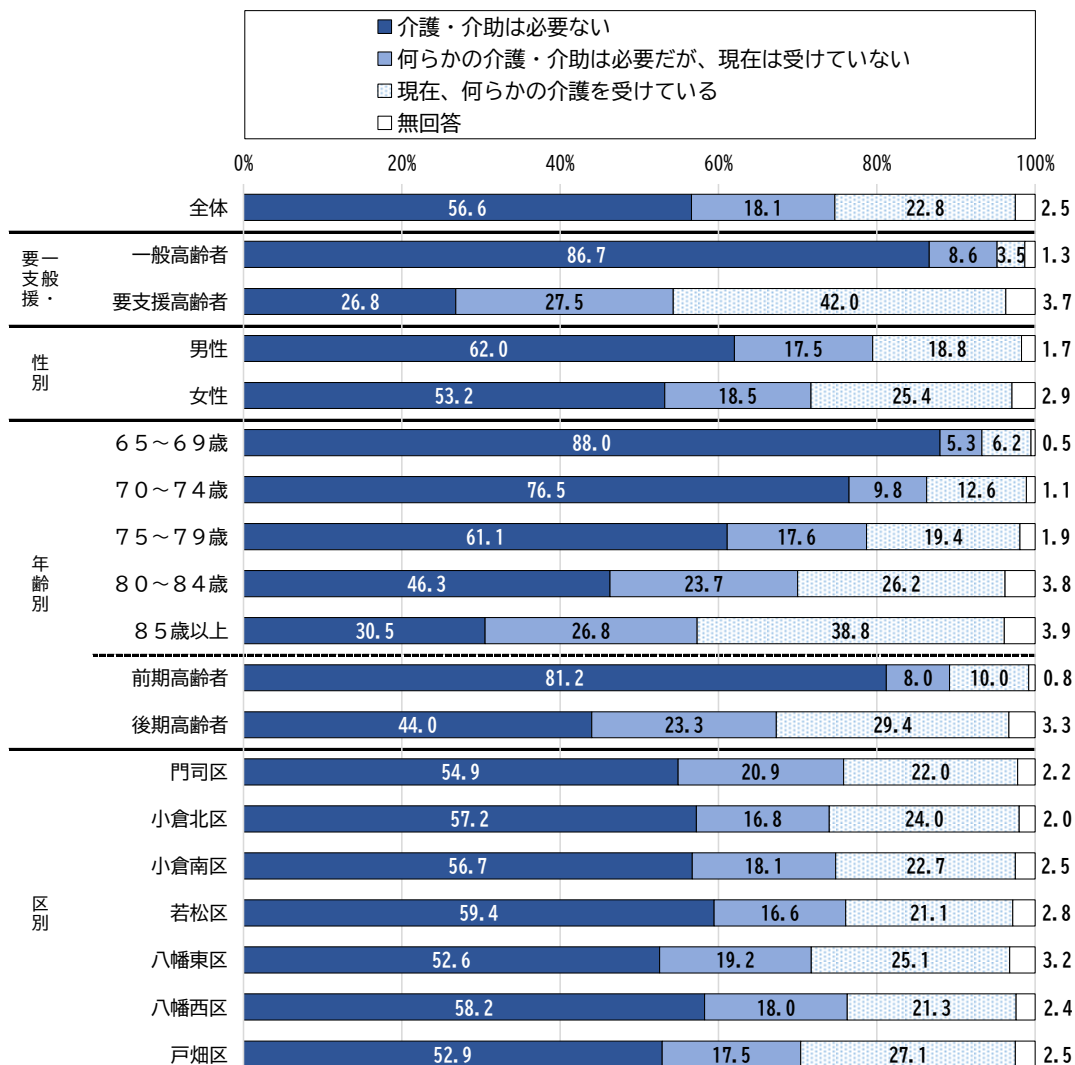


図 6-1-② 介護・介助の状況 【日常生活圏域別】

